

薬害問題に対する各大学の取組状況調査結果（令和8年度）

<学部教育における取組状況>

○薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（令和3年度～令和8年度）【総表】 1

○医学部医学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部） 2

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（医学部） 6

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(医学部) 11

○歯学部歯学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部） 17

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（歯学部） 19

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(歯学部) 21

○看護学部等

薬害問題に対する各大学の取組状況（看護学部等） 26

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（看護学部等） 35

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(看護学部等) 49

○薬学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部） 66

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（薬学部） 72

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(薬学部) 77

<附属病院における取組状況>

○カルテ開示請求の周知状況、医療情報の共有に向けた取組状況 94

○カルテの保存年限運用状況 95

薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（令和３年度～令和８年度）【総表】

学部 学科	設置区分 (R8の学部等数)	実施状況	１．薬害被害について学ぶ授業						２．薬害被害者の声を聞く授業（特別講義など）					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
医学部	国立 (42)	実施している	42	42	42	41	42	42	30	31	31	29	29	30
		検討中	0	0	0	1	0	0	5	6	7	7	7	6
		実施していない	0	0	0	0	0	0	7	5	4	6	6	6
	公立 (8)	実施している	8	8	8	8	8	8	4	5	5	5	4	3
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	3	3	1	1	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3	4
	私立 (31)	実施している	30	30	30	29	31	31	15	16	19	19	19	18
		検討中	0	0	0	2	0	0	6	7	4	7	7	8
		実施していない	1	1	1	0	0	0	10	8	8	5	5	5
	計 (81)	実施している	80	80	80	78	81	81	49	52	55	53	52	51
		検討中	0	0	0	3	0	0	13	16	14	15	15	15
		実施していない	1	1	1	0	0	0	19	13	12	13	14	15
歯学部	国立 (11)	実施している	11	11	11	11	11	11	6	7	7	7	7	7
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	4	4	4	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
	公立 (1)	実施している	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私立 (17)	実施している	17	17	17	17	17	17	10	10	10	10	10	9
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	4	4	4	3	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	4	3	3	3	4	4
	計 (29)	実施している	29	29	29	29	29	29	17	18	18	18	18	17
		検討中	0	0	0	0	0	0	6	7	8	8	7	8
		実施していない	0	0	0	0	0	0	6	4	3	3	4	4
看護 学部等	国立 (42)	実施している	40	40	40	41	42	42	25	24	24	23	24	24
		検討中	1	1	1	1	0	0	2	1	2	4	3	3
		実施していない	1	1	1	0	0	0	15	17	16	15	15	15
	公立 (53)	実施している	46	42	44	45	45	47	10	10	9	10	11	11
		検討中	3	3	4	5	6	3	18	14	17	17	18	14
		実施していない	1	6	3	2	2	3	22	27	25	25	24	28
	私立 (216)	実施している	166	172	171	188	194	194	39	40	50	53	60	61
		検討中	18	22	22	12	6	13	52	58	53	51	51	62
		実施していない	17	12	13	10	12	9	110	108	103	106	101	93
	計 (311)	実施している	252	254	255	274	281	283	74	74	83	86	95	96
		検討中	22	26	27	18	12	16	72	73	72	72	72	79
		実施していない	19	19	17	12	14	12	147	152	144	146	140	136
薬学部	国立 (14)	実施している	14	14	14	14	14	14	13	13	14	14	14	14
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	公立 (5)	実施している	5	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4	4
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	私立 (62)	実施している	60	60	60	62	62	62	51	53	54	59	55	58
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	2	1	2	2	2
		実施していない	0	0	0	0	0	0	6	5	5	1	5	2
	計 (81)	実施している	79	79	79	81	81	81	69	70	72	76	73	76
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	1	3	3	3
		実施していない	0	0	0	0	0	0	7	6	6	2	5	2

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和８年度 医学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	検討中	薬理学Ⅱ、衛生学	
2	国	旭川医科大学	○	○	人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	臨床実習序論
3	国	弘前大学	○	検討中	臨床薬理・和漢薬学	
4	国	東北大学	○	×	外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック、病理学Ⅰ	
5	国	秋田大学	○	×	生活習慣と臨床研究	
6	国	山形大学	○	○	臨床実習（演習型講義）	臨床実習（演習型講義）・薬害に関する特別講演会
7	国	筑波大学	○	○	クリニカル・クラークシップ準備学習、医学総括、医学の基礎	クリニカル・クラークシップ準備学習
8	国	群馬大学	○	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
9	国	千葉大学	○	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット/第3回/当事者体験、薬理学総論/第1回/薬理学序論、衛生学/第16回/臨床研究と医療副作用報告、有害事象報告、厚生行政	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット/第3回/当事者体験
10	国	東京大学	○	検討中	輸血学実習	
11	国	東京科学大学	○	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
12	国	新潟大学	○	○	統合臨床医学	統合臨床医学
13	国	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
14	国	金沢大学	○	○	薬理学、臨床薬理学、感染症学	医薬保健学基礎Ⅰ、Ⅱ、臨床薬理学
15	国	福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
16	国	山梨大学	○	○	臨床薬理学・薬剤学	倫理学・プロフェッショナリズム
17	国	信州大学	○	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
18	国	岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
19	国	浜松医科大学	○	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
20	国	名古屋大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
21	国	三重大学	○	×	臨床実習前集中講義	
22	国	滋賀医科大学	○	○	医学概論Ⅱ、公衆衛生学、薬物医療学	医学概論Ⅱ
23	国	京都大学	○	○	薬理学、病理学各論、社会・環境・予防医学	初年次プログラム（特別講義）「薬禍とは何か」
24	国	大阪大学	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える	

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
25	国	神戸大学	○	○	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習	初期体験臨床実習
26	国	鳥取大学	○	検討中	医学史、社会環境医学、治療学、臨床医学特論	
27	国	島根大学	○	○	基礎薬理学、臨床薬理学	臨床薬理学・特別講義
28	国	岡山大学	○	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
29	国	広島大学	○	○	社会医学、社会医学	社会医学
30	国	山口大学	○	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義
31	国	徳島大学	○	○	基礎医学（1）、臨床実習入門	基礎医学（2）、臨床実習入門
32	国	香川大学	○	○	医療プロフェッショナリズムの実践	薬害被害者の声を直接聴く特別講義
33	国	愛媛大学	○	○	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学	人間と医療
34	国	高知大学	○	×	臨床薬理学	
35	国	九州大学	○	○	薬害	薬害
36	国	佐賀大学	○	○	社会医学・社会法制	医療入門Ⅰ
37	国	長崎大学	○	○	感染系、感染症系、消化器系	医と社会Ⅲ
38	国	熊本大学	○	○	臨床医学Ⅱ（消化器）	臨床医学Ⅱ（消化器）
39	国	大分大学	○	○	医療倫理学Ⅲ、医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ
40	国	宮崎大学	○	検討中	薬剤処方・東洋医学、薬理学	
41	国	鹿児島大学	○	検討中	地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学、消化器、呼吸器、感覚器	
42	国	琉球大学	○	×	臨床薬理学、皮膚結合組織系、臨床実習(皮膚科)	
43	公	札幌医科大学	○	○	社会学、薬理学	医学概論・医療総論4
44	公	福島県立医科大学	○	×	薬害から学ぶ	
45	公	横浜国立大学	○	検討中	薬理学、アレルギー・膠原病学、皮膚科学、消化器内科学	
46	公	名古屋市立大学	○	×	薬害についてー薬害エイズを例にー	
47	公	京都府立医科大学	○	×	薬理学	
48	公	大阪公立大学	○	×	生体と薬物	
49	公	奈良県立医科大学	○	○	薬理学、衛生学・公衆衛生学Ⅱ、VOP講座	衛生学・公衆衛生学Ⅱ、VOP講座

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
50	公	和歌山県立医科大学	○	○	ケアマインド教育、薬害問題特別講義	ケアマインド教育、薬害問題特別講義
51	私	岩手医科大学	○	○	医療入門、医療と法律	全人的医療基礎講義
52	私	東北医科薬科大学	○	○	衛生学、公衆衛生学、薬理学	ハンディキャップ体験演習
53	私	自治医科大学	○	検討中	臨床薬理学	
54	私	獨協医科大学	○	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
55	私	埼玉医科大学	○	○	薬理総論、診療の基本	ヒトの病気コース消化器ユニット
56	私	国際医療福祉大学	○	○	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）
57	私	杏林大学	○	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
58	私	慶應義塾大学	○	×	薬理学、臨床薬剤学	
59	私	順天堂大学	○	○	医学研究入門Ⅰ、薬理－１：薬の作用	G9-特別講義
60	私	昭和医科大学	○	×	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門	
61	私	帝京大学	○	×	医療法学・医療倫理学の基礎、医療法学・医療倫理学	
62	私	東京医科大学	○	○	薬理学、医療倫理	医療倫理
63	私	東京慈恵会医科大学	○	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
64	私	東京女子医科大学	○	○	入門型臨床実習(薬物治療の安全確保と適正化)、選択科目・医療人のための法学・薬害と法、S3「治療の基礎」毒物の応用、S3「治療の基礎」薬理学実習	薬害を考える「看護学部生と考える」ワークショップ
65	私	東邦大学	○	○	全人的医療人教育1倫理	全人的医療人教育1倫理
66	私	日本大学	○	○	社会医学演習	社会医学演習
67	私	日本医科大学	○	○	社会学、社会学、人文社会科学（法学）、医事法学、医事法学、医事法学、薬物・放射線と生体（2年生）、薬物・放射線と生体（3年生）、呼吸器、消化器	医事法学
68	私	北里大学	○	○	臨床実習入門	臨床実習入門
69	私	聖マリアナ医科大学	○	検討中	薬理学、薬理学	
70	私	東海大学	○	×	クリニカルクラークシップ（血液腫瘍内科学領域）のクルズス	
71	私	金沢医科大学	○	検討中	生体と薬物、臨床実習準備プログラム	
72	私	愛知医科大学	○	検討中	薬理学	
73	私	藤田医科大学	○	検討中	生老病死の人間学、生命倫理学、発生学、人体を構成する物質と化学反応、生体と薬物、病気と生体応答、ウイルス・寄生虫と感染、消化器系、膠原病系、臨床研究入門	
74	私	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職

1.薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和8年度 医学部）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
北海道大学	×	薬理学Ⅱ、衛生学	
旭川医科大学	×	人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	
弘前大学	○	臨床薬理・和漢薬学	臨床薬理・和漢薬学
東北大学	○	外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック、病理学Ⅰ	外科・麻酔・救急・輸血ブロック
秋田大学	×		
山形大学	×		
筑波大学	○	クリニカル・クラークシップ準備学習	クリニカル・クラークシップ準備学習
群馬大学	×	臨床薬理学総論	
千葉大学	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット/第3回/当事者体験、薬理学総論/第1回/薬理学序論、衛生学/第16回/臨床研究と医療副作用報告、有害事象報告、厚生行政	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット/第3回/当事者体験、薬理学総論/第1回/薬理学序論
東京大学	×	輸血学実習	
東京科学大学	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
新潟大学	○	統合臨床医学	統合臨床医学
富山大学	○	医療学入門	医療学入門
金沢大学	○	薬理学、臨床薬理学	臨床薬理学
福井大学	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	臨床薬理学・薬剤学	臨床薬理学・薬剤学
信州大学	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
岐阜大学	○	医学概論	医学概論

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
浜松医科大学	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
名古屋大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
三重大学	×	臨床実習前集中講義	
滋賀医科大学	○	医学概論Ⅱ、公衆衛生学、薬物医療学	医学概論Ⅱ、公衆衛生学
京都大学	○	薬理学、病理学各論、社会・環境・予防医学	薬理学、社会・環境・予防医学
大阪大学	×		
神戸大学	○	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習
鳥取大学	○	医学史、治療学、臨床医学特論	医学史
島根大学	×	基礎薬理学、臨床薬理学	
岡山大学	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
広島大学	○	社会医学	社会医学
山口大学	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義、臨床薬理学
徳島大学	×	臨床実習入門	
香川大学	○	医療プロフェッショナリズムの実践	医療プロフェッショナリズムの実践
愛媛大学	○	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学
高知大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
九州大学	○	薬害	薬害
佐賀大学	×		
長崎大学	×	感染系、感染症系、消化器系	
熊本大学	○	臨床医学Ⅱ（消化器）	臨床医学Ⅱ（消化器）

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
大分大学	○	医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ、皮膚
宮崎大学	○	薬剤処方・東洋医学、薬理学	薬理学
鹿児島大学	×	地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学、消化器、呼吸器	
琉球大学	×	臨床薬理学、皮膚結合組織系	
札幌医科大学	○	社会学、薬理学	社会学、薬理学
福島県立医科大学	○	薬害から学ぶ	薬害から学ぶ
横浜市立大学	×	薬理学	
名古屋市立大学	○	薬害についてー薬害エイズを例にー	薬害についてー薬害エイズを例にー
京都府立医科大学	○	薬理学	薬理学
大阪公立大学	×		
奈良県立医科大学	○	薬理学、衛生学・公衆衛生学Ⅱ、VOP講座	衛生学・公衆衛生学Ⅱ、VOP講座
和歌山県立医科大学	○	ケアマインド教育、薬害問題特別講義	ケアマインド教育、薬害問題特別講義
岩手医科大学	○	医療入門	医療入門
東北医科薬科大学	○	衛生学、公衆衛生学、薬理学	衛生学、公衆衛生学、薬理学
自治医科大学	×		
獨協医科大学	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
埼玉医科大学	×		
国際医療福祉大学	○	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）
杏林大学	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
慶應義塾大学	○	薬理学	薬理学

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
順天堂大学	○	医学研究入門I、薬理－１：薬の作用	医学研究入門I、薬理－１：薬の作用
昭和医科大学	○	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門
帝京大学	×	医療法学・医療倫理学の基礎、医療法学・医療倫理学	
東京医科大学	○	薬理学、医療倫理	薬理学、医療倫理
東京慈恵会医科大学	○	医学総論Ⅱ 演習	医学総論Ⅱ 演習
東京女子医科大学	○	選択科目・医療人のための法学・薬害と法、S3「治療の基礎」毒物の応用、S3「治療の基礎」薬理学実習	選択科目・医療人のための法学・薬害と法、S3「治療の基礎」薬理学実習
東邦大学	○	全人的医療人教育1 倫理	全人的医療人教育1 倫理
日本大学	○	社会医学演習	社会医学演習
日本医科大学	○	社会学、人文社会科学（法学）、医事法学、薬物・放射線と生体（２年生）、薬物・放射線と生体（３年生）	社会学、人文社会科学（法学）、医事法学、薬物・放射線と生体（２年生）、薬物・放射線と生体（３年生）
北里大学	○	臨床実習入門	臨床実習入門
聖マリアンナ医科大学	○	薬理学	薬理学
東海大学	×		
金沢医科大学	○	生体と薬物、臨床実習準備プログラム	臨床実習準備プログラム
愛知医科大学	○	薬理学	薬理学
藤田医科大学	○	生老病死の人間学、消化器系、膠原病系	生命倫理学、消化器系、膠原病系
大阪医科薬科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
関西医科大学	○	臨床実習入門 P4c(2)	臨床実習入門 P4c(2)
近畿大学	○	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	医学からみた現代社会と倫理
兵庫医科大学	○	医療安全管理と薬害	医療安全管理と薬害、医療入門
川崎医科大学	○	臨床実習Ⅳ・Ⅴ	臨床実習Ⅳ・Ⅴ

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
久留米大学	×	薬理学 I	
産業医科大学	○	医療社会学、薬理学、公衆衛生学	医療社会学、薬理学、公衆衛生学
福岡大学	×		

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
旭川医科大学	臨床実習序論	4年次	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の医療安全に関する意識が高まることを期待する。	実施前のため現時点では回答不可。	実施なし
山形大学	臨床実習（演習型講義）・薬害に関する特別講演会	5年次	未定	未定	被害者の直接の話を聞くことで、安全確保の重要性を強く理解することができる。	普段接する機会のない薬害被害者から直接話を聞くことで、薬害について理解し、医師という職業について改めて考える良い機会となっている。	実施なし
筑波大学	クリニカル・クラークシップ準備学習	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者から、直接薬害による苦痛（身体的・精神的・社会的）を聞くことができるので、インパクトが強い。学生が今後このような場面に直面することがあるため、将来医師として、責任意識を強く持つことができる。	学生の感想（抜粋）： ・実際に被害を受けた人たちが自らの経験を伝えることは、薬害を現実の問題として考えるきっかけになる。 また、この活動は、薬を正しく使うことの大切さや、情報を自分で確かめる姿勢を学ぶ機会にもなると思う。近年では、インターネットやSNSでさまざまな医療情報が広がっているため、正しい知識を持つことが重要である。被害者の声には重みがあり、教科書だけでは学べない命の大切さや社会の責任について深く考えさせられる。 ・薬害被害は、奇形が生じた本人だけでなく、その周囲の者の人生にも影響を及ぼしたことからも、科学的問題ではなく、社会問題であることを強く感じさせる。科学ベースの医学ではあるが、医療は社会ベースであることを再認識させられた。一方で、眼差しや対応や支援によっては、一人の人間として、幸せに生きていけることができる、ということがご本人自身がおっしゃられるというのは、第三者の口からや教科書からは得られない、非常に何か重いものがあると感じた。以前、先生が我々医学生に、一冊でもいいから読書記を読むべきとおっしゃられていたのは、こういうことなのかもしれない、と思った。改めて、全人的医療とは何か、「病気を診ずして病人を診よ」とは何か、を考えさせられた。 ・薬害は単なる副作用ではなく、被害者の人生そのものを大きく変えてしまう問題である。そのため、医療従事者には知識や技術だけでなく、患者に寄り添う姿勢と倫理観が必要だと改めて感じた。	実施なし
群馬大学	臨床薬理学総論	3年次	本人	サリドマイド事件	薬害が、被害者本人の身体的健康だけでなく、家族関係や社会との関係にも大きく影響することを実感できる。	実体験の話に強い印象を受ける学生が多い。医師としての責務について改めて考える機会になっている。	実施なし
千葉大学	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット/第3回/当事者体験	1年次	本人	サリドマイド	専門職連携教育において薬害が生じていく社会的ダイナミクスを、各職種（学生の）立場から考察することができる。将来現場で薬害の危険が予測されたとき、専門職としてのふるまい方を考察できる。	サリドマイド薬害被害者の方の講演会や患者会についての話を聞いて、患者さんが医療従事者に望むことを具体的に理解することができた。「サリドマイド薬害は人災である」という言葉が強く印象に残った。用法・用量によっては毒にもなってしまう薬の扱いに対して、大きな責任があることが分かった。	実施なし
東京科学大学	包括医療統合教育	6年次	本人	薬害一般	患者の立場から生の声を聞くことができ、理解が一層深まること。	総じて有意義との感想を抱く学生が大半だった。	複数の種類の薬害については今後検討予定である。
新潟大学	統合臨床医学	3年次	本人	HIV感染症	薬物治療には副作用という負の側面が存在し、過去にも薬害という形でたびたび問題となっている。実際に薬害の被害に会われた患者の声を直接聞くことにより、なぜこのような事態が起きたのか、再発をどうすれば防げるのか、学生自身の医学への取り組みを見つめ直す機会となる。	「何かを勉強するにあたって、実際に現地に赴くことや、当事者の話を聞くことができるのは、一番の勉強であるし、貴重なものでした。薬害被害の事実だけでなく、これからの医療を担う自分たちに向けて、望む医師のあるべき姿を聞けて、大変参考になりました。」 「医学の勉強をする上で病気について、文字での情報で知ることばかりでは実際に病気にかかっている人の苦悩、さらに薬物被害の被害者となられた患者さんの苦しみを直接知り、また、想像するようないい機会でもありませんでした。講師の先生の体験をもとに話された薬物被害の講義は、今まで考えていなかった薬物被害に遭われた患者さんの感情、不安、差別などを考えるいい機会となりました。本講義を経て、医療行為により患者さんに不利益が生じないためにも医療関連の職種で協力していくことで未然に薬物被害を抑えていく社会となること、また薬物被害に遭われた方々の苦しみを理解し、生きていきやすいより良い社会となることを願うとともに、自分自身でもできることは、たとえ小さなことであつたとしてもやっていきたいと思いました。薬物被害に対して、深く考える機会をくれる実体験をもとにした講義をしていただきありがとうございます。」 以上に代表されるように、授業を受けた全学生が講師の心に共感し、学生自身の医学への向き合い方を考え直す良い機会になっている。	実施なし

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	・医療学入門 医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1）患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2）一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3）無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4）社会正義の視野を培う。正義原則。 5）弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6）友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	・医療学入門 大変良い。課題としてレポートを提出させているが、それぞれが皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	・医療学入門 初学者のうちに、多面的な角度から薬害について、学び考えることができるのは、これから専門教育を受ける上での礎となることが期待できる。
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマイド	被害者の方をお招きして直接話を伺うことにより、薬害の被害の大きさや原因・実態だけでなく、被害者やその家族に対する対応の歴史や偏見等、人権問題について具体的に知ることができ、また、将来医療従事者になる者として薬害問題への向き合い方を考える貴重な機会である。	1. 薬害の科学的メカニズムと構造的課題（人災）への理解 新薬の予期せぬ副作用を証明するには「被害の蓄積」とデータ分析に10年前後の歳月を要するという医療の構造的限界に衝撃を受けた。動物実験では予見できなかった未知の身体へのリスクや、当時のずさんな審査体制、さらに海外の警告後も「科学的根拠の不在」を理由に回収を10ヶ月以上遅らせた国の対応から、薬害が「防げたはずの人災」であることを深く学んだ。 2. 未知の身体への臨床的配慮と患者の人生に寄り添う医療観 当事者から「未知の身体で生きる恐怖」や、外見の障がいだけでなく加齢に伴う内臓疾患、がんのリスク、神経走行の異同による麻酔の効きにくさといった臨床的な実態を聴き、強い危機感を持った。「単に疾患を治療するだけでなく、患者が望む人生を送り幸せになるためのサポートをする」という海外の視点にも触れ、医療倫理や医師としての向き合い方を再考する契機となった。 3. 将来の医師（医療の担い手）としての責任とリスク管理への覚悟 「医療者は薬害の加害者にもなり得る」という言葉の重みを受け止め、医師自らが常にアンテナを高く張り、小さな違和感（症例の異変）を見逃さない臨床的センスの重要性を自覚した。また、サリドマイドが現在「多発性骨髄腫の治療薬」として再承認されている現状を踏まえ、医療におけるリスクとベネフィットを厳格に管理・運用し、悲劇を風化させずに二度と繰り返さないという強い決意が示された。	実施なし
山梨大学	倫理学・プロフェッショナリズム	3年次	本人	実施前	当事者の声を聴くことにより、薬害及びそれに伴う差別・偏見等についてより理解を深めることができる。	現時点で実施前。	実施なし
信州大学	臨床実習前集中講義	4年次	本人	薬害肝炎	・二度と同じ過ちを繰り返さないために、医学生が単なる過去の出来事（他人事）として捉えるのではなく、どうして被害が出てしまったのか、どうすれば防げたのか、そこに自分がいたら何ができたろうか等を自分事として捉えることができる良い機会であること。 ・被害者から直接話を聞くことによって被害者の痛みや苦しみ、思いを知ることができ、二度とこのような被害者を出さないためにどのように医療に向き合っていくのかを考える良い機会であること。	（昨年度の学生の感想をまとめたものです） ・医薬品安全への自覚： 慣例的な処方の恐ろしさを知り、エビデンスに基づき慎重に薬を扱う責任を強く実感した。 ・人生への基大な被害： 出産時の感染や我が子との分離など、患者の人生を大きく狂わせる薬害の残酷さに胸を痛めた。 ・言葉や対応の配慮： 医療側の過剰な感染対策や配慮のない発言が、患者を差別的に深く傷つける事実にはとさせられた。 ・目指す医療者像： 疾患名ではなく「一人の人間」として患者に向き合い、気持ちに寄り添える誠実な医師になりたいと決意した。	実施なし
岐阜大学	医学概論	1年次	本人	市販薬の薬害／サリドマイド	薬害の歴史、行政等の対応、社会的偏見や被害者の心情等に関する理解を深めることができる。 学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。 医療従事者として、患者との関係や心構えを学ぶことができる。	初めて薬害というものに触れる学生も多くおり、実体験を聞くことで今後の医療従事者となる自身の糧とすることができている。	これまで、様々な薬害被害が繰り返されてきたこと、将来医療従事者となる学生に対し、将来の現場でこのような惨禍を起こさない心構えを学ばせることができる。
浜松医科大学	医学概論 I	1年次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、医師となるうえでの心構えを学ぶ機会となる。	令和8年9月4日実施予定	令和8年9月4日実施予定
名古屋大学	臨床薬理学	4年次	本人	薬害肝炎	被害者の声を直接聞く授業はインパクトがあり、将来の医薬品適正使用の推進や薬害防止に有効である。	感想文を提出させているが、大半の学生が薬害の怖さを実感しており、薬害防止について真剣に考える良い機会となっている。	薬害肝炎以外の薬害については、担当教員が各薬害の概要を講義している。薬害被害者による講義と連続して実施することにより、薬害防止の重要性の認識が高くなっている。

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果 果
滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	1年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害	医学部医学科入学初年次の学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、日常生活を送るうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどうに受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会は少ない。しかしながら、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生の薬害被害の問題について自ら考える機会を得ることができ、将来医師として医療に携わることを想定すると有意義である。	例年、後期に当該特別講義を実施するため、令和8年度は未実施であるが、参考までに令和7年度までの講義実施後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指すものとしての自覚が深まった。」、「被害者の方への意識を持つことの重要性を認識できた。」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた。」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解している。	実施なし
京都大学	初年次7「Q」ラム（特別講義） 「薬禍とは何か」	1年次	本人	サリドマイド	被害者本人が薬害によって強いられた自分や家族の人生・生活について直接話を聞くことにより、学生には、医療行為がもたらす可能性のある被害について、心に刻む機会になると思われる。	学生たちは真剣な態度で被害者の話に耳を傾けていた。学生からは、薬害の悲惨さを聴き、薬害は人災であり、医療従事者となる責任を喚起されたとの感想が多く見られた。また多くの学生が、この授業が有意義であったと評価している。	実施なし
神戸大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド	学生に医療行為の危険性について教えることができる。学生が将来行うであろう医療行為における責任の重さを認識できる。	サリドマイドのような薬害事件は知識や対策が不十分だった過去の過ちという認識だったが、新しい薬や治療法が生み出されている現在において、いつ起こってもおかしくない身近なものと分かった。	実施なし
島根大学	臨床薬理学・特別講義	3年次	本人	薬害HIV	薬害について学生の理解が深まったうえに、薬の危険性とそれを使用する側、管理する行政、販売する製薬メーカー等の責任の重要性を理解できるようになること。併せて将来の医療人としての自覚と責任感がめばえたように感じる点。	客観的かつ冷静に、しかし一方で被害者の方の声を学生さんに伝えていただいていることもあり、学生さんの評判は良い。「薬害が深く理解できた」「医療人としての責任感を感じた」「薬害防止のために自分にできることを考えたい」「被害者の方の救済を手助けしたい」、など非常に肯定的な意見が殆どであった。	基本的に被害者の方からの講義は薬害エイズであるが、他の薬害については歴史と経緯、という形で講義で紹介している。それぞれの薬害発生についてはその背景と経緯が異なるので、簡単でも良いので複数の薬害について知っておいたほうが良い。
岡山大学	脳神経系（臓器・系別統合講義）	4年次	本人	スモン	将来、医師として薬を処方する立場となる学生に対し、薬害の影響の大きさをリアルに感じさせることができる。また、どのように患者様と向き合っていくべきかを考えるきっかけとなる。	講義中は患者様の声を真剣に聞いており、講義のレポートを見ても、医師としての責任を深く考えるきっかけとなった様子がうかがえる。	実施なし
広島大学	社会医学	3年次	本人	薬害HIV感染、血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染、輸血による感染、など	学生が医療の被害者となった患者の声を直接聞くことができ、より身近な問題として考えることができる。	自分が将来医者になった時を想定して、興味を持って聞いているように思う。	フィブリノーゲン、サリドマイド、肝炎など、複数の薬害の講義を行っており、学生にとってより多角的に考えることができる。
山口大学	基盤系特別専門講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害の歴史を具体的に知ることができ、学生にとって考えるよい機会となっている。	学生からは薬害の被害について真摯に受け止め、医療人として正しい知識を身に着けて被害を減らしていきたいという積極的な意見が多くみられた。	毎年、異なる薬害被害のご本人にご講義いただいております。学生は、講師の方との質疑応答を含め、ご当事者の想いを傾聴する姿勢や薬害の様々な作用、さらに薬害に係る国の救済制度への認識を深めている。
徳島大学	基礎医学（2）	3年次	家族	B型肝炎	薬害被害者から直接話を聞くことによって、薬害の実態やその背景についてより深く考えることができ、医療事故防止の重要性を認識させることができる。	「医療とは病気を治すだけではなく、患者の人生に関わることなのだと感じた」、「医療に携わる者として常に現状を疑い、安全性を追求し続ける姿勢の重要性を強く感じた」など医療人としての自覚が高まった。	実施なし
	臨床実習入門	4年次	家族	B型肝炎			
香川大学	薬害被害者の声を直接聴く特別講義	5年次・6年次	本人	血友病 薬害エイズ等	薬害被害者本人の声を直接聴くことは、教科書的な講義とは異なるインパクトを与えることができる。また、近い将来医師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方等を改めて考えさせられる貴重な機会となる。	薬害エイズの歴史を学び、正しい医学知識を持つことの重要性を強く感じたといった感想があった。	5年次生と6年次生において、事例の異なる薬害の特別講義を受講することにより、より理解が深まるとともに、繰り返し聴かせることで薬害防止への意識を高めることができる。
愛媛大学	人間と医療	4年次	本人	予防ワクチンによるB型肝炎	薬害肝炎、B型肝炎感染者の生の声を聞くことで、その実態を具体的に把握してもらう良い機会となる。これまで、感染当時に医師より言われた一言に傷ついた体験、また精神的に救われた医師の一言、肝細胞がんの治療での様々な社会的負担、などの体験を語っていただいております。将来医師になる学生にとって、実際の診療において患者さんの気持ちを考える必要性について理解する良い機会となる。	授業終了後に学生にアンケートを実施する予定である。これまでの患者講義では、「今まで患者さんの声を直接聞く機会が無かったので、良かった」、「将来医師を目指す人間として、貴重な経験になった」などの感想が寄せられ、反響の大きさを感じている。	C型肝炎の血液製剤など、薬そのものの健康被害の他、B型肝炎のように薬は問題なくとも投与方法などによる集団感染など、様々な薬害があることを知ること、薬害に配慮することと対応することの複雑さを理解できる。
九州大学	薬害	4年次	本人・家族	薬害エイズ、サリドマイド、薬害やコブ病、薬害C型肝炎	被害者本人ならびにご家族の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を伺うことによって、薬害の真の意味での重大さを学べること。	被害者の声を聞くことができてよかったという声が多い。	それぞれの状況における対応の違い等も多様であり、受講者は見識をより深めることができる。
佐賀大学	医療入門Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めることができたとともに、薬害被害の現状に接することができる。	薬害について、あまり知識がない状態だったが、被害の実態を知り、これから医療の専門家になる身として、正しい知識を身に付け、時には疑う姿勢も大切なのかなと感じた。	実施なし

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果 果
長崎大学	医と社会Ⅲ	3年次	本人	サリドマイド	医療職ではない立場の人から見た場合の哲学・倫理・社会観から提訴される問題について、学生が考えることができる。	講義後に学生から講師（サリドマイド薬害の被害者）に個別質問や詳細のお話を何うなどをしており、学生に薬害をより身近に考える機会として機能を果たしていると考えられる。	実施なし
熊本大学	臨床医学Ⅱ（消化器）	3年次	本人	B型肝炎	B型肝炎患者さんの実際の体験談を聞くことができ、患者さんの苦労や社会に存在する差別などを学生にも伝えることができる。	B型肝炎患者さんの苦悩や努力を知ることができた。法律に基づいたB型肝炎訴訟について知ることができた。社会に存在する差別について知ることができ、今後の対応が重要なことがわかった。	実施なし
大分大学	医療倫理学Ⅲ	2年次	本人	大腿四頭筋短縮症	直接被害者の語りを聞くことで、生活、人生に及ぼす影響の大きさを学生が実感できる。	薬害への理解が深まったとする感想が多い。	実施なし
札幌医科大学	医学概論・医療総論 4	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の生の声を聴き、副作用被害の結果としての身体的特徴を目の当たりにすることにより、薬害の深刻さが直接学生に伝わる。 また、講師の増山ゆかり氏は、サリドマイド以外の薬害の歴史や薬事政策の変遷についても詳しく、薬害に関する基礎から実際の被害まで体系的な知識を得る貴重な機会となっている。	学生は初めて見る薬害被害者の姿に衝撃を受けている。 また、薬害は二度と起こしてはならないという自覚を得る格好の機会となっている。	複数の薬害を取り上げることにより、薬害を引き起こす製薬過程、薬事行政過程に潜む原因・問題点に視点を掘り下げた考察をすることができる。
奈良県立医科大学	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	4年次	本人	エイズ	薬害エイズとエイズへの偏見を実際に経験した方から聞くことができる	【学生本人の感想を抜粋】 患者本人から直接受けた講義は非常に印象に残った。 医師だけでなく心理士さんやソーシャルワーカーさん、看護師さん、患者さん本人から話を聞くことによってHIV感染症が様々なスティグマを持つ社会的な問題でもあるという事を実感できた。	一般の講義ではスモンやサリドマイド、森永ヒ素ミルク、カネミ油症等の事件にもふれている
	VOP講座	2年次	家族	陣痛促進剤			
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育	1年次	本人	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	薬害の授業を実施することにより、薬害はそれぞれの時代的背景や課題・問題点などが異なるため、しっかりと説明が必要となるが、よりよき医療人となるための礎とすることができる。
	薬害問題特別講義	6年次	家族	陣痛促進剤			
岩手医科大学	全人的医療基礎講義	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズの被害者の実体験を聞くことができる。	未成年者として初の日本人HIV感染者として実名を公表し、実際に活動をされている方の生の声を聴くことによって、学生もより身近に薬害を考えることができたとの意見が多かった。 また将来、自分たちが担う医療人として、医療とその周辺にある諸問題への関わり方について考える契機として意味のある講義であるとの意見が多い。	実施なし
東北医科薬科大学	ハンディキャップ体験演習	1年次	本人	サリドマイド薬害	実際の薬害被害者の声を聞き、リアルな体験談を聞くことができる点。本学では講演後に薬害の防止策についてスモールグループディスカッション（SGD）を実施しており、医学生と薬学生がともに考える機会を設けている。コロナ禍では講演を未実施であったが、その時のSGDの成果物や発表を今年度と比較すると、やはり議論の深み、成果物の質がより良い印象を受けた。	「薬害を過去の出来事として風化させず、被害者に寄り添い続けることこそが、私たちが同じ過ちを繰り返さないための第一歩である」、「誰にでも病気や事故、予期しない出来事が起こる可能性があるからこそ、社会全体で支え合う仕組みが大切なのだ」と気づかされた」、「将来の医療を支える一人の人間として、私は薬害を二度と繰り返してはならないと強く感じた」等、本演習のねらいを理解しているコメントが多く見られた。	実施なし
獨協医科大学	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	1年次	本人	サリドマイド	実体験に基づいて、学生が将来のあるべき医師像を考え、学修目標に反映できる機会となる。	薬害を知らなかった学生が、問題に向き合うことで、自身の将来の医師像を考えるきっかけとなった。	実施なし
埼玉医科大学	ヒトの病気コース消化器ユニット	3年次	本人	B型肝炎等	患者さん自らが、薬害訴訟の経緯等についてご講演されることで、薬害がより身近な問題であることを理解できる。	薬害について、身近な問題として理解することができた。	実施なし
国際医療福祉大学	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	3年次	家族	陣痛促進薬（子宮収縮薬）	実際に体験し、お子さんを失った方からの話を聞くことで、現実感を持って理解できる。琴線に触れるお話をしていただいています。	毎年勝村さんへの手紙を書かしていますが、非常に学びの深いものになっています。この事実を共有いただいたことへの感謝、被害者への共感ももちろんのこと、自分たち将来医師になる立場として改めて戒める、勉強に励む、ことを伝える内容となっています。	勝村氏からほかの薬害についても触れてお話されていますので、知識としては学んでおります。
杏林大学	生命倫理と医療安全	1年次	本人	スモン	講義だけでは得られない被害者の「生の声」を知ることができ、薬禍および反医療行為の重大性を学生に実感してもらえる。過去の薬害事件の教訓が、社会の仕組みや薬事制度を改善してきた現状を考えるよい機会となる。	薬害被害者の方から直接話を聞くことで、知識が具体的な現実としてよく理解できるようになった、社会的責任の重要性を感じるとの感想を聞く。薬害事件の風化を防ぎ、同じ過ちを繰り返さないことがいかに重要か、学生から共感を得られた。	実施なし

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果 果
順天堂大学	G9-特別講義	4年次	本人	薬害エイズ	被害者から直接その体験と当時の社会情勢を聞くことにより、過去の出来事ではなく、将来の医師、医学研究者として常に意識しておくべきものであることを理解する貴重な機会になったと思われる。	・教科書だけでは理解できない薬害の深刻さや、被害者の方々が抱えてきた苦しみを知ることができた。薬が本当に患者さんにとって利益となるか、安全に使用できるかを常に考えなければならない立場であることを改めて認識した。 ・薬害事件があったという知識だけでは不十分で、被害者の思いや苦しみを理解しようとする姿勢があつて初めて、本当の意味で薬害から学ぶことになるのだと感じた。 ・薬害の歴史を過去の出来事として終わらせるのではなく、一人ひとりの患者さんの人生に大きな影響を及ぼすということを常に意識し、責任感を持って研究や医療に携わっていきたいと感じた。 など、学生にとって極めて有意義なものであつたと考えられる。	実施なし
東京医科大学	医療倫理	3年次	本人	薬害エイズ	被害者側の心情や薬害問題が生じた構造にも具体的に触れていただくことで、学生たちが薬害というものを一過的なエピソードとしてではなく、いまでも続き、今後も生じうる問題として捉えることができる。	薬害被害を受けたご本人による講義のため、学生は講師が伝える内容の切実さや薬害の問題性を強く実感できている。また、学生は授業内容から薬害防止における医師の役割を考えることができている。	実施なし
東京慈恵会医科大学	医学総論Ⅱ 演習	2年次	本人	フィブリノゲン製剤	医原性疾患、医師の治療で薬害が発生することを知ること、およびC型肝炎が長期にわたって患者の生活に大きな影響を与えることが実感できる。	薬害肝炎事件は、医薬品そのものだけでなく、行政や企業の対応の遅れによって被害が拡大したことを知り、医療に携わる者の責任の重さを改めて感じた。 患者さんは淡々と話されていたが、想像しながら聞いていると、かなりの辛い経験をされて来たと感じた。薬害という言葉は知っていたが、ここまでの辛さがあったのかと考えることが出来た。医師になる身として、言葉の重みを理解し、患者さんを第一に考えようと思った。 薬物肝炎の患者さんの話を通して、病気だけでなく医師の表情や態度が患者さんの支えになることを学んだ。実際に辛い思いをされていたことを聞き、寄り添う姿勢の大切さを感じた。	実施なし
東京女子医科大学	薬害を考える「看護学部生と考える」ワークショップ	3年次	家族	イレッサ	実際に薬害にあわれたご家族の方の講演を低学年の学生で拝聴すること、さらにディスカッションを医学部・看護学部生で行っていることで、チームでの安全性に向けた考え方の基礎が作られている。	薬害は過去の出来事ではなく、現在も生じうる課題であり、患者側での副作用共有の重要性、またチーム医療として多職種で専門性を尊重し、情報を補完することで安全な医療が提供できること、被害者・家族が抱える精神的・経済的な苦しみを理解し、謙虚に学び続ける医療者の責任について再確認したなどの意見。	実施なし
東邦大学	全人的医療人教育1 倫理	1年次	本人 ※患者及び弁護士 など	スモン、サリドマイド、薬害HIV、C型肝炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、B型肝炎、ソリブジン、イレッサ	真実の声がきける	真実や実際のご経験談の患者様から直接お話しを受け、感銘を受けている。	複数の薬害について歴史及び発生した具体的な背景を患者様から直接経験談を聞くことにより、医療現場での自身の心構えを学ぶことができる。
日本大学	社会医学演習	4年次	本人	サリドマイド	薬害当事者の実態を通じて、単なる副反応による被害ではないことを強調されている。	教科書で学んだ薬害の被害を現実のものとしてとらえている。	薬害は繰り返す起こることが理解できる。
日本医科大学	医事法学	2年次	本人	サリドマイド	書籍やDVD視聴だけでは学修が困難な、薬害被害の実情や被害者の考え等について、より深い理解を促せる点が有意義な点として挙げられる。	当該授業のレポートにおいては、薬害の実情や被害者の心情への理解が深まったことを示す記述が多数確認されており、前述した授業の有意義性が受講学生の感想からも実証されている。	実施なし
北里大学	臨床実習入門	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者から直接お話を聞くことができる。その人自身が、何を考え、どう思っているかを知ることができる。	・私達にとって、サリドマイド薬害は教科書上の出来事に過ぎなかったが、実際に当事者のお話を聞くことで、その実態がよりリアルに理解でき、とても良い機会になった。 ・当事者が高齢化している今、かなり貴重な機会であつたし、患者さんの苦しみを身近に実感でき有意義な時間となった。 ・全ての内容に関して新しく学べたというより、知識が大きく組み変えられたような感覚だった。障害を持つ方が相当な努力をしていること、社会が果たすべきこと、日本がもっと頑張らなければいけないことを患者さんと共有して寄り添える医師になりたいと思った。 ・薬害にあわれた方々の実際の人生や考え方を伺って、サリドマイド事件に対する理解が深まったと思いました。	実施なし

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 医学部）

▼実施学部：81学部中51学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果 果
大阪医科薬科大学	多職種連携論2-医療と専門職	2年次	本人 井護団井 護士	B型肝炎	医学部、薬学部、看護学部の学生が聴講する3学部合同の講義であり、医師、薬剤師、看護師を目指す学生が薬害被害に合われた患者さまご本人から診断時、治療時などの思いを伺い、その経過の中で各専門職の役割と連携の在り方を考えることができる。	「注射の回しうちがあったことを知っていても実際に患者さんの体験談を聞けることは貴重な経験で、常に相手の立場に立つてものを考える大切さ、そして常に患者さんのことを思いやって看護をする大切さも学びました。」「B型肝炎は母子感染するが、ワクチンを接種すれば9割以上は予防できること、ウイルス肝炎は血液や体液で感染するため空気・飛沫などでは感染しないことなど、正しい知識を身につけ、差別や偏見を持たないことが大切であるとわかった。」「B型肝炎は過去の情報不足や間違った情報から生まれた薬害の歴史の一つであると認識しこれから医療関係者として深く知っていく必要があると感じた。」	実施なし
関西医科大学	臨床実習入門 P4c(2)	4年次	本人	サリドマイド	過去の被害、事実を学ぶことで学生への薬害の啓発になり、将来、医者になったときに同様の事例を繰り返さないという意識を持たせることができる。	学生により反応は様々であるが、真摯に被害者の言葉を受け止めようとする学生が多くみられる。	「薬害」にも様々な種類があり、それぞれがたどった経緯などを広く知ることができる。
兵庫医科大学	医療安全管理と薬害	4年次	本人	スモン	薬害の存在を知り、薬を処方する責任、薬害発生後の医師の行動を考えることができる。	・はじめてその存在を知り驚いた。 ・国、企業、医師の姿勢に問題があると思った。 ・被害者の方のお人柄に感動した（これまでは偏見があった）	次のような多彩な角度から考えることができる。 ・陣痛促進剤（患者さんが我が子を殺すことになる残酷さ） ・スモン（患者さん自身が障害を持つ） ・サリドマイド（服用した母親だけでなく、生まれてくる子供に障害） ・肝炎（患者さん自身が障害を持つ）
	医療安全管理と薬害	4年次	家族	陣痛促進剤			
	医療安全管理と薬害	4年次	本人	サリドマイド			
	医療入門	4年次	本人	肝炎			
川崎医科大学	臨床実習入門	4年次	本人	HIV（予定）	臨床実習開始前に患者さんの声を聞くことで医師としての心構えを持つことができる。	11月実施予定のため学生の反応は確認できていない。	実施なし

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 歯学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、内科学、臨床講義Ⅱ、フロンティア発展科目	フロンティア発展科目、フロンティア発展科目
2	国	東北大学	○	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	医の倫理・社会の倫理
3	国	東京科学大学	○	検討中	生体と薬物（薬理学）、包括臨床実習（PhaseⅡ）、包括医療統合教育	
4	国	新潟大学	○	検討中	微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、薬理学、早期臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ	
5	国	大阪大学	○	○	総合歯科学	総合歯科学
6	国	岡山大学	○	検討中	薬理学総論	
7	国	広島大学	○	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学
8	国	徳島大学	○	○	地域医療	新入生オリエンテーション
9	国	九州大学	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
10	国	長崎大学	○	○	薬理学及び同実習	
11	国	鹿児島大学	○	検討中	微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学、全人的歯科医療実践学	歯科医師のコンピテンシーⅤ
12	公	九州歯科大学	○	○	?学概論Ⅱ、薬理学??科薬理学Ⅰ、薬理学??科薬理学Ⅱ、薬理学??科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅰ、社会歯科学Ⅱ	?学概論Ⅱ
13	私	北海道医療大学	○	○	微生物学Ⅱ、医薬品の科学	微生物学・口腔微生物学 微生物学総論と各論及び免疫学、医薬品の科学（薬害特別講義）
14	私	岩手医科大学	○	○	歯科医学概論、歯科医学概論、歯科医学概論	歯科医学概論
15	私	奥羽大学	○	○	口腔衛生学、総合演習1D(チーム医療学演習)、基礎歯学概論Ⅱ	総合演習1D(チーム医療学演習)
16	私	明海大学	○	○	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理	医療倫理、医療倫理
17	私	東京歯科大学	○	×	微生物学、衛生学、薬理学、社会歯科学、病院実習	
18	私	昭和医科大学	○	×	生体と薬物（薬理総論）、地域医療入門	

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
19	私	日本大学	○	検討中	感染症免疫学 2、薬理学 2	
20	私	日本大学（松戸）	○	検討中	医療行動科学 1、薬理学 1、薬理学 1、薬理学 1	
21	私	日本歯科大学	○	検討中	薬理学、総合基礎歯学〔薬理学〕、薬理学	
22	私	日本歯科大学（新潟）	○	×	健康科学、感染微生物学、薬物療法学、地域口腔保健学、歯科薬剤学、臨床実習	
23	私	神奈川歯科大学	○	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
24	私	鶴見大学	○	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
25	私	松本歯科大学	○	×	歯科薬理学	
26	私	朝日大学	○	○	薬理学	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）
27	私	愛知学院大学	○	○	臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅳ、歯科医師としてのプロフェッショナリズム	歯科医師としてのプロフェッショナリズム
28	私	大阪歯科大学	○	検討中	歯科薬理学、歯科医療安全管理学、内科学、内科学	
29	私	福岡歯科大学	○	○	現代文明論、臨床薬理学	現代文明論

合計	1	2
行っている	29	17
検討中	0	8
行っていない	0	4

1.薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和8年度 歯学部）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
北海道大学	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、内科学、臨床講義Ⅱ、フロンティア発展科目	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、内科学、臨床講義Ⅱ、フロンティア発展科目
東北大学	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理
東京科学大学	○	生体と薬物（薬理学）、包括医療統合教育	生体と薬物（薬理学）
新潟大学	○	微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、薬理学、臨床実習Ⅰ	微生物学Ⅱ、薬理学、早期臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ
大阪大学	○	総合歯科学	総合歯科学
岡山大学	○	薬理学総論	薬理学総論
広島大学	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ
徳島大学	×	地域医療	
九州大学	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
長崎大学	○	薬理学及び同実習	薬理学及び同実習
鹿児島大学	○	微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学、全人的歯科医療実践学	歯科医療倫理学、全人的歯科医療実践学
九州歯科大学	○	歯学概論Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅰ、社会歯科学Ⅱ	歯学概論Ⅱ
北海道医療大学	○	微生物学Ⅱ、医薬品の科学	微生物学Ⅱ、医薬品の科学
岩手医科大学	○	歯科医学概論	歯科医学概論
奥羽大学	○	口腔衛生学、総合演習1D(チーム医療学演習)、基礎歯学概論Ⅱ	口腔衛生学、総合演習1D(チーム医療学演習)
明海大学	○	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理
東京歯科大学	○	薬理学、病院実習	薬理学
昭和医科大学	×	生体と薬物（薬理総論）、地域医療入門	
日本大学	○	感染症免疫学Ⅱ	感染症免疫学Ⅱ

1.薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和8年度 歯学部）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
日本大学（松戸）	×	医療行動科学 1	
日本歯科大学	○	薬理学、総合基礎歯学〔薬理学〕	薬理学、総合基礎歯学〔薬理学〕
日本歯科大学（新潟）	○	健康科学、感染微生物学、薬物療法学、地域口腔保健学、歯科薬剤学、臨床実習	健康科学、地域口腔保健学
神奈川歯科大学	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
鶴見大学	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
松本歯科大学	○	歯科薬理学	歯科薬理学
朝日大学	○	薬理学	薬理学
愛知学院大学	○	臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅳ、歯科医師としてのプロフェッショナリズム	歯科医師としてのプロフェッショナリズム
大阪歯科大学	×	内科学	
福岡歯科大学	○	現代文明論	現代文明論

2.薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中17学部

NO	大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演 名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施するこ との効果
1	北海道大学	フロンティア発展科目	5年次	本人	薬害エイズ、ＨＰＶワ クチン、スモン、コロナワク チンなど全般	学生が被害者の方の生の声を聞け、共感することが できる。薬害エイズの歴史を風化させることなく、 次世代の歯科医療従事者に確実に伝えていくこと ができる。	学生さん達からも、薬害被害当事者からの話だけではなく、一番近くにいる家族からの話 を聞いて、自分に引き寄せて共感したなどの感想が寄せられ、手前味噌ではありますが、 毎回好評をいただいております。井上さんにも学生の感想アンケートを読んでもいただき、 フィードバックをしています。	学生が薬剤の使用について、そのメリッ ト、デメリットを良く考えてから使用するよ うな意識をもつようになっている。
2	東北大学	医の倫理・社会の倫理	5年次	本人	薬害肝炎	薬害被害者の声を直接聞く授業の受講を、倫理 観および職業観について深く考え、将来の歯科医 師としての自覚をもつ機会とすることができる。	多くの学生が、講義を受けて感銘を受けたとの感想を寄せた。学生の感想の例を記載す る。「医療に携わる人間は、免許をとるのがゴールではなく、医療人になった後も日々勉強 し、新たに学ばなければならないと思った。それを怠らなければ、このような薬害も防げるの ではないかと思う。」「今後、歯科医師となって患者さんの口の中を見る時に、病気を診る のではなく、患者さんを診るということがいかに大切かということを感じた。」	実施なし
5	大阪大学	総合歯科学	1・5年次	未定	未定	医療人としての道を歩み始めた1年次学生への講 義の一環として例年どおり企画する。 薬害被害者等の方の声を直接聞く機会を持つこと により、医療における安全性の実態と知識はもとより、 医療人としての薬害防止に対する意識付けを行う。 また、臨床実習開始直後の5年次学生にも受講さ せ、臨床の現場における医療の安全に対する重要性 を再認識させる機会となる。	薬害被害者の方から直接話を伺うことで、薬害防止に関して、医療人および国民の理解 と努力が如何に大切かということを確認することができ、今後の歯科医学教育修得の心 構えを新たにすることができた、など、例年、受講した学生から狙い通りの感想を得ること ができています。	未定
7	広島大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	将来歯科医療に携わる学生が、薬害の被害者 の方から実体験を聞き、薬害の実態を知ったこと、特 に根治療法のないサリドマイド被害で、講演者本 人を始め苦しんでいる被害者が多数おられることを 知ったことはもちろんであるが、薬害の原因、行政の 対応の不備（対応の遅れや不十分な被害者救 済措置）、社会、特に製薬会社や医療従事者が 加害者となったばかりでなく、中傷や差別を行って いたことについて理解したことは、医療に関わる職に就 いた場合、大変役立つと考えられる。	学生全員に授業の感想文を提出させている。ほぼ全員が非常に価値のある授業であつた と評価している。主に評価された点は、 ①薬害の歴史は古く、様々な薬害があることを知ったこと、②薬害がどのようにして起こつた か、特になぜ多くの被害者が生まれたかを学んだこと、③薬害の被害者やその家族が、身 体への障害のみならず、社会からの差別や偏見によって、大変な苦労をしており、十分な 救済措置がとられていない現状を知ったこと、④医療従事者として、薬害は起こりうるこ を念頭に置いて診療に当たる必要性を学んだこと、⑤不幸にして薬剤の副作用による被 害が起こった場合は、被害者の救済に向けた努力を惜しまないことが医療従事者に求め られていることを理解したこと、であった。	薬害の種類の違いによって、患者さんの 症状の違い、厚生労働省の認可の責 任、製薬会社の責任が異なっており、 医療人として何ができるのか、何をすべき かを学ぶよい機会となっている。
8	徳島大学	新入生オリエンテーション	1年次	本人	C型肝炎	生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性 を認識させる。	医療事故防止の重要性を学ぶ良い機会になっている。	実施なし
9	九州大学	医療系統合教育科目「薬 害」	4年次	未定	サリドマイド薬害、薬害エ イズ、薬害ヤコブ病、薬 害肝炎に関する講義の 中で、差別問題・偏見の 問題を扱っている。	被害者本人やその家族の生の声、苦しみ、実際に 受けた差別の話等を聞くことによって、薬害の真の 意味の重大さを知ることができる。	被害者の声を直接聞けて良かったという声が多い。	サリドマイドやC型肝炎など複数の薬害事 例を通じて、発生要因を多面的に学ぶこ とで、薬害への理解を深め、医療従事者 としての責任感と薬害防止への意識を高 める効果がある。
10	長崎大学	歯科医師のコンピテンシーⅤ	5年次	本人	サリドマイド薬害	学生に薬害被害の現状を認識してもらう。	該当なし	実施なし
12	九州歯科大学	歯学概論Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	薬害の実態を正確に理解して、対応等について考 える機会を与えることができる。	例年、真剣に受講し、患者さんの生の声から薬害というものを考えているようである。	実施なし

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中17学部

NO	大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演 名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
13	北海道医療大学	微生物学・口腔微生物学 微生物学総論と各論及び免疫学	2年生	本人	B型肝炎	薬害被害の救済に携わる弁護士やB型肝炎患者の被害者から、実際の体験や思いを直接伺うことにより、教科書だけでは得られない臨場感をもって薬害問題を学ぶことができます。学生にとって、医療従事者の責任や生命倫理、患者の権利について深く考える貴重な機会となり、強い印象とともに学びを定着させることができる点が大きな意義です。	普段から感染対策を徹底して、B型肝炎患者だからといって特別な対策をする必要がない状態を保つことが大切だと思う 将来歯科医師になったとき、自分がB型肝炎ウイルス感染者の患者さんを診るなら、まず自分がワクチンを打ってしっかり予防して、標準予防策を徹底することが大事だなと思います。患者さんを差別せず、安全に治療できるように心がけたいですし、必要なときは他の医師と連携して最善の治療を提供したいです。 B型肝炎の人がどのような対処を受けてきたのかを知り医療従事者としての考えを改めることが大切なんだと知った。 "標準予防策を徹底して守るようにする。 偏見や差別をなくし、気持ちも設備もどんな患者でも対応できるようにする。" "B型肝炎の患者さんも安心して治療を受けられるような環境を作りたいと考える。 感染症予防に徹底した歯科治療の環境を作りたい。差別のない平等な治療をしたいと思う。" 標準予防策についてしっかり学んでそれを取り入れたいです。 カルテ等での記載や院内での対策を事前に用意しておき、正しく対応できる知識をつけておくべきであり後はただ勉強するのではなく将来的に備えるために勉強していこうと思う。 B型肝炎ウイルスだけでなく他の感染患者に対しても感染患者だからと変な差別をせず、標準予防策をしっかりと実施し、感染対策は十分であるとしっかりと説明して安心して受診してもらえようにしたい。 標準予防策を徹底し、差別や偏見のないよう、接する標準感染予防策をしっかりと行い、平等公平な医療を提供すること。誰もが安心できる環境を提供すること。 絶対に差別するようなことはどんな時でも言わず、どの患者にも平等に接する。少しでも自分のことなんじゃないかと気になるようなことも言わず、勘違いもないように徹底する。私自身も裏で先天性の持病のことを笑われていた経験があるため痛いほど心の痛みがわかる。絶対にこのようなことが起こらないように当たり前に医療現場は徹底する。 "B型肝炎の患者さんだからといって特別扱いするのではなく、他の患者さんと同じように接することが一番大切だと考えています。 歯科医師は、手袋・マスク・ゴーグルの着用や器具の滅菌など、標準予防策を徹底することで安全に診療できるからです。 ただ、患者さん自身は「迷惑をかけてしまうのでは」と不安を持っていることが多いと思います。だからこそ、表情や声のトーンで「大丈夫ですよ」と伝えられるような、安心させられる雰囲気大切にしたいです。 病気ではなく、目の前の人を見ること。それが私がなりたい歯科医師の姿です" "お話を聞いている上で、特別な疾病を持った患者さんに対応する際に健常者と違う対応になってしまうのは仕方のないことだと思っていましたが、それがどれだけ患者さんご本人を傷付けているかを改めて感じました。 海外での対応のように、正しい理解を持って差別的な対応をせず平等に接することが出来れば良いなと思いました。" "B型肝炎ウイルス感染者の患者にも他の患者と同様に扱い、差別せずに安全で適切な治療を行うべきだと考えます。 医療技術的には、標準予防策を徹底し、手袋・マスク・器具の滅菌など感染防止を確実に行うことが重要です。 精神的には、患者が安心して治療を受けられるように信頼関係を大切にし、思いやりのある態度で対応したいと思います。" 標準予防策を徹底すれば感染しないことや患者の立場になった際の気持ちをよく考えて差別せずに診療したい 標準予防策を適切に実施して、治療を施す自分自身のみならず、その後治療する患者さんの感染も未然に防ぐような対策を怠らないべきである。また、治療の説明や同意を含め、ウイルス感染者の患者に差別のない接し方をする。	複数の薬害事例について学ぶことで、薬害問題に共通する背景や発生要因、被害者救済の課題を多角的に理解することができます。また、繰り返し学習することにより、薬害問題に対する意識がより深く醸成され、医療従事者として安全な医療の提供や再発防止に主体的に取り組む姿勢を養うことができます。

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中17学部

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演 名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
13	北海道医療大学 (続き)	医薬品の科学（薬害特別講義）	2年生	本人および妻	HIV		"B型肝炎の患者様の話を聞いて、差別されたりとひどいこともあったんだなと思いました。垂直感染でもあるので子供に写ってしまったりと思うので平等に対応していきたいです。" B型肝炎患者さんを含むすべての患者さんが安心して治療を受けられるよう、安心して医療従事者も治療をできるよう、標準予防策を徹底したい。 B型肝炎ウイルスの知識を身に付け、差別をせず、偏見をもたず、平等に対応する。患者がどのようなウイルスや感染症をもっていても差別と偏見なく、感染予防策等をしっかり取って、医院も患者も安心安全に治療を行える、受けられるような歯科医院を作りたいと考えます。 自分の偏見や無知で患者を傷つけてはいけないなと改めて思いました。そして、感染を広げないためにもスタンダードプレコーションを徹底したいとも思いました。 "どんな境遇の患者でも差別することなく接する。肝炎の患者は珍しくないの、しっかり予防策をとる。 自分は陰性だが、身近に当事者がいる。他の人となんら変わらない一人の人間であることはよくわかっていて、医療現場でも不必要な特別扱いほししない。" "診療等、患者に対して医療を施す際には標準予防策を適切に取り、患者もその周りの人々も安心して接することができるような医療現場にする。また、ただ単に事務的に適切な対応をするのではなく、患者の精神面も考慮し、患者を傷つけるような行動はせず、かんじゃのプライバシーや心の安寧を尊重した接し方を心がける。このような対応をできるように、B型肝炎に対する正しい知識と理解を身に着ける。" どんな患者に対しても他の病原予防と同じように接することが大事だと思いました。また、B型肝炎ウイルス感染症の知識をしっかりとつけておくことで、患者に対して失礼のない適切な対応ができると思いました。 B型肝炎ウイルス感染者に対しては、まず標準予防策を徹底し、感染の有無に関わらず安全な診療環境を保つことが重要である。器具の滅菌や手指衛生を確実にを行い、針刺し事故を防ぐ注意を払うことに注意する必要がある。また、患者を特別視せず、他の患者と同様に尊重し安心して治療を受けられるよう配慮する姿勢が大切だと考えました。 今日学んだことは、とにかく院内感染を防ぐための標準予防策をしっかりと実践することが必要であり、それが感染症感染者を傷つけずに済み、誰も傷つけることがなく医療を実践できるということである。当事者の話のなかで、自分が思っていた以上に歯科医院で標準予防策が取られていない医院が多いことを驚いた。自分も将来は、医療従事者になる身として標準予防策は徹底的しよと感じた。 B型肝炎感染者にも差別せず、全ての患者にスタンダード・プリコーションを徹底して対応する。手指衛生や器具の滅菌を行い、ワクチン接種で自らを守る。安心して治療を受けられるよう、配慮と説明を大切にすることが大事です！ " 将来、歯科医師になったときにB型肝炎ウイルス感染者の患者に対応する際は、他の患者と分け隔てなく、安全で安心して医療を提供したいと思う。B型肝炎は血液などを介して感染するため、スタンダードプリコーションを徹底し、常に感染対策を意識することが大切である。手指衛生、器具の洗浄・滅菌、グローブやマスクの着用、環境の消毒などを丁寧に、自分自身や他の患者を感染から守りながら診療にあたるようにしたい。また、自分自身もB型肝炎ワクチンを接種し、万全の体制で医療を行いたいと考える。 さらに、感染症を持つ患者に対して偏見や差別のない態度で接することを心がけたい。感染しているという理由で不安を与えたり、距離を置いたりするのではなく、正しい知識に基づいて冷静に対応し、患者が安心して治療を受けられるようにしたい。B型肝炎は適切な感染対策を行えば恐れる必要のない病気であり、科学的理解と優しさをもって接することが歯科医師として大切だと思う。 どのような背景を持つ患者に対しても誠実に向き合い、信頼される歯科医師を目指したい。感染症に対する知識と責任感を持ち、誰に対しても平等で温かい医療を提供できるよう努力していきたい。"	
14	岩手医科大学	歯科医学概論	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズ被害者の実体験を直接聞くことができる。	・自分が現場に立った際には、正しい知識と情報を伝え、最善の治療を提供できるようにになりたい。 ・テレビや新聞等の情報が全て真実だとは限らないと感じた。 ・家族（親戚等）も大変な苦勞をしており、薬害の被害者のみではなく、その家族にも生活しやすい環境を作っておけるべきと感じた。 ※実施済みの年度の反応・感想を参考として記入しました。	（複数の種類の薬害についてではないが）デメリットの項にも記載したとおり、複数の講師から講演いただくことで、偏った考えにならないようにしている。

2.薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中17学部

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は講演 名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施するこ との効果
15	奥羽大学	総合演習1D(チーム医療学 演習)	1年次	本人	サリドマイド薬害	歯学部学生に、薬を処方する医療人としての責任 と継続的な学習の重要性を理解させることがで きた。	授業後には、緊張感をもって取り組む姿勢が見える	表面的な理解から脱して、現実をとらえ、 より深い理解が得られている
16	明海大学	医療倫理	5年次	本人	薬害エイズ、薬害肝炎	最近の医療の現場では、医療水準の向上だけで なく、医療従事者に、高い責任感、人権意識、倫 理感、及び危機管理意識が求められるようになって いる。薬害被害者の方の声を直接聞くことによ って、学生は、『共感力と倫理観の向上』、『医療過 誤やリスク管理の重要性』、及び『薬害問題の歴 史と社会の理解』などに関する意識が向上するの ではないかと思われる。	「被害者の話を直接聞くことで、その苦しみや困難が実感として伝わってきた。心に深く響 いた。」、「薬害の恐ろしさを実際に被害に遭った方から聞くことで、言葉では表せない強い ショックを受けた。」等の強い衝撃を受けたといった感想を持つ学生がいた。また、「自分が 将来医療従事者としての責任を果たすために、薬害を防ぐ努力を惜しまないことを誓いた い。」、「患者の安全を最優先に考える姿勢が求められていることを再認識した。」等の責 任感の向上につながるような意見を持つ学生もいた。	本学の医療倫理の講義では、薬害エイ ズ（HIV）の被害者がC型肝炎ウイルス の薬害の被害者でもあるため、1回の講 義で、2つの薬害についての講義を受ける ことになっている。また、昨年度からは、サ リドマイド薬害事件の被害者による講義 も実施している。この事件は、妊婦に処 方された薬が胎児に重度の奇形を引き 起こしたもので、特に弱者である胎児に 対する十分な説明や補償が行われな かった点が問題となっている。 複数の薬害事例を学ぶことにより、薬害 問題の多様性を理解し、単一の事例に とどまらない広範な知識を得ることがで きると考えられる。また、薬害事例を比較す ることで、共通する問題点にも気づくこと ができる。薬害被害者の苦しみが続 いていることを学生が認識し、薬害が過去 の問題ではなく現在も続いている問題で あることを理解することができる。将来、医 療従事者になる学生が加害者にならな いたためにも、薬害を繰り返さないことが重 要であると認識することができると思われ る。
		医療倫理	5年次	本人	サリドマイド薬害			
23	神奈川歯科大学	臨床医科歯科概論	1年次	本人	サリドマイド	直接、被害者の方から話を伺うことで、机上の学 問ではなく、現実課題として身近に薬害問題をとら えることができる。	薬害事件は決して過去の出来事ではなく、今後も起こり得ると感じました。常に最新の知 識を学び続けること、そして疑問を持つ姿勢を大切にしたいです。 薬害を通して、多くの学生が医療従事者としての責任の重さを実感し、医療の正しい使い 方の重要性や、職務に対する覚悟の必要性を学びました。	実施なし
24	鶴見大学	薬物の種類と薬理作用	2年次	本人	HIV、薬害エイズ	・薬害被害者のこれまでの経験した被害、現状、 原因と対策等これからの問題点がご本人の生の声 として聞くことができる。 ・薬剤を処方する医療従事者の責任について、学 生の理解が進んだ。また、患者さん側に立つ医療 の重要性についても認識できる。	生の声を聞くことで非常に勉強になった、という感想が毎年多く寄せられている。	他の薬害についても問2で記入した授業 中に学んでおり、試験問題としても扱っ ており、知識の定着を目指している。

2.薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和8年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中17学部

NO	大学名	授業科目名 （特別講義名）又は講演 名	履修年次	講師	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
26	朝日大学	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）	4年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者本人から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の有害性や倫理観についても理解を深めることができる。	「障害を持つ方に対して、差別や偏見はあってはならないのはもちろん、それを可哀想と思ったり、人より支えなくては助けなければならないと考えて、大丈夫ですか？などの励ましのつもりで容易な言葉を伝えても、他の人との違いを感じてしまうことがあるんだなと思いました。」「私自身将来歯科医師という薬を扱う医療人を目指す1人として、責任感を持ち正しい知識を知っておく事が大切であると学びました。」「薬害被害者ご本人が話された「薬害を起こすのは薬剤ではなく「人」であるということ」の言葉が印象に残った」等の感想が聞かれた。	実施なし
27	愛知学院大学	歯科医師としてのプロフェッショナリズム	1年次	本人	薬害C型肝炎	薬害の被害にあわれたご本人から直接お話をうかがうことで、学生が患者中心の医療の大切さに気づくことができ、学生の授業に対する受講態度が良好になる。 また、授業終了時(後)に学生からの疑問点について、後日、授業担当者から講師（薬害被害者本人）に確認することができるため、学生へのフィードバックが効果的に図ることができる。	・国は責任を持って、治療体制の確立、生活支援を今後も続けるべきだと感じた。 ・肝炎は予防接種での注射器の使い回しや輸血、血液製剤といった医療行為を介して感染する、という問題は医療従事者を目指す自分にとって重大な問題だと感じた。 ・絶対に薬害が起こらないよう、医療者は、十分に気をつけて行くことが大切であると考える。薬害が起こらないようにするためには、薬の使い方、医療器具を使うときに感染に十分に注意して、患者さんに使っていただくことが大切である。	実施なし
29	福岡歯科大学	現代文明論	1年次	本人	C型肝炎	薬害を受けた方の意見を聞くことにより、被害者を深く理解することなどを通して、医療人として必要なプロフェッショナリズムが身につく。	「薬害について理解が深まった」、「被害者感情についての感想」および「政府の対応への疑問」という内容の記載が多くみられた。	これまでの薬害被害事例を学ぶことを通して、将来医療関係に従事する際に、同様の事例を発生させないという意識が醸成される。

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
北海道大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	成人看護学実習Ⅰ、母性看護学実習、母性看護学援助論Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ、母性看護学実習、母性看護学援助論Ⅱ		
旭川医科大学	医学部看護学科	○	○	人間と行動（法学）、公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・集団）	人間と行動（法学）、公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・集団）	薬害被害者の声を聴く授業（仮）	薬害被害者の声を聴く授業（仮）
弘前大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	薬理学	薬理学	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））
東北大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
秋田大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	薬理学	薬理学	薬理学	薬理学
山形大学	医学部看護学科	○	○	生命倫理	生命倫理	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）
筑波大学	医学群看護学類	○	○	看護生命倫理	看護生命倫理	看護生命倫理	看護生命倫理
群馬大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）		
千葉大学	看護学部看護学科	○	○	連携協働実践Ⅰ、病態生理学Ⅰ（病理学総論）	連携協働実践Ⅰ、病態生理学Ⅰ（病理学総論）	連携協働実践Ⅰ	連携協働実践Ⅰ
東京大学	医学部健康総合科学科	○	×	長期ケア看護学、地域看護学	長期ケア看護学、地域看護学		
東京科学大学	医学部保健衛生学科看護学専攻	○	○	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。
新潟大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	医療の倫理、疾病の予防と治療、助産学特論	医療の倫理、疾病の予防と治療、助産学特論	助産学特論	助産学特論
富山大学	医学部看護学科	○	○	医療学入門、母性看護学総論、母性看護学総論	医療学入門、母性看護学総論、母性看護学総論	医療学入門	医療学入門
金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	○	○	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ
福井大学	医学部看護学科	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	医学部看護学科	○	検討中	保健学（環境・学校・産業）	保健学（環境・学校・産業）		
信州大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	小児発達健康論	小児発達健康論	健康科学概論	健康科学概論
岐阜大学	医学部看護学科	○	○	医学概論	医学概論	医学概論	医学概論
浜松医科大学	医学部看護学科	○	○	医療概論、医療法学Ⅰ、臨床薬理学	医療概論、医療法学Ⅰ、臨床薬理学	医療概論	医療概論
名古屋大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	公衆衛生学	公衆衛生学		
三重大学	医学部看護学科	○	×	看護倫理	看護倫理		
滋賀医科大学	医学部看護学科	○	○	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	保健医療行政論	保健医療行政論
京都大学	医学部人間健康科学科	○	×	薬剤・薬理学概論	薬剤・薬理学概論		
大阪大学	医学部保健学科	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用		
神戸大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	薬と生体反応、感染看護論、看護管理論、周産母子健康障害論、疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、新生児健康障害	薬と生体反応、感染看護論、看護管理論、周産母子健康障害論、疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、新生児健康障害	初期体験実習	初期体験実習
鳥取大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	くすりと作用、病の体験と医療	くすりと作用、病の体験と医療	病の体験と医療	病の体験と医療
島根大学	医学部看護学科	○	×	地域看護学活動論、母性看護学援助論、薬理と薬剤、病理学の基礎	地域看護学活動論、母性看護学援助論、薬理と薬剤、病理学の基礎		
岡山大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
広島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護
山口大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法演習Ⅱ、小児保健医療論	臨床薬理学、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法演習Ⅱ、小児保健医療論		
徳島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	看護技術Ⅲ（診療の補助）、学校保健論、薬理学	看護技術Ⅲ（診療の補助）、学校保健論、薬理学	薬害講演	薬害講演
香川大学	医学部看護学科	○	○	看護薬理学	看護薬理学	薬害被害者の声を直接聞く特別講義	薬害被害者の声を直接聞く特別講義
愛媛大学	医学部看護学科	○	○	医療被害と看護	医療被害と看護	医療被害と看護	医療被害と看護
高知大学	医学部看護学科	○	検討中	薬の効用と看護	薬の効用と看護		
九州大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
佐賀大学	医学部看護学科	○	○	コミュニケーション論、臨床薬理学	コミュニケーション論、臨床薬理学	コミュニケーション論	コミュニケーション論
長崎大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	看護倫理	看護倫理		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学が授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
熊本大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	臨床薬理学Ⅰ、病理学Ⅰ、感染看護学、病原生物学Ⅰ	臨床薬理学、病理学Ⅰ、感染看護学、病原生物学Ⅰ	薬害被害講演会【特別講演会】	薬害被害講演会【特別講演会】
大分大学	医学部看護学科	○	×	保健学	保健学		
宮崎大学	医学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
鹿児島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	解剖生理学Ⅰ、病理学総論		
琉球大学	医学部保健学科	○	×	保健福祉政策論、薬理学	保健福祉政策論、薬理学		
札幌医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護学概論、社会と健康史	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史	社会と健康史
札幌市立大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
名古屋市立大学	保健福祉学部看護学科	○	×	感染微生物学、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	感染微生物学、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ		
旭川市立大学	保健福祉学部保健看護学科	検討中	×				
青森県立保健大学	健康科学部看護学科	○	×	感染免疫学、母性疾病治療論、成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	感染免疫学、母性疾病治療論、成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規		
岩手県立大学	看護学部看護学科	○	×	感染免疫学、薬理代謝学、感染看護学、生物学の世界、臨床病態治療学Ⅰ	感染免疫学、薬理代謝学、感染看護学、生物学の世界、臨床病態治療学Ⅰ		
宮城大学	看護学群看護学類	○	×	薬理学	薬理学		
山形県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床薬理学、生殖遺伝学	臨床薬理学、生殖遺伝学		
福島県立医科大学	看護学部看護学科	○	×	病態診断治療学	病態診断治療学		
茨城県立医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学		
群馬県立県民健康科学大学	看護学部看護学科	○	検討中	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ		
埼玉医科大学	保健医療福祉学部看護学科	○	検討中	看護薬理学	看護薬理学		
千葉県立保健医療大学	健康科学部看護学科	○	×	病態学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ	病態学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ		
東京都立大学	健康福祉学部看護学科	○	×	慢性期看護学演習、母性看護学概論、周産期学、母性看護学演習、公衆衛生看護学概論、総合臨地看護学実習（在宅）、精神看護学演習、小児看護学概論	慢性期看護学演習、母性看護学概論、周産期学、母性看護学演習、公衆衛生看護学概論、総合臨地看護学実習（在宅）、精神看護学演習、小児看護学概論		
神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部看護学科	○	×	看護倫理、人権・ジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論、成人看護学（慢性期）Ⅱ	看護倫理、人権・ジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論、成人看護学（慢性期）Ⅱ		
川崎市立看護大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
横浜市立大学	医学部看護学科	○	○	感染看護学、公衆衛生学	感染看護学、公衆衛生学	感染看護学、公衆衛生学	感染看護学、公衆衛生学
新潟県立看護大学	看護学部看護学科	○	×	基礎看護技術演習Ⅲ	基礎看護技術演習Ⅲ		
富山県立大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、感染看護学	薬理学、感染看護学		
石川県立看護大学	看護学部看護学科	検討中	×				
公立小松大学	保健医療学部看護学科	○	○	保健医療福祉法制度論	保健医療福祉法制度論	保健福祉法医療制度論	保健福祉法医療制度論
敦賀市立看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、看護倫理学、看護学概論、感染症学	臨床薬理学、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、看護倫理学、看護学概論、感染症学		
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床病態学Ⅱ	臨床病態学Ⅱ
山梨県立大学	看護学部看護学科	○	×	疾病治療総論	疾病治療総論		
長野県看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学	薬理学		
岐阜県立看護大学	看護学部看護学科	○	×	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	環境保健学、日本国憲法（法と人権）		
静岡県立大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生学	公衆衛生学		
愛知県立大学	看護学部看護学科	○	×	病因論	病因論		
名古屋市立大学	医学部保健医療学科	○	×	医療系多職種連携教育：基礎	医療系多職種連携教育：基礎		
三重県立看護大学	看護学部看護学科	×	×				
滋賀県立大学	人間看護学部人間看護学科	○	検討中	生命・人間・倫理、人間と病氣、微生物学／免疫学、看護管理学、基礎看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント・臨床看護）、災害看護学、差別と人権（同和問題）	生命・人間・倫理、人間と病氣、微生物学／免疫学、看護管理学、基礎看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント・臨床看護）、災害看護学、差別と人権（同和問題）		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
京都府立医科大学	医学部看護学科	○	検討中	看護と法律	看護と法律		
大阪公立大学(府立大、市立大含む)	看護学部看護学科	○	○	看護学概論	看護学概論	看護学概論	看護学概論
兵庫県立大学	看護学部看護学科	○	×	感染免疫学	感染免疫学		
神戸市看護大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
奈良県立医科大学	医学部看護学科	○	×	社会福祉と医療法規	社会福祉と医療法規		
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	○	○	ケアマインド教育、慢性期病態学Ⅰ、基礎薬理学、女性と健康	ケアマインド教育、慢性期病態学Ⅰ、基礎薬理学、女性と健康	ケアマインド教育	ケアマインド教育
島根県立大学	看護栄養学部看護学科	○	×	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）		
岡山県立大学	保健福祉学部看護学科	×	×				
新見公立大学	健康科学部看護学科	○	×	講演・薬物乱用の防止	講演・薬物乱用の防止		
県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科看護学コース	○	検討中	看護倫理	看護倫理		
山口県立大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	看護倫理	看護倫理		
下関市立大学	看護学部看護学科	○	○	看護管理と医療安全、公衆衛生看護学概論、臨床病態学Ⅰ	看護管理と医療安全、公衆衛生看護学概論、臨床病態学Ⅰ	看護管理と医療安全	看護管理と医療安全
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	○	○	看護学概論	看護学概論	看護学概論	看護学概論
香川県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	疾病と治療Ⅱ、臨床薬理	疾病と治療Ⅱ、臨床薬理		
愛媛県立医療技術大学	保健科学部看護学科	○	検討中	薬と健康	薬と健康		
高知県立大学	看護学部看護学科	○	○	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、医学の世界、母性の健康と看護、人体のしくみの乱れⅠ、人体のしくみの乱れⅡ、治療学総論、病態と治療Ⅰ、健康管理論、地域の健康と看護、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、医学の世界、母性の健康と看護、人体のしくみの乱れⅠ、人体のしくみの乱れⅡ、治療学総論、病態と治療Ⅰ、健康管理論、地域の健康と看護、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ	グローバル社会と看護Ⅰ
福岡県立大学	看護学部看護学科	○	○	看護薬理学	看護薬理学	看護倫理学	看護倫理学
長崎県立大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	薬理代謝学	薬理代謝学		
大分県立看護科学大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学Ⅰ、病理学総論	薬理学Ⅰ、病理学総論		
宮崎県立看護大学	看護学部看護学科	○	○	人権論	人権論	人権論「薬害と人権―薬害被害当事者からの講演―」	人権論「薬害と人権―薬害被害当事者からの講演―」
沖縄県立看護大学	看護学部看護学科	×	×				
名城大学	人間健康学部看護学科	○	×	看護学概論、臨床薬理学、成人看護方法論Ⅱ、感染看護論、公衆衛生学	看護学概論、臨床薬理学、成人看護方法論Ⅱ、感染看護論、公衆衛生学		
札幌保健医療大学	保健医療学部看護学科	検討中	検討中				
天使大学	看護栄養学部看護学科	×	×				
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学、病態治療学Ⅱ（消化・代謝・ライフステージ）、病態治療学Ⅳ（頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児）、成人慢性看護学演習	薬理学、病態治療学Ⅱ（消化・代謝・ライフステージ）、病態治療学Ⅳ（頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児）、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習
日本医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床薬理学、形態機能学Ⅳ（人体解剖実習）	臨床薬理学、形態機能学Ⅳ（人体解剖実習）		
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	○	○	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論	医療概論
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	医療概論、感染免疫学、病態生理学	医療概論、感染免疫学、病態生理学		
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	○	○	免疫学、薬理学、地域看護学の基礎、保健医療福祉行政論	免疫学、薬理学、地域看護学の基礎、保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論
青森中央学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理と薬剤	薬理と薬剤		
八戸学院大学	健康医療学部看護学科	○	×	生命と倫理、病態学Ⅱ、薬理学	生命と倫理、病態学Ⅱ、薬理学		
弘前医療福祉大学	保健学部看護学科	×	×				
弘前学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
岩手医科大学	看護学部看護学科	○	○	医療と法律	医療と法律	看護学概論（全人的医療基礎講義含む）	看護学概論（全人的医療基礎講義含む）
岩手保健医療大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学、がん看護論	臨床薬理学、がん看護論	基礎ゼミナール	基礎ゼミナール
東北福祉大学	健康科学部保健看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	○	○	アカデミック・スキル演習、公衆衛生看護学Ⅱ	アカデミック・スキル演習、公衆衛生看護学Ⅱ	アカデミック・スキル演習	アカデミック・スキル演習
仙台青葉学院大学	看護学部看護学科	○	×	看護薬理学、公衆衛生学	看護薬理学、公衆衛生学		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学が授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
秋田看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	○	×	薬理学概論、臨床薬理学、公衆衛生学、保健・医療と法律、セイフティ・メント	薬理学概論、臨床薬理学、公衆衛生学、保健・医療と法律、セイフティ・メント		
日本赤十字東北看護大学	看護学部看護学科	○	×	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別、成人看護学Ⅱ－2慢性看護	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別、成人看護学Ⅱ－2慢性看護		
医療創生大学	看護学部看護学科	○	検討中	健康と薬、薬理学	健康と薬、薬理学		
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	○	○	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理	生と死の倫理
つくば国際大学	医療保健学部看護学科	○	×	生命倫理	生命倫理		
常磐大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理	看護倫理	看護倫理
足利大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学	臨床薬理学、公衆衛生学		
国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、対象別保健活動論Ⅱ（障害別）、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、対象別保健活動論Ⅱ（障害別）、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活		
自治医科大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動論、実践助産学Ⅳ、保健医療福祉シス	公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動論、実践助産学Ⅳ、保健医療福祉シス		
獨協医科大学	看護学部看護学科	○	○	生命倫理学	生命倫理学	生命倫理学	生命倫理学
ぐんま未来大学	医療保健学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、感染看護	臨床薬理学、感染看護		
群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	○	検討中	公衆衛生学	公衆衛生学		
群馬バース大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護学概論、薬理学	公衆衛生看護学概論、薬理学		
上武大学	看護学部看護学科	○	×	生命倫理	生命倫理		
高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）、薬理学	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）、薬理学		
埼玉医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	病むことの心理	病むことの心理	病むことの心理	病むことの心理
西武文理大学	看護学部看護学科	○	検討中	母性看護学概論、母性看護支援論Ⅱ	母性看護学概論、母性看護支援論Ⅱ		
大東文化大学	スポーツ・健康科学部看護学科	○	○	疾病・治療学Ⅳ（アレルギー・膠原、感染、神経科系）、母性看護学方法論	疾病・治療学Ⅳ（アレルギー・膠原、感染、神経科系）、母性看護学方法論	Daito 'Green 'Ceremony-Reflection on a Nursing Journey-（学科行事）、基礎ゼミナール（特別講演）	Daito 'Green 'Ceremony-Reflection on a Nursing Journey-（学科行事）、基礎ゼミナール（特別講演）
東京家政大学	健康科学部看護学科	○	×	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ		
東都大学	ヒューマンケア学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
日本医療科学大学	保健医療学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学
日本保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
人間総合科学大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	薬理学、薬と健康	薬理学、薬と健康		
目白大学	看護学部看護学科	○	○	医療概論、薬理学	医療概論、薬理学	総合看護学セミナー	総合看護学セミナー
日本赤十字看護大学	さいたま看護学部看護学科	○	検討中	看護関係法規	看護関係法規		
植草学園大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、専門職連携論	薬理学、専門職連携論		
亀田医療大学	看護学部看護学科	○	×	ウィメンズヘルス看護学概論、看護倫理学	ウィメンズヘルス看護学概論、看護倫理学		
国際医療福祉大学	成田看護学部看護学科	○	検討中	感染看護論	感染看護論		
三育学院大学	看護学部看護学科	○	×	保健医療社会学	保健医療社会学		
秀明大学	看護学部看護学科	○	検討中	病理学、免疫・微生物学、薬理学、薬理学、母性看護学概論	病理学、免疫・微生物学、薬理学、薬理学、母性看護学概論		
淑徳大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	病態学（医学概論・病理学・症候学）	病態学（医学概論・病理学・症候学）		
順天堂大学	医療看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
城西国際大学	看護学部看護学科	○	○	周産期医学C、助産診断・技術学F、公衆衛生看護学概論、感染症学	周産期医学C、助産診断・技術学F、公衆衛生看護学概論、感染症学	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論
聖徳大学	看護学部看護学科	検討中	×				
千葉科学大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護方法論Ⅰ	公衆衛生看護方法論Ⅰ		
帝京平成大学	健康医療スポーツ学部看護学科	○	○	フレッシュセミナーⅡB	フレッシュセミナーⅡB	フレッシュセミナーⅡB	フレッシュセミナーⅡB
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
東京情報大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
東都大学	第2次ヒューマンケア学部看護学科	検討中	検討中				
東邦大学	健康科学部看護学科	○	×	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ、薬剤学	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ、薬剤学		
SBC東京医療大学	健康科学部看護学科	検討中	検討中				
和洋女子大学	看護学部看護学科	○	○	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）
医療創生大学	国際看護学部看護学科	○	検討中	成人看護学概論Ⅱ（慢性期）、薬物と薬物療法	成人看護学概論Ⅱ（慢性期）、薬物と薬物療法		
共立女子大学	看護学部看護学科	○	○	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論
杏林大学	保健学部看護学科看護学専攻	○	×	助産診断・技術学Ⅴ、母性看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、感染症・免疫学	助産診断・技術学Ⅴ、母性看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、感染症・免疫学		
杏林大学	保健学部看護学科看護看護教育専攻	○	×	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論		
駒沢女子大学	看護学部看護学科	○	○	感染防御学、総合看護演習	感染防御学、総合看護演習	総合看護演習	総合看護演習
上智大学	総合人間科学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
聖路加国際大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
創価大学	看護学部看護学科	○	×	薬理の基礎	薬理の基礎		
帝京大学	医療技術学部看護学科	○	○	医療社会学	医療社会学	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」
帝京科学大学	医療科学部看護学科	×	○			基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ
帝京平成大学	ヒューマンケア学部看護学科	○	○	薬の科学、臨床薬剤学	薬の科学、臨床薬剤学	臨床薬剤学	臨床薬剤学
東京有明医療大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学概論	臨床薬理学概論	入門ゼミナールⅠ（学びの姿勢）、基礎ゼミナール	入門ゼミナールⅠ（学びの姿勢）、基礎ゼミナール
東京医科大学	医学部看護学科	○	○	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護倫理学	看護倫理学	看護倫理学	看護倫理学
東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
東京医療保健大学	東が丘看護学部看護学科	○	×	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）		
東京医療保健大学	立川看護学部看護学科	○	×	慢性期看護論、公衆衛生学、臨床薬理学演習	慢性期看護論、公衆衛生学、臨床薬理学演習		
東京工科大学	医療保健学部看護学科	○	検討中	公衆衛生学、地域看護学、保健医療福祉論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ、保健指導論	公衆衛生学、地域看護学、保健医療福祉論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ、保健指導論		
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	○	○	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理	看護と倫理
東京純心大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
東京女子医科大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学	薬理学	薬理学	薬理学
東邦大学	看護学部看護学科	○	検討中	医療人間論	医療人間論		
日本赤十字看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	看護関係法規、公衆衛生看護活動論		
武蔵野大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、薬物療法学	薬理学、薬物療法学		
文京学院大学	保健医療技術学部看護学科	○	×	看護倫理学	看護倫理学		
神奈川工科大学	健康医療科学部看護学科	○	×	看護倫理、診療の補助技術、老年看護援助論、臨床薬理学	看護倫理、診療の補助技術、老年看護援助論、臨床薬理学		
関東学院大学	看護学部看護学科	○	○	環境と看護、基礎看護技術Ⅲ	環境と看護、基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ
北里大学	看護学部看護学科	×	×				
慶應義塾大学	看護医療学部看護学科	○	×	環境論、看護のための薬理学	環境論、看護のための薬理学		
国際医療福祉大学	小田原保健医療学部看護学科	○	×	薬理学、成人看護学概論	薬理学、成人看護学概論		
松蔭大学	看護学部看護学科	○	×	医療安全・感染管理、薬物や放射線による人間の反応	医療安全・感染管理、薬物や放射線による人間の反応		
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	○	○	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
湘南鎌倉医療大学	看護学部看護学科	○	×	医学概論	医学概論		
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	地域医療入門、薬理学、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門、薬理学、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門	地域医療入門

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
東海大学	医学部看護学科	○	検討中	小児看護学概論、人体の構造と機能 1（細胞生物学・解剖生理学）、保健医療関係法規、疾病と看護 E（内分泌代謝・免疫系・感覚機能）	小児看護学概論、人体の構造と機能 1（細胞生物学・解剖生理学）、保健医療関係法規、疾病と看護 E（内分泌代謝・免疫系・感覚機能）		
横浜創英大学	看護学部看護学科	○	○	看護管理学	看護管理学	看護管理学	看護管理学
日本医科大学	医療健康科学部看護学科	○	検討中	社会学	社会学		
長岡崇徳大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	○	○	診療看護論演習	診療看護論演習	診療看護論演習	診療看護論演習
新潟青陵大学	看護学部看護学科	○	検討中	看護学概論	看護学概論		
新潟薬科大学	看護学部看護学科	○	検討中	医療と看護の歴史、薬と健康、薬理学と薬剤管理	医療と看護の歴史、薬と健康、薬理学と薬剤管理		
北里大学	健康科学部看護学科	×	×				
金沢医科大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
金城大学	看護学部看護学科	○	×	感染防御	感染防御		
福井医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
健康科学大学	看護学部看護学科	×	×				
佐久大学	看護学部看護学科	○	×	看護リスクマネジメント	看護リスクマネジメント		
清泉大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
長野保健医療大学	看護学部看護学科	○	×	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論		
松本看護大学	看護学部看護学科	検討中	×				
朝日大学	保健医療学部看護学科	○	○	薬理学、病理学	薬理学、病理学	「薬害被害者の声を聞く」特別講演	「薬害被害者の声を聞く」特別講演
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	○	○	生命倫理学	生命倫理学	特別講義	特別講義
岐阜協立大学	看護学部看護学科	×	×				
岐阜保健大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬物療法と看護	薬物療法と看護		
中京学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	感染看護論、感染看護論	感染看護論、感染看護論		
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	○	○	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論
岐阜聖徳学園大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理薬剤学	薬理薬剤学		
順天堂大学	保健看護学部看護学科	○	検討中	保健学概論、薬理学、臨床薬理学、地域生涯保健活動論	保健学概論、薬理学、臨床薬理学、地域生涯保健活動論		
聖隷クリストファー大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理、医療法学	薬理、医療法学		
常葉大学	健康科学部看護学科	○	×	健康増進論	健康増進論		
東都大学	沼津コミュニケーション学部看護学科	○	×	いのちと倫理、公衆衛生学、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理、感染と免疫	いのちと倫理、公衆衛生学、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理、感染と免疫		
愛知医科大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ	薬理学、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ		
一宮研伸大学	看護学部看護学科	○	○	法学、公衆衛生学	法学、公衆衛生学	公衆衛生学	公衆衛生学
金城学院大学	看護学部看護学科	○	○	感染症と社会、医療リスクマネジメント論	感染症と社会、医療リスクマネジメント論	医療リスクマネジメント論	医療リスクマネジメント論
修文大学	看護学部看護学科	○	検討中	感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ	感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ		
椋山女子学園大学	看護学部看護学科	検討中	×				
中部大学	生命健康科学部保健看護学科	○	○	薬理学	薬理学	薬理学	薬理学
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護学原論、臨床薬理学、看護倫理、在宅看護学原論Ⅱ	看護学原論、臨床薬理学、看護倫理、在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	○	○	特別講義1、医療概論、社会保障制度	特別講義1、医療概論、社会保障制度	特別講義1	特別講義1
名古屋葵大学	健康科学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
日本赤十字豊田看護大学	看護学部看護学科	○	×	微生物学、公衆衛生看護管理	微生物学、公衆衛生看護管理		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
日本福祉大学	看護学部看護学科	○	×	成人看護学概論	成人看護学概論		
人間環境大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
藤田医科大学	保健衛生学部看護学科	○	検討中	地域・在宅看護学概論	地域・在宅看護学概論		
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学	臨床薬理学
四日市看護医療大学	看護医療学部看護学科	○	○	薬理学、診断・治療学概論	薬理学、診断・治療学概論	母性看護学概論	母性看護学概論
聖泉大学	看護学部看護学科	○	検討中	人権論、微生物学、病理学、薬理・薬剤学、疾病・障害論Ⅰ、疾病・障害論Ⅱ	人権論、微生物学、病理学、薬理・薬剤学、疾病・障害論Ⅰ、疾病・障害論Ⅱ		
京都先端科学大学	健康医療学部看護学科	○	検討中	看護治療支援技術論	看護治療支援技術論		
京都看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	社会学	社会学		
京都光華大学	看護福祉リハビリテーション学部看護学科	○	検討中	薬理学、生命倫理	薬理学、生命倫理		
京都橘大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
同志社女子大学	看護学部看護学科	○	○	母子保健看護概論、看護と倫理	母子保健看護概論、看護と倫理	母子保健看護概論	母子保健看護概論
佛教大学	保健医療技術学部看護学科	○	検討中	慢性看護学Ⅰ、診療援助技術論Ⅱ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	慢性看護学Ⅰ、診療援助技術論Ⅱ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み		
明治国際医療大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、薬理学、薬理学	薬理学、薬理学、薬理学		
藍野大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
大阪青山大学	看護学部看護学科	検討中	×				
大阪医科薬科大学	看護学部看護学科	○	×	健康科学論	健康科学論		
大阪信愛学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
大阪成蹊大学	看護学部看護学科	○	×	化学、基礎看護学方法論Ⅲ、母性看護学援助論	化学、基礎看護学方法論Ⅲ、母性看護学援助論		
大手前大学	国際看護学部看護学科	○	×	医療関係法規	医療関係法規		
関西医科大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
関西医療大学	保健看護学部保健看護学科	○	○	公衆衛生看護学概論、障害者と感染症の保健活動「感染症と保健活動2」、障害者と感染症の保健活動「難病保健活動1」、総合看護学演習「薬害について」	公衆衛生看護学概論、障害者と感染症の保健活動「感染症と保健活動2」、障害者と感染症の保健活動「難病保健活動1」、総合看護学演習「薬害について」	総合看護学演習	総合看護学演習
四條畷学園大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
四天王寺大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、在宅療養生活支援論	薬理学、在宅療養生活支援論		
摂南大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理	看護倫理	看護倫理
千里金蘭大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学、病原微生物学	臨床薬理学、病原微生物学		
太成学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学		
宝塚大学	看護学部看護学科	○	○	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学	公衆衛生学
梅花女子大学	看護保健学部看護学科	○	×	臨床病理・病態学Ⅱ、薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	臨床病理・病態学Ⅱ、薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ		
森ノ宮医療大学	看護学部看護学科	×	×				
近畿大学	看護学部看護学科	○	×	現代社会と倫理	現代社会と倫理		
大阪医療大学	医療看護学部	検討中	×				
大和大学	保健医療学部看護学科	○	○	公衆衛生看護学活動論、周産期医学、血液免疫統合科目、成人老年臨床看護学Ⅱ（慢性期）、薬理学	公衆衛生看護学活動論、周産期医学、血液免疫統合科目、成人老年臨床看護学Ⅱ（慢性期）、薬理学	生命基盤統合科学演習「当事者の声から学ぶ薬害の真実」	生命基盤統合科学演習「当事者の声から学ぶ薬害の真実」
大阪歯科大学	看護学部看護学科	○	×	看護関係法規	看護関係法規		
関西看護医療大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
関西国際大学	保健医療学部看護学科	○	×	看護倫理Ⅰ	看護倫理Ⅰ		
関西福祉大学	看護学部看護学科	○	○	教養ゼミナール、薬理学	教養ゼミナール、薬理学	教養ゼミナール	教養ゼミナール

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
姫路大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
甲南女子大学	看護リハビリテーション学部看護学科	○	×	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅰ		
神戸常盤大学	看護学部看護学科	○	検討中	公衆衛生学、公衆衛生学	公衆衛生学、公衆衛生学		
神戸女子大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理	看護倫理	看護倫理
園田学園大学	人間健康学部人間看護学科	○	×	感染免疫学演習、疾病治療学Ⅰ	感染免疫学演習、疾病治療学Ⅰ		
姫路獨協大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論		
兵庫大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論		
武庫川女子大学	看護学部看護学科	○	○	看護薬理学	看護薬理学	成人看護学概論	成人看護学概論
兵庫医科大学	看護学部看護学科	○	○	公衆衛生学、母性看護学概論、慢性看護援助論	公衆衛生学、母性看護学概論、慢性看護援助論	母性看護学概論	母性看護学概論
畿央大学	健康科学部看護医療学科	○	○	薬と健康、看護倫理、診療過程援助技術、感染・免疫学、公衆衛生学、看護管理論、医療安全論	薬と健康、看護倫理、診療過程援助技術、感染・免疫学、公衆衛生学、看護管理論、医療安全論	保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅰ
天理大学	医療学部看護学科	○	検討中	保健医療概論、基礎ゼミナール、体のしくみⅠ、薬理学・臨床薬理学	保健医療概論、基礎ゼミナール、体のしくみⅠ、薬理学・臨床薬理学		
奈良学園大学	保健医療学部看護学科	○	×	看護技術の基礎Ⅱ、環境化学の基礎、精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習	看護技術の基礎Ⅱ、環境化学の基礎、精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習		
宝塚医療大学	和歌山保健医療学部看護学科	○	×	看護の統合Ⅱ（演習）	看護の統合Ⅱ（演習）		
東京医療保健大学	医療看護学部看護学科	○	×	看護倫理	看護倫理		
鳥取看護大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	薬理学		
川崎医療福祉大学	保健看護学部保健看護学科	○	×	薬理学、保健指導論、健康危機管理	薬理学、保健指導論、健康危機管理		
吉備国際大学	看護学部看護学科	○	×	医療安全、成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）	医療安全、成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）		
山陽学園大学	看護学部看護学科	○	×	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、人権教育	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、人権教育		
日本赤十字広島看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	日本国憲法	日本国憲法		
広島国際大学	看護学部看護学科	○	×	臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅲ	臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅲ		
広島都市学園大学	健康科学部看護学科	○	検討中	病因病態学Ⅱ	病因病態学Ⅱ		
広島文化学園大学	看護学部看護学科	○	検討中	人間発生・発達学、薬理学、病態微生物学、公衆衛生学	人間発生・発達学、薬理学、病態微生物学、公衆衛生学		
福山平成大学	看護学部看護学科	○	×	成人慢性疾患看護	成人慢性疾患看護		
安田女子大学	看護学部看護学科	○	○	疾病論Ⅰ、成人看護学	疾病論Ⅰ、成人看護学	まほろば教養ゼミⅣ	まほろば教養ゼミⅣ
宇部フロンティア大学	看護学部看護学科	○	○	薬理・薬剤学、微生物・免疫学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	薬理・薬剤学、微生物・免疫学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	特別授業（薬害被害者講演会）	特別授業（薬害被害者講演会）
四国大学	看護学部看護学科	○	×	小児看護学概論、身体構造と機能Ⅱ、母性保健論	小児看護学概論、身体構造と機能Ⅱ、母性保健論		
徳島文理大学	保健福祉学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
聖カタリナ大学	看護学部看護学科	○	検討中	感染管理看護論、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ、関係法規、成育看護学Ⅰ-ii（小児看護学概論）	感染管理看護論、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ、関係法規、成育看護学Ⅰ-ii（小児看護学概論）		
人間環境大学	松山看護学部看護学科	×	○			陣痛促進剤事故について知ろう～誘発分娩で子宮破裂した本人が語る～	陣痛促進剤事故について知ろう～誘発分娩で子宮破裂した本人が語る～
久留米大学	医学部看護学科	○	○	生命・看護倫理	生命・看護倫理	生命・看護倫理	生命・看護倫理
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部看護学科	○	○	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）
福岡国際医療福祉大学	看護学部看護学科	○	×	生命倫理	生命倫理		
産業医科大学	産業保健学部看護学科	○	○	リハビリテーション医学概論、看護倫理学、成人看護学方法論（慢性期）、産・婦人科系病態治療学、医療社会学、感染症学	リハビリテーション医学概論、看護倫理学、成人看護学方法論（慢性期）、産・婦人科系病態治療学、医療社会学、感染症学	看護倫理学	看護倫理学
純真学園大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
西南女学院大学	保健福祉学部看護学科	○	×	感染と免疫、医療と倫理、薬理学、看護倫理	感染と免疫、医療と倫理、薬理学、看護倫理		
聖マリア学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、精神看護学ケア論Ⅱ	薬理学、精神看護学ケア論Ⅱ		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演	2. に該当する授業科目又は特別講演
帝京大学	福岡医療技術学部看護学科	○	×	臨床薬理学	臨床薬理学		
日本赤十字九州国際看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	臨床薬理学		
福岡看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学	薬理学		
福岡大学	医学部看護学科	○	○	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法
福岡女学院看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅱ		
第一薬科大学	看護学部看護学科	検討中	検討中				
令和健康科学大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理学	看護倫理学	看護倫理学	看護倫理学
西日本看護医療大学	看護学部看護学科	○	×	保健医療概論	保健医療概論		
西九州大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学	あすなろう	あすなろう
活水女子大学	看護学部看護学科	○	×	看護倫理、看護医療と法規	看護倫理、看護医療と法規		
九州看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	○	×	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ		
熊本保健科学大学	保健科学部看護学科	○	検討中	生命と倫理	生命と倫理		
別府大学	看護学部看護学科	○	×	看護学概論	看護学概論		
鹿児島国際大学	看護学部看護学科	○	検討中	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律		
鹿児島純心大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	看護薬理学	看護薬理学		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
北海道大学	医学部保健学科看護学専攻	成人看護学実習Ⅰ、母性看護学実習、母性看護学援助論Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ、母性看護学実習、母性看護学援助論Ⅱ	○
旭川医科大学	医学部看護学科	人間と行動（法学）、公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・集団）	公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・集団）	○
弘前大学	医学部保健学科看護学専攻	薬理学		
東北大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田大学	医学部保健学科看護学専攻	薬理学	薬理学	○
山形大学	医学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
筑波大学	医学群看護学類	看護生命倫理	看護生命倫理	○
群馬大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	臨床医学総論	○
千葉大学	看護学部看護学科	連携協働実践Ⅰ	連携協働実践Ⅰ	○
東京大学	医学部健康総合科学科	地域看護学		
東京科学大学	医学部保健衛生学科看護学専攻	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮） ※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮） ※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	○
新潟大学	医学部保健学科看護学専攻	医療の倫理、疾病の予防と治療、助産学特論	医療の倫理、疾病の予防と治療、助産学特論	○
富山大学	医学部看護学科	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論	医療学入門	○
金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	○
福井大学	医学部看護学科	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	○
山梨大学	医学部看護学科	保健学（環境・学校・産業）	保健学（環境・学校・産業）	○
信州大学	医学部保健学科看護学専攻			
岐阜大学	医学部看護学科	医学概論	医学概論	○
浜松医科大学	医学部看護学科	医療概論、医療法学Ⅰ、臨床薬理学	医療概論	○
名古屋大学	医学部保健学科看護学専攻	公衆衛生学		
三重大学	医学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
滋賀医科大学	医学部看護学科	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療I	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療I	○
京都大学	医学部人間健康科学科	薬剤・薬理学概論	薬剤・薬理学概論	○
大阪大学	医学部保健学科	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	○
神戸大学	医学部保健学科看護学専攻	疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、公衆衛生学	感染看護論	○
鳥取大学	医学部保健学科看護学専攻	くすりと作用、病の体験と医療	病の体験と医療	○
島根大学	医学部看護学科	地域看護学活動論		
岡山大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島大学	医学部保健学科看護学専攻	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護	○
山口大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学、小児保健医療論	臨床薬理学	○
徳島大学	医学部保健学科看護学専攻	看護技術Ⅲ（診療の補助）、薬理学	学校保健論	○
香川大学	医学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
愛媛大学	医学部看護学科	医療被害と看護	医療被害と看護	○
高知大学	医学部看護学科	薬の効用と看護		
九州大学	医学部保健学科看護学専攻	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	○
佐賀大学	医学部看護学科	コミュニケーション論	コミュニケーション論	○
長崎大学	医学部保健学科看護学専攻		看護倫理	
熊本大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学、病理学Ⅰ、感染看護学、病原生物学Ⅰ	感染看護学	○
大分大学	医学部看護学科	保健学	保健学	○
宮崎大学	医学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
鹿児島大学	医学部保健学科看護学専攻	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	解剖生理学Ⅰ	○
琉球大学	医学部保健学科	保健福祉政策論、薬理学		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
札幌医科大学	保健医療学部看護学科	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史	○
札幌市立大学	看護学部看護学科			
名寄市立大学	保健福祉学部看護学科	統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	○
青森県立保健大学	健康科学部看護学科	成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	看護関係法規	○
岩手県立大学	看護学部看護学科	感染免疫学、薬理代謝学	感染免疫学、薬理代謝学	○
宮城大学	看護学群看護学類	薬理学	薬理学	○
山形県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学、生殖遺伝学	生殖遺伝学	○
福島県立医科大学	看護学部看護学科	病態診断治療学	病態診断治療学	○
茨城県立医療大学	保健医療学部看護学科	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	○
群馬県立県民健康科学大学	看護学部看護学科	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	人間集団と健康（疫学）	○
埼玉県立大学	保健医療福祉学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
千葉県立保健医療大学	健康科学部看護学科			
東京都立大学	健康福祉学部看護学科	慢性期看護学演習、母性看護学概論、周産期学、公衆衛生看護学概論、総合臨地看護学実習（在宅）	慢性期看護学演習、総合臨地看護学実習（在宅）	○
神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部看護学科	看護倫理、人権・ジェンダー、小児看護学Ⅱ、成人看護学（慢性期）Ⅱ	看護倫理、人権・ジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論	○
川崎市立看護大学	看護学部看護学科			
横浜市立大学	医学部看護学科	感染看護学、公衆衛生学	感染看護学、公衆衛生学	○
新潟県立看護大学	看護学部看護学科			
富山県立大学	看護学部看護学科	薬理学、感染看護学	感染看護学	○
公立小松大学	保健医療学部看護学科	保健医療福祉法制度論	保健医療福祉法制度論	○
敦賀市立看護大学	看護学部看護学科	臨床薬理学、感染症学	臨床薬理学、公衆衛生学、看護倫理学、感染症学	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
山梨県立大学	看護学部看護学科	疾病治療総論	疾病治療総論	○
長野県看護大学	看護学部看護学科			
岐阜県立看護大学	看護学部看護学科	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	○
静岡県立大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
愛知県立大学	看護学部看護学科	病因論	病因論	○
名古屋市立大学	医学部保健医療学科	医療系多職種連携教育：基礎	医療系多職種連携教育：基礎	○
滋賀県立大学	人間看護学部人間看護学科	差別と人権（同和問題）	差別と人権（同和問題）	○
京都府立医科大学	医学部看護学科			
大阪公立大学(府立大,市立大含む)	看護学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
兵庫県立大学	看護学部看護学科	感染免疫学	感染免疫学	○
奈良県立医科大学	医学部看護学科	社会福祉と医療法規	社会福祉と医療法規	○
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	ケアマインド教育、基礎薬理学、女性と健康	ケアマインド教育、基礎薬理学、女性と健康	○
島根県立大学	看護栄養学部看護学科	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	○
新見公立大学	健康科学部看護学科			
県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科看護学コース	看護倫理	看護倫理	○
山口県立大学	看護栄養学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
下関市立大学	看護学部看護学科	看護管理と医療安全	看護管理と医療安全	○
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
香川県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理	臨床薬理	○
愛媛県立医療技術大学	保健科学部看護学科	薬と健康	薬と健康	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
高知県立大学	看護学部看護学科	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、医学の世界、地域の健康と看護、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、地域の健康と看護	○
福岡県立大学	看護学部看護学科	看護薬理学		
長崎県立大学	看護栄養学部看護学科	薬理代謝学	薬理代謝学	○
大分県立看護科学大学	看護学部看護学科	薬理学Ⅰ、病理学総論		
宮崎県立看護大学	看護学部看護学科	人権論	人権論	○
名桜大学	人間健康学部看護学科	成人看護方法論Ⅱ、感染看護論、公衆衛生学	感染看護論	○
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習	○
日本医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学、形態機能学Ⅳ(人体解剖実習)		
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論	○
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	医療概論		
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	免疫学、薬理学、保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	○
青森中央学院大学	看護学部看護学科	薬理と薬剤		
八戸学院大学	健康医療学部看護学科	生命と倫理	生命と倫理	○
弘前学院大学	看護学部看護学科			
岩手医科大学	看護学部看護学科	医療と法律	医療と法律	○
岩手保健医療大学	看護学部看護学科			
東北福祉大学	健康科学部保健看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	アカデミック・スキル演習	アカデミック・スキル演習	○
仙台青葉学院大学	看護学部看護学科			
秋田看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
日本赤十字東北看護大学	看護学部看護学科	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別、成人看護学Ⅱ－2慢性看護	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別	○
医療創生大学	看護学部看護学科	健康と薬		
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	○
つくば国際大学	医療保健学部看護学科	生命倫理		
常磐大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
足利大学	看護学部看護学科	臨床薬理学、公衆衛生学		
国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、早期体験実習、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）	○
自治医科大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動論、保健医療福祉システム論	公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動論	○
獨協医科大学	看護学部看護学科	生命倫理学	生命倫理学	○
ぐんま未来大学	医療保健学部看護学科	臨床薬理学、感染看護		
群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
群馬パース大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護学概論		
上武大学	看護学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	薬理学		
埼玉医科大学	保健医療学部看護学科	病むことの心理	病むことの心理	○
西武文理大学	看護学部看護学科			
大東文化大学	スポーツ・健康科学部看護学科	疾病・治療学Ⅳ（アレルギー・膠原、感染、神経科系）、母性看護学方法論	疾病・治療学Ⅳ（アレルギー・膠原、感染、神経科系）、母性看護学方法論	○
東京家政大学	健康科学部看護学科	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	○
東都大学	ヒューマンケア学部看護学科	薬理学		
日本医療科学大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
日本保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		
人間総合科学大学	保健医療学部看護学科	薬理学、薬と健康	薬理学、薬と健康	○
目白大学	看護学部看護学科	医療概論、薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学	さいたま看護学部看護学科	看護関係法規	看護関係法規	○
植草学園大学	看護学部看護学科	薬理学、専門職連携論	専門職連携論	○
亀田医療大学	看護学部看護学科	ウイメンズヘルス看護学概論、看護倫理学	看護倫理学	○
国際医療福祉大学	成田看護学部看護学科	感染看護論	感染看護論	○
三育学院大学	看護学部看護学科			
秀明大学	看護学部看護学科	病理学、免疫・微生物学、薬理学、薬理学、母性看護学概論	病理学、免疫・微生物学、薬理学	○
淑徳大学	看護栄養学部看護学科	病態学（医学概論・病理学・症候学）	病態学（医学概論・病理学・症候学）	○
順天堂大学	医療看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
城西国際大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護学概論、感染症学	公衆衛生看護学概論、感染症学	○
千葉科学大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護方法論Ⅰ	公衆衛生看護方法論Ⅰ	○
帝京平成大学	健康医療スポーツ学部看護学科	フレッシュセミナーⅡB	フレッシュセミナーⅡB	○
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東京情報大学	看護学部看護学科			
東邦大学	健康科学部看護学科	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	○
和洋女子大学	看護学部看護学科	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	○
医療創生大学	国際看護学部看護学科	成人看護学概論Ⅱ（慢性期）、薬物と薬物療法	成人看護学概論Ⅱ（慢性期）、薬物と薬物療法	○
共立女子大学	看護学部看護学科	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	○
杏林大学	保健学部看護学科看護学専攻	公衆衛生看護活動論Ⅱ	公衆衛生看護活動論Ⅱ	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
杏林大学	保健学部看護学科看護看護教育学専攻	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	○
駒沢女子大学	看護学部看護学科	感染防御学、総合看護演習	感染防御学、総合看護演習	○
上智大学	総合人間科学部看護学科			
聖路加国際大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
創価大学	看護学部看護学科	薬理の基礎		
帝京大学	医療技術学部看護学科	医療社会学	医療社会学	○
帝京平成大学	ヒューマンケア学部看護学科	臨床薬剤学	薬の科学、臨床薬剤学	○
東京有明医療大学	看護学部看護学科	臨床薬理学概論	臨床薬理学概論	○
東京医科大学	医学部看護学科	キャリアデザインⅠ(基礎)	キャリアデザインⅠ(基礎)	○
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	看護倫理学	看護倫理学	○
東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東京医療保健大学	東が丘看護学部看護学科	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、医療と法（看護関係法規）	○
東京医療保健大学	立川看護学部看護学科	慢性期看護論、臨床薬理学演習	慢性期看護論、臨床薬理学演習	○
東京工科大学	医療保健学部看護学科	公衆衛生学、地域看護学、保健医療福祉論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ、保健指導論	公衆衛生学、地域看護学、保健医療福祉論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ、保健指導論	○
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理	○
東京純心大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
東京女子医科大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
東邦大学	看護学部看護学科			
日本赤十字看護大学	看護学部看護学科	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	看護関係法規	○
武蔵野大学	看護学部看護学科			
文京学院大学	保健医療技術学部看護学科		看護倫理学	

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
神奈川工科大学	健康医療科学部看護学科	看護倫理、臨床薬理学	看護倫理	○
関東学院大学	看護学部看護学科	環境と看護、基礎看護技術Ⅲ	環境と看護、基礎看護技術Ⅲ	○
慶應義塾大学	看護医療学部看護学科			
国際医療福祉大学	小田原保健医療学部看護学科	薬理学、成人看護学概論	薬理学、成人看護学概論	○
松蔭大学	看護学部看護学科			
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	薬と毒性学入門		
湘南鎌倉医療大学	看護学部看護学科	医学概論	医学概論	○
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	地域医療入門、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門、コミュニティ・ヘルス看護活動論	○
東海大学	医学部看護学科	保健医療関係法規、疾病と看護 E（内分泌代謝・免疫系・感覚機能）	人体の構造と機能 1（細胞生物学・解剖生理学）、保健医療関係法規、疾病と看護 E（内分泌代謝・免疫系・感覚機能）	○
横浜創英大学	看護学部看護学科	看護管理学	看護管理学	○
日本医科大学	医療健康科学部看護学科			
長岡崇徳大学	看護学部看護学科			
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	診療看護論演習	診療看護論演習	○
新潟青陵大学	看護学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
新潟薬科大学	看護学部看護学科	医療と看護の歴史		
金沢医科大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
金城大学	看護学部看護学科	感染防御		
福井医療大学	保健医療学部看護学科			
佐久大学	看護学部看護学科	看護リスクマネジメント		
清泉大学	看護学部看護学科			
長野保健医療大学	看護学部看護学科	保健医療福祉行政論		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
朝日大学	保健医療学部看護学科	薬理学、病理学	薬理学	○
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	生命倫理学	生命倫理学	○
岐阜保健大学	看護学部看護学科			
中京学院大学	看護学部看護学科			
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	○
岐阜聖徳学園大学	看護学部看護学科	薬理薬剤学	薬理薬剤学	○
順天堂大学	保健看護学部看護学科	保健学概論、薬理学、臨床薬理学、地域生涯保健活動論	薬理学、地域生涯保健活動論	○
聖隷クリストファー大学	看護学部看護学科			
常葉大学	健康科学部看護学科	健康増進論	健康増進論	○
東都大学	沼津ヒューマンケア学部看護学科	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理	○
愛知医科大学	看護学部看護学科	薬理学、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ	薬理学	○
一宮研伸大学	看護学部看護学科	法学	法学、公衆衛生学	○
金城学院大学	看護学部看護学科	感染症と社会、医療リスクマネジメント論	感染症と社会、医療リスクマネジメント論	○
修文大学	看護学部看護学科	感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ	公衆衛生看護実践論Ⅱ	○
中部大学	生命健康科学部保健看護学科	薬理学	薬理学	○
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ	○
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	特別講義1、医療概論、社会保障制度	特別講義1	○
名古屋薬大学	健康科学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本赤十字豊田看護大学	看護学部看護学科	微生物学	微生物学	○
日本福祉大学	看護学部看護学科	成人看護学概論	成人看護学概論	○
人間環境大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

- ①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
- ②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
藤田医科大学	保健衛生学部看護学科	地域・在宅看護学概論	地域・在宅看護学概論	○
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
四日市看護医療大学	看護医療学部看護学科			
聖泉大学	看護学部看護学科		人権論	
京都先端科学大学	健康医療学部看護学科	看護治療支援技術論	看護治療支援技術論	○
京都看護大学	看護学部看護学科	社会学	社会学	○
京都光華大学	看護福祉リハビリテーション学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
同志社女子大学	看護学部看護学科	母子保健看護概論、看護と倫理	母子保健看護概論、看護と倫理	○
佛教大学	保健医療技術学部看護学科	慢性看護学Ⅰ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	慢性看護学Ⅰ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	○
明治国際医療大学	看護学部看護学科	薬理学、薬理学	薬理学、薬理学	○
藍野大学	看護学部看護学科			
大阪医科薬科大学	看護学部看護学科	健康科学論		
大阪信愛学院大学	看護学部看護学科			
大阪成蹊大学	看護学部看護学科	基礎看護学方法論Ⅲ、母性看護学援助論	基礎看護学方法論Ⅲ	○
大手前大学	国際看護学部看護学科	医療関係法規	医療関係法規	○
関西医療大学	保健看護学部保健看護学科	公衆衛生看護学概論、障害者と感染症の保健活動 「感染症と保健活動2」、障害者と感染症の保健活動 「難病保健活動1」、総合看護学演習「薬害について」	公衆衛生看護学概論、障害者と感染症の保健活動 「感染症と保健活動2」、障害者と感染症の保健活動 「難病保健活動1」、総合看護学演習「薬害について」	○
四條畷学園大学	看護学部看護学科			
四天王寺大学	看護学部看護学科	薬理学、在宅療養生活支援論		
摂南大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
千里金蘭大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
太成学院大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学、衛生・公衆衛生学	○
宝塚大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	○
梅花女子大学	看護保健学部看護学科	薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	○
近畿大学	看護学部看護学科	現代社会と倫理	現代社会と倫理	○
大和大学	保健医療学部看護学科	公衆衛生看護活動論、薬理学	公衆衛生看護活動論、薬理学	○
大阪歯科大学	看護学部看護学科	看護関係法規	看護関係法規	○
関西国際大学	保健医療学部看護学科	看護倫理Ⅰ		
関西福祉大学	看護学部看護学科	教養ゼミナール、薬理学	教養ゼミナール、薬理学	○
甲南女子大学	看護リハビリテーション学部看護学科	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅰ	○
神戸常盤大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、公衆衛生学	公衆衛生学	○
神戸女子大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
園田学園大学	人間健康学部人間看護学科	感染免疫学演習、疾病治療学Ⅰ		
姫路獨協大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	公衆衛生学	○
兵庫大学	看護学部看護学科	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	薬理学	○
武庫川女子大学	看護学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
兵庫医科大学	看護学部看護学科	母性看護学概論	母性看護学概論、慢性看護援助論	○
畿央大学	健康科学部看護医療学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
天理大学	医療学部看護学科	保健医療概論		
奈良学園大学	保健医療学部看護学科			
宝塚医療大学	和歌山保健医療学部看護学科	看護の統合Ⅱ（演習）	看護の統合Ⅱ（演習）	○
東京医療保健大学	和歌山看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
鳥取看護大学	看護学部看護学科			
川崎医療福祉大学	保健看護学部保健看護学科	保健指導論、健康危機管理	保健指導論、健康危機管理	○
吉備国際大学	看護学部看護学科	成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）	医療安全、成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）	○
山陽学園大学	看護学部看護学科	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、人権教育	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、人権教育	○
日本赤十字広島看護大学	看護学部看護学科		日本国憲法	
広島国際大学	看護学部看護学科			
広島都市学園大学	健康科学部看護学科			
広島文化学園大学	看護学部看護学科	病態微生物学、公衆衛生学	病態微生物学、公衆衛生学	○
福山平成大学	看護学部看護学科	成人慢性期疾患看護	成人慢性期疾患看護	○
安田女子大学	看護学部看護学科	疾病論Ⅰ、成人看護学	疾病論Ⅰ、成人看護学	○
宇部フロンティア大学	看護学部看護学科	薬理・薬剤学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	○
四国大学	看護学部看護学科			
徳島文理大学	保健福祉学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
聖カタリナ大学	看護学部看護学科	感染管理看護論、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ、関係法規、成育看護学Ⅰ・Ⅱ（小児看護学概論）		
久留米大学	医学部看護学科	生命・看護倫理	生命・看護倫理	○
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部看護学科	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）	地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援）	○
福岡国際医療福祉大学	看護学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
産業医科大学	産業保健学部看護学科	看護倫理学、成人看護学方法論（慢性期）、医療社会学、感染症学	リハビリテーション医学概論、看護倫理学、医療社会学、感染症学	○
純真学園大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		
西南学院大学	保健福祉学部看護学科	医療と倫理、看護倫理	医療と倫理、看護倫理	○

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和8年度 看護学部）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
- ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
聖マリア学院大学	看護学部看護学科			
帝京大学	福岡医療技術学部看護学科	臨床薬理学		
日本赤十字九州国際看護大学	看護学部看護学科	臨床薬理学		
福岡看護大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
福岡大学	医学部看護学科	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法	○
福岡女学院看護大学	看護学部看護学科	基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅱ	○
令和健康科学大学	看護学部看護学科		看護倫理学	
西日本看護医療大学	看護学部看護学科	保健医療概論		
西九州大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
活水女子大学	看護学部看護学科	看護倫理、看護医療と法規	看護倫理、看護医療と法規	○
九州看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	薬理学、感染症学	○
熊本保健科学大学	保健科学部看護学科	生命と倫理	生命と倫理	○
別府大学	看護学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
鹿児島国際大学	看護学部看護学科	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	○
鹿児島純心大学	看護栄養学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○

設置者別	①について	②について	①②とも
国立（42学部）	40学部	35学部	34学部
公立（53学部）	38学部	36学部	36学部
私立（216学部）	164学部	140学部	136学部
国公私合計（311学部）	242学部	211学部	206学部

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
旭川医科大学	医学部看護学科	薬害被害者の声を聴く授業（仮）	2	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の医療安全に関する意識が高まることを期待している。	現時点で未実施。	
弘前大学	医学部保健学科 看護学専攻	薬害防止に関する講演会 （講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））	4	本人	サリドマイド	直接被害に遭われた本人から話を聞き、医療の現場で起こりうる「薬害リスク」を実感することで、関心を高める機会になること。	現時点で未実施。 過去の講演会においては、「薬害への理解を深めることができた」「医療従事者として正しい知識を身につけること、疑問点や不安点を共有しやすい職場環境というのが大事であることを感じた」等の感想が寄せられている。	
秋田大学	医学部保健学科 看護学専攻	薬理学	2	本人	陣痛促進剤	薬害被害者の方の声を直接伺うことにより、薬害被害の背景や問題点について正しく理解することが出来る。医療従事者として働く上で持つべき責任感や倫理観の醸成に資する。	「特に印象に残ったのは、『患者のための医療』という言葉である。医療は患者の命や人生に深く関わるものであり、医療者側の都合や利益ではなく、患者本人の意思や安全が最優先されるべきだと感じた。」「実際にどのような被害があるのか、過去の薬害について知るきっかけとなり、医療者として患者さんには安心・安全に医療を受けてほしい、より一層考えるようになった。そのため、看護師としての知識はもちろんのこと薬学や、人とのコミュニケーションの取り方など多岐にわたり学ぶ必要があると考え、この大学で学べる4年間をより一層充実したものにすべきだと感じた。」といった感想があった。受講学生には全員にレポート提出させ、その内容を講演いただいた講師と共有している。	
山形大学	医学部看護学科	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）	4	本人	未定	薬害被害者から、直接、自分が被った薬害の実態や今後の医療への期待等の話を伺うことは、学生にとっては自分の今後を考える上で貴重な機会である。	薬剤は、人間に大きな影響を与えるため、薬が承認するまでにきちんとした過程を踏み、安全性を確認することが重要であることが分かった。 障害のある方を出会っても一人の人間としてとらえ、相手の立場に立って物事を考えられる医療者になりたい。 薬害において家族も被害者であるということを知った。	複数の薬害を取り上げることに より、医療の歴史について深く 学ぶことができ、薬害を防止す るために正しい知識や倫理観 を身につけることの必要性や、 薬害被害者との向き合い方を 考える機会となっている。
筑波大学	医学群看護学類	看護生命倫理	1	本人	非加熱製剤 によるHIV 感染	薬害被害者の当事者の経験と、薬害訴訟についての経緯を聴くことは非常に貴重な経験である。	非常によい。医療者を志すものとして身が引き締まるおもしろいであるというようなコメントを 多くの学生が感想として残している。	
千葉大学	看護学部看護学 科	連携協働実践Ⅰ	1	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者の経験が赤裸々に語られ、医療を受ける患者からみた医療の問題点が学生に伝わること。そこから、自分たちが未来の医療人としてどうあればよいかを考える機会となること。	講師から薬害は「人が起こすものである」という結論が述べられ、そのことを未来の医療人である学生が、自分自身の責任として認識できていることが授業後のリフレクションシートから伺われる。 当事者の視点から述べられた治療や検査の苦痛、無意識の偏見などの話を聞き、「診察や治療」「医療機器の開発」「看護ケア」「安全な創薬や調剤」など将来自分たちが担う役割に活かしたいという展望と、そのためには専門職連携が必要であるという認識が できている。	
東京科学大学	医学部保健衛生 学科看護学専攻	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮） ※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	2	本人	未定	薬理学の授業はあるが、国家試験のための必須事項の学習が主のため、薬害が患者の生活に及ぼす影響を学び考える時間が不足しがちであるなか、薬害被害者の生の声を通して、看護のあり方を考える貴重な機会となる。	薬害についての意識がより一層深まったという印象。熱心に耳を傾ける学生が殆どである。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
新潟大学	医学部保健学科 看護学専攻	助産学特論	4	家族	陣痛促進剤	子宮収縮薬（陣痛促進剤）は、臨床の間では、多く使用される薬剤である。薬剤を使用する際の情報提供、インフォームドコンセント、適切な使用を遵守の必要性等を遵守すること、並びに、使用した場合の対象者の訴え、反応を注意深く観察する必要性等などについて、当事者である家族の体験を通して学ぶ機会、重要で意義深いと考えている。陣痛促進剤の問題も、単なる医療事故ではなく、情報公開の不足、責任回避、遺族に対する無理解や偏見といった社会的構造が複合的に関わっていることを、将来、医療に関わる学生に臨床に出る前に学ぶ機会として利点がある。	昨年度の同講義では、学生は、薬害が薬そのものだけでなく、説明不足、観察不足、患者の訴えを軽視する医療者の姿勢によって生じることを学んでいた。特に子宮収縮薬の使用におけるリスク説明、同意、継続的な観察の重要性を認識し、事故から学び、患者の知る権利と自己決定を支える医療者でありたいという感想が多くみられた。	
富山大学	医学部看護学科	医療学入門	1	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変良い。課題としてレポートを提出させているが、それぞれが皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	初学者のうちに、多面的な角度から薬害について、学び考えることができるのは、これから専門教育を受ける上での礎となることが期待できる。
金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	1、1	家族、本人	イレッサ、サリドマイド	将来医療従事者となる立場から、薬害問題を自分自身の問題としてとらえることができる。 薬剤裁判の当事者から話を聞くことにより、紙面上（教科書上）のものではなく現実のものとして受け止めることができる。 被害者本人から語られることで、受講生が薬害を薬学領域における重要課題として真剣に捕らえることができる。	「医療制度や規則のあり方についても考えさせられた。」、「患者の安全を守るためには、医療機関や製薬会社、政府などが連携する必要がある。」「薬剤の作用・副作用を十分知らされないまま実際の医療現場で使用されていたことは、恐怖しか感じない。患者さんに安心してもらえるような医療が大事だと思った。」「受講生（1年生）の年代ではサリドマイド薬害のことを知っている人はわずかであり、はじめて知って驚いた、という反応が多く、またこのようなことが二度と起きないように自分が就いた職業で努力したいと感想を述べていた（昨年度全員に提出を求めた授業内容のレポートによる）。」など。	
福井大学	医学部看護学科	大学教育入門セミナー	1	本人	サリドマイド	被害者の方をお招きして直接話を伺うことにより、薬害の被害の大きさや原因・実態だけでなく、被害者やその家族に対する対応の歴史や偏見等、人権問題について具体的に知ることができ。また、将来医療従事者になる者として薬害問題への向き合い方を考える貴重な機会である。	1. 被害者講話への深い共感と感銘 教科書だけでは分からない、長年の身体的・精神的苦痛や周囲の偏見、未知の身体で生きる不安を知り、大きな衝撃を受けた。同時に、工夫を重ねて困難を乗り越え、薬害を繰り返さないために語り続ける前向きな姿に、強い尊敬の念を抱いた。 2. 薬害の本質（人災）と行政・社会への問題意識 海外での警告後も日本での回収が遅れ、被害が拡大した歴史から、薬害は国や企業の過失による「人災」であると強く認識した。また、副作用の科学的証明にかかる時間と被害拡大のジレンマ、医療や社会保障における国内外の制度の差にも高い問題意識を持った。 3. 将来の医療従事者としての強い覚悟と倫理観 医療者が無意識に加害者へ加担し得る怖さを知り、薬の利便性に隠れた危険性を正しく理解する責任を自覚した。患者を「病人」ではなく「1人の人間」として生活や人生に寄り添い、過去の教訓を未来の安全な医療に生かしたいという決意が数多く見られた。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
信州大学	医学部保健学科 看護学専攻	健康科学概論	1	本人	薬害エイズ	薬害に対する正しい知識が得られる。 単なる「副作用」とは異なる被害者・親族の身体・心理・社会的影響の基大さを生の声で聞くことができる。 薬害が派生する背景を制度や経済などの幅広い視点から考えることができるようになる。 1 年次から「薬物製剤」「薬物療法」等の背景にある社会的課題を視野にいれながら学ぶことができる。	代表的な感想：「薬害は避けられない副作用とは異なり、国・製薬企業・医療者の判断や対応の積み重ねによって生じる社会的被害であることが分かった」「薬害エイズの事例では、不確かな情報が拡散されたことで患者や家族だけでなく市や国規模で深い苦しみを受けていたことが印象に残った。」「最近では子宮頸がんワクチンや新型コロナウイルスワクチンの副作用の問題が起きているため、医療従事者として患者の不安や不信感を少しでもなくせるような説明、ケアが実施できるように知識を深めていきたいと感じた。」「感染症そのものだけでなく、エイズバニクによる偏見や差別が患者や家族の生活を苦しめた点も深刻な問題であると感じた。」	複数の種類の薬害については実施していないが講義内で「薬害の歴史的経緯」として、「薬害エイズ」の他に「サリドマイド薬害」「薬害スモン」「薬害ヤコブ病」などがあげられている。
岐阜大学	医学部看護学科	医学概論	1	本人	サリドマイド	薬害の歴史、行政等の対応、社会的偏見や被害者の心情等に関する理解を深めることができる。 学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。 医療従事者として、患者との関係や心構えを学ぶことができる。	初めて薬害というものに触れる学生も多くおり、実体験を聞くことで今後の医療従事者となる自身の糧とすることができている。	これまで、様々な薬害被害が繰り返されてきたこと、将来医療従事者となる学生に対し、将来の現場でこのような惨禍を起こさない心構えを学ばせることができる。
浜松医科大学	医学部看護学科	医療概論	1（編入 3）	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、看護師となるうえで心構えを学ぶ機会となる。	現時点で未実施。	
滋賀医科大学	医学部看護学科	保健医療行政論	2	本人	血友病患者への血液製剤による薬害、サリドマイド薬害、ソリブジン薬害、陣痛促進剤薬害、スモン	学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、生活していくうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会にはなかった。しかし、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生は薬害問題について自ら考える機会を得ることができ、将来看護師として医療に携わることを想定すると有意義である。 また同時に薬害エイズについては血友病治療の医療技術革新の過程で生じていることや、新たに認可された薬剤も販売後に初めて新たに見つかる問題があることを学べていた。 さらに看護職に引き寄せて薬害問題の再発予防策を考えるにあたって、薬剤の添付文書に目を通すことや、患者の訴えと文書情報を照合して問題がないかを確認するなど、育薬についても考えることができたことは評価できる。	特別講義後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指す者としての自覚が深まった」、「薬の副作用について、再考するきっかけとなった」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解できる状況である。	
神戸大学	医学部保健学科 看護学専攻	初期体験実習	1	本人	サリドマイド被害	入学後の早い時期に薬害被害者の講演を聴くことにより、薬害そのものや薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、医療関係者になる者としての責任と課題意識をもって今後の勉学に臨めるようになることが期待される。	初期体験実習：医療者になるものとしての責任と課題意識を持ったとの回答が多く寄せられた。	
鳥取大学	医学部保健学科 看護学専攻	病の体験と医療	4	本人	薬害筋短縮症中心	薬害の歴史、訴訟の経過、当事者の生の声を聴くことができ、被害者の置かれた状況を具体的に知ることができる。 看護者としての態度、行動を考えることができる。	薬害被害者の思い、薬害が被害者の生活等にどのように影響を受けたか理解できた。患者に対する偏見、差別を実感した。看護職、医療職の態度、行動を考えた。	複数の種類の薬害について授業では触れるが、今年度からはその効果や話そのものにふれることはあまりない。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
広島大学	医学部保健学科 看護学専攻	周産期健康障害看護	2	本人	陣痛促進剤	医療事故の重大性とその回避法について、患者の立場による捉え方を学習できる。 また、医療事故の解決を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、広く社会の問題として捉え、医療事故予防の政策反映を踏まえた活動について、その重要性を学習できる。	講義中に陣痛促進剤による被害を考える会のパンフレットに目を通し、紙に綴られた言葉一つひとつに被害に遭われた方々の強い思いとねがいが表象されており、看護・助産とは何かという問いに対し、常に心にとどめておきたいと強く感じた。 現代では、無痛分娩の方法がとられることも多く、また、様々な動画やニュースで陣痛促進剤などを使ったお産について聞くことが多く、メリットだけを知っていたため、実際に薬剤の使用によって起きた事故について、また、どのような経過をたどって起きたのか、医療者がどのような対応をしたのかを知ることができて、将来医療者になる身としてとても学びになった。 今回のお話を聞いて、医師や看護師などの勉強不足・知識不足はもちろん、倫理観についてもうなづかぬところがあった。患者さんが「痛い」「寒い」と訴えているのに、みんなそうだから大丈夫、普通のことであると決めつけて何も聞かない、対応しない事例が多く、どんなに忙しくてもどんなに「痛い」と言われても患者さんの一言一言を真摯に受け止め、医師に報告したりアセスメントしたりする必要があると思った。 今回の講義では、陣痛誘発剤をはじめとする薬剤の影響を学んだり、実際に出元先生の出産体験をお聞きしたりすることで、薬害について、また当時の医療者の倫理観や責務について衝撃を受ける事柄が多かった。 出元先生の講義を踏まえて、以下の2点について考えを深めた。1点目は、変化しうる医療現場での薬剤の普遍性です。高度な医療技術が開発され、新しい薬剤も出てくるのが予想されるが、一度開発された薬剤はその後も存在し続けるものである。ここで重要なのは、一度開発されると姿を変えない薬剤を、新しい医療に対して適応させていくことであると考えた。例として、近年、昔はあまりなかった無痛分娩に対して陣痛促進剤を適応させてきたように、今後の医療の変化や新しい治療において薬剤を適切に使うことが求められると考えた。2点目は、医療者としての責務と倫理観です。医療者は患者を主体として医療を提供することはもちろん、提供後の患者の人生に対して責任を持つこと、そして対象者を患者としてではなく、一人の人間として捉え、全人的な医療を提供することが求められると考える。例として、インフォームドコンセントやアドヒアランスなどのように、患者を中心とした医療を実現し、加えて、常に自分を客観視しながら患者家族と接することが重要であると感じた。 無痛分娩を選択する方が増えている中で、今日お話ししてくださったようなリスクがあることを知らずに選択してしまう方がいらっしゃることに驚いた。一見、痛みを伴わない良いお産という印象を受けるが、妊婦さんには正しい情報を伝えた上で決断してもらうことが重要であると思った。 薬の量や誤った薬を投与してしまうことによって、胎児にも母体にも大きな負担がかかってしまい、取り返しのつかないことになる危険性があるということを忘れてはいけないと思った。 今回の講演を通して、私は陣痛促進剤について知っているつもりだっただけで、具体的にどのような薬剤なのか、どのような副作用があるのかという基本的な理解が全くできていなかったことに気づいた。名前は聞いたことがあり、出産時によく使用されるイメージを持っていたが、実際には子宮収縮を人工的に強めるという大きな力を人体に加えるものであり、使い方を誤れば母児ともに重大な事故につながる可能性があることを今回初めて強く実感した。もしこの講演を聞かないままだったら、過去に起きた事故の背景や危険性を知らないまま、自分自身や将来の家族が医療の現場で不適切な説明のもと促進剤を使用され、被害者となっていたかもしれないと思うと、知識を持つことの重要性を痛感した。	
徳島大学	医学部保健学科 看護学専攻	薬害講演	3	①本人 ②本人	B型肝炎、C型肝炎	薬害被害の講演を聴き総合討論を行うことで、生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させることができる。	例年、多くの学生が現実の身近な問題として考える機会を持ち、薬害の実態を正しく理解することの重要性について前向きな感想を述べている。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
香川大学	医学部看護学科	薬害被害者の声を直接 聞く特別講義	4	本人	サリドマイド	薬害被害者の生の声を聞くことは、通常の講義とは違った角度から 学びを深めることができる。また、近い将来看護師となった際の責任 の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会と なっている。	薬害の歴史や薬害の実際を学べて良かったという声や、身体的な苦痛だけでなく、いじ めを受けたりすることについて深く考えさせられたという感想があった。	
愛媛大学	医学部看護学科	医療被害と看護	4	本人	C型肝炎	薬害肝炎訴訟原告団（本人・家族）が受けた様々な苦悩につい て生の声を聴くことができる。	単なる医療ミスではなく国・製薬企業の対応遅れや情報隠蔽などの構造的問題であ る、生涯を通して身体的・精神的・社会的苦痛を味わう、医療者の言動や制度による 苦痛・プライバシー侵害、偏見、差別・訴訟過程のストレスがある、医療は加害者にも なり得る、「命を守る責任」と倫理観の重要である、患者の尊厳を守ることが最優先で ある、異常に気づいたら声を上げる責任がある、過去の教訓を継承し再発防止に活か す、などを学んだ。	
九州大学	医学部保健学科 看護学専攻	医療系統合教育科目 「薬害」	3～4	本人	サリドマイド、 エイズ、ヤコ ブ病、肝炎	薬害の多さ、薬害の歴史的背景、過ちを繰り返さないための正しい 情報提供に関するシステムと限界などについて学ぶことができる。被 害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞く事によ って、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の実際の声を聞いて、より具体的に薬害について学び、理解が深まったという声 が多かった。過去の薬害では、国の対応の遅れ、医師や製薬会社の無責任な対応、 製薬会社の利益追求が原因—警告や危険情報に対する行動の遅れが問題であった ことを学んだ。医療従事者は加害者にも、被害者にもなりうる。薬物は、医師・歯科医 師→薬剤師→看護師とくると、もし疑問を感じたら、確認して与薬することが必要で、 良いコミュニケーションをとることが必要だと感じた。企業や行政の責任が大きい、私た ち医療従事者が「最後の砦」となる覚悟を持つ必要がある。他学部（医・歯・薬）の 学生と同じテーマで話すことができた。薬害を防ぐためには「幾重ものバリア」が必要で、 防げる可能性がある。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、自分の仕事はこれだけとせ ずに、重なる部分も自分の仕事と思ってバリアを厚くすることが薬害防止につながる。今 後も医療従事者の継続的な学習が必要である。	それぞれの薬害の発生の背 景、発生時の状況や対応の 違い等があるため、薬害に対す る理解や見識をより広めること ができる。
佐賀大学	医学部看護学科	コミュニケーション論	1	本人	サリドマイド	薬害被害を受けた方からの視点や立場から講演を行っていただくこと により、広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めるととも に、薬害被害の現状に接することができる。	薬害被害者の方の話を直接聞いたのは初めてで、とても貴重な機会になった。 薬害は薬そのものが原因ではなく、人の知識不足や誤った使い方によって起こることがあ るため、薬を服用する際は正しい知識と使用方法を理解し、適切に活用しようと思う。 医療従事者として、患者さんの力や意思を尊重し、相手のためになる支援を心がけたい と思った。	
熊本大学	医学部保健学科 看護学専攻	薬害被害講演会 【特別講演会】	3	本人	フィブリノゲン	薬害被害の実態、被害者がどのような思いで日々を生きてこられた のか、また医療施策の問題点について理解を深めることができる。	薬害被害の存在を知ることができた、医療者としてどうすべきかを考えるきっかけとなっ た、との意見があった。	
札幌医科大学	保健医療学部看護 学科	社会と健康史	2	本人	薬害エイズ	「社会と健康史」において、薬害被害者から直接的に体験を聴かせ ていただくことで、被害者やその家族に対する理解を深め、薬害が起 こらない社会を目指してできることを考えるきっかけとなる。	「社会と健康史」において、薬害エイズについて知識をほとんど持っていないかった学生 が、医療者として正しい知識を持ち、患者の利益を優先することが大事だという感想が 見られた。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
横浜市立大学	医学部看護学科	感染看護学、公衆衛生学	4、1	本人、本人	薬害エイズ、薬害肝炎	【感染看護学】 薬害エイズの社会的背景や制度的課題について、当事者の実体験を通して具体的に深く学ぶことができる。 対面で当事者の語りを聞くことで、言葉として語られる内容に加え、表情や声の調子、佇まいなどを通して、当事者の思いや経験の重みを学生が実感をもって受け止める機会となる。 実習や将来の臨床現場に向けて、患者の背景や経験に配慮した倫理的態度を養い、感染看護に求められる人権感覚を涵養することができる。 学生と当事者とのディスカッションを通して、主体的な気づきや内省が促され、感染看護における看護職の役割について考える機会となる。 【公衆衛生学】 薬害被害者から直接話を伺うことで、薬害を身近な問題として理解し、患者の視点や医療安全の重要性、医療者としての責任を深く学ぶことができる。	【感染看護学】 「薬害エイズは、国が止血効果を優先し感染リスクを無視した結果起きた問題。背景を学べてよかった」 「当事者の語りから、自分のHIVに対する偏見に気づいた」 「HIV感染症が“死の病”ではなく、日常生活を送れる慢性疾患であると理解できた」 「当事者の生の声に触れたことで、今後、偏見を持たずに向き合いたいと感じた」 「病気による差別の現実に胸が痛くなった」 【公衆衛生学】 R8年度は今後実施予定だが、R7年度に同様の講義を実施した際には、「看護記録が患者の安心安全なケアの継続だけでなく法的証拠にもなることは知っていたが、被害者さんのお話から、正確に記載する看護師の責任の重さを改めて感じた。」「患者の訴えの背景に目を向け、誠意をもって関わり、患者の健康をアドボケートできる看護師でありたいと感じた。」等の感想があった。	
公立小松大学	保健医療学部看護学科	保健福祉法医療制度論	2	本人	B型肝炎	教科書だけでは学ぶことができない患者様の視点や思い等を直接聞いて知ることができる。	学生が生まれる前の話で、「初めて知った」という経験をしている。	
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	臨床病態学Ⅱ	1	本人	集団接種によるB型肝炎	学生が薬害被害者本人より生の声を聴くことにより、薬害に関して身近なものとしてとらえ、理解を深めることができる。	授業後のアンケート結果からも強い関心を示していた。	臨床薬理学では薬害一般の歴史や補償について扱っている。
大阪公立大学(府立大,市立大含む)	看護学部看護学科	看護学概論	1	本人	HIV/AIDS	卒業後必ずしも出会う機会が多くない薬害被害者から直接講義を受ける意義は、薬害が他人事や単に新聞の世界（過去の歴史）の話ではなく、薬害の事実から行政や企業倫理、患者・家族のの苦悩について理解することにつながる。当事者の思いや看護学生に期待するメッセージが組み込まれており、多くの学生が薬害エイズに対する理解を深めることができた。本学の卒業生は医療施設だけでなく、行政や公衆衛生に従事する者も多いので、将来感染予防対策等の行政能力の向上にも寄与するための基礎知識になると考える。	対面授業であり、当事者の思いが伝わったとの感想がみられた。薬害が単に薬の特性によるものばかりでなく、人間の行動や政策、政治・企業・医療従事者の腐敗によっても引き起こされる点を指摘する学生や、薬害を身近に感じ看護職としてどうあるべきかを考える学生が多かった。また、講義後のレポートでは、他の薬害にも関心を向けて調べる学生もいた。新型コロナウイルス感染とも関連付け、差別問題や患者の利益について考察する学生もいた。また、講演者の「看護学生へのメッセージ」に対して、「看護職として社会（社会的に弱い人立場にある々）に貢献できる人材になりたい」との感想が多く述べられていた。	
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	ケアマインド教育	1	本人	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	
下関市立大学	看護学部看護学科	看護管理と医療安全	2	本人	血液製剤によるB型肝炎ウイルス感染（予定）	薬害被害者の方から実体験を直接伺うことで、薬害の実態や背景にある課題への理解を深めることができる。また、患者の視点に立つて医療を考えることで、将来医療従事者として求められる責任感や倫理観を養う貴重な学びの機会となる。	現時点で未実施。	
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	看護学概論	1	本人	薬害エイズ	患者さんの生の声を学生に聞かせることができる。	実体験を聞くことができて有意義だったとの感想が多かった。	
高知県立大学	看護学部看護学科	グローバル社会と看護Ⅰ	1	本人	薬害エイズ・C型肝炎	薬害が身近に起こりうること、グローバル化が薬害を引き起こすこと、看護職の役割について実感を持ち理解することができる。	「血友病は感染症である」と誤解する学生がまれにいるため、例年、事前授業で血友病とHIV感染症についてそれぞれ説明し、フィードバックシートを確認し、後の授業で解説を追加している。	HIV感染薬害とC型肝炎感染薬害について同時に説明するが、薬害エイズの印象が強く、C型肝炎についての理解は若干弱い印象がある。
福岡県立大学	看護学部看護学科	看護倫理学	2	家族	クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）	薬害を知ること、看護者の倫理観について考えることができていた。	病院などの手術が原因でヤコブ病になっても、入院を受け入れる病院が少ないのはおかしいと思った。潜伏期間が長く、本人は理由もわからないのは辛いと思う。普通に一緒に生活していても感染しないといっているのに病室を別々にされたり、洗濯物を病院では駄目だと言ったり責任逃れや偏見があると思った。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
宮崎県立看護大学	看護学部看護学科	人権論「薬害と人権―薬害被害当事者からの講演―」	1	本人	フィブリノゲン製剤による薬害肝炎	薬害被害当事者の体験を直接聞くことにより、学生は、疾患や制度に関する知識だけでは把握しにくい、被害後の生活の変化、周囲の反応及び偏見・差別等を具体的に理解することができる。	学生の具体的な感想については、集約していない。	
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	成人慢性看護学演習	2	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことは、薬害被害者に関する正しい知識教育をするうえで大変有意義である。	現時点で未実施。昨年度の実施においては活発なグループディスカッションができ、薬害被害に関する学生の理解を深めることができた。	
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	医療概論	1	本人	薬害エイズ	薬害HIV感染被害者の方に直接話していただくことで、薬害問題が誰の身にも起こりうる身近な問題であるのだと知り、予期せぬ医療上の問題が起こったときに医療者や行政を含めた関係者が速やかに誠実に対応していくことが何よりも重要であることを実感できるのが最大のメリット。また、薬害HIVを知らない学生が半数を超えてきており、当事者にお話をしていただくと、問題が風化しないよう次世代に語り継ぐのに非常に有効だと思う。さらに、専門科目に入る前の低学年向けに授業を行っているが、H I V・エイズについて感染ルートなどを知らない学生も年々増えており、性感染症に関して学ぼうとする契機にもなっている。	同一講義内の他の回と比較し、集中して聴いている。また、学生からは薬害について知らなかった、感銘を受けた等、大きな反響がある。	
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	保健医療福祉行政論	1	本人・家族	薬害エイズ	薬害被害者の当事者とそのご家族かた直接、お話を伺うことで、身近に薬害の問題をとらえることができ、将来、看護者として薬物を扱う際に、より慎重かつ対象者の側に立ったケア等が実施できると考えられる。また、医療に限らず、行政の問題など社会的な視点をもつことができると思われる。	学生より次のとおり感想があった。薬害について、今まで知らなかった多くのことを知ることができ、特に、薬害被害者に対する差別について理解を深めることができた。当事者の方のお話から、HIV感染の告知を受けた時には、医療現場でも差別を受けたということがあり、すべての医療者は、あらゆる人に対して適切な対応と治療を行うことが重要であることを再認識できた。 また、企業、官僚、医者への理解不足があったことも聞くことができ、今までの失敗から現在の薬害の対策のシステムが作られていることを理解することができた。 当事者の方の配偶者の方の話もとても参考になり、家族のサポートを続けることを決めた思いなど、貴重な話を聞くことができた。薬害を起こさないためには、まず私たちが薬害についての理解を深め、できる限りのサポートや運動を行っていくことが大切だと考えた。	複数の種類の薬害について学ぶことで様々な視点で薬害をとらえることができる。
岩手医科大学	看護学部看護学科	看護学概論（全人的医療基礎講義含む）	1	本人	薬害エイズ	薬害エイズ被害者の実体験を聞くことができる。	講義を受けて、薬害は単なる医療の失敗ではなく、人の人生や尊厳を深く傷つける重大な問題であると感じた。薬害によって苦しんできた人々の声を聞くことで、その痛みや悲しみの大きさを改めて理解し、医療のあり方を問い直す必要があると思った。薬害の歴史を学ぶことは、同じ失敗を繰り返さないための大切な一歩だと思う。薬害は専門家だけの問題ではなく、みんなが関わって考えていくべきだと思う。	
岩手保健医療大学	看護学部看護学科	基礎ゼミナール	1	弁護団	B型肝炎	B型肝炎控訴原告団と弁護団の方々の生の声を聴くことは、看護職を目指す学生が「安全な医療の提供や患者に寄り添う医療について」具体的に考える貴重な機会になった。 他大学とのリモートではあるが共通の教材をもとに、他大学の学生との交流（グループワーク内容の発表、意見交換）を通して、倫理的課題と向き合う際に必要な対話や協働について体験的に学習できる。また、合同授業により、各大学の医療倫理に関連する看護学教育内容の見直しや検討が進み、授業がブラッシュアップされ、より質の高い看護教育に寄与することが期待される。	学生からは「医療者の言動は患者の人生に大きな影響を与えること、国や医療の判断が人の命を左右することを改めて理解した。未来の医療者として、相手の立場に立ち、尊厳を守り、正しい知識を身につけることの大切さを忘れずにいたい」「医療は恩恵が大きい一方、誤った判断が多くの人の人生を左右する」等の意見が聞かれ、看護職を目指す学生として、安全な医療の提供や患者に寄り添う医療について考える授業になっていた。また、リモートではあるが、他大学の学生と合同授業の中で、互いに考えたこと、学んだことを共有することは、看護を学び始めた学生同士が刺激し合い、看護学を学ぶことへのモチベーション維持・向上につながっていた。	
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	アカデミック・スキル演習	1	本人と家族	B型肝炎	学生が薬害被害についての、倫理的課題を理解し、医療者の責任について考えることができる。	現時点で未実施。	
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	生と死の倫理	4	本人	サリドマイド	当事者の声を聴くことで、当事者の言葉でしか語り得ない経験や苦悩を知ることができる。	具体的な体験に基づく話を聴くことで、当事者の苦悩に関する理解が深まるほか、この問題に対する関心を持つ学生も多くみられている。	
常磐大学	看護学部看護学科	看護倫理	2	本人	薬害肝炎	看護職として、薬害被害に関する理解を深め、被害を受けた方々に寄り添う態度を養い、また薬害防止策や安全な薬剤使用を行うための責務と行動について考察する機会となる。	現時点で未実施。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
獨協医科大学	看護学部看護学 科	生命倫理学	1	本人	サリドマイド 薬害	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。	
埼玉医科大学	保健医療学部看護学 科	病むことの心理	2	家族	イレッサを中心 に我が国 における主な 薬害被害	当事者の方から直接お話を伺うことは、学生（含、教員）にとって極めて貴重な機会となっている。	学生はあらかじめ、薬害被害およびイレッサについて予習をしたうえで、講義に臨みます。講義翌週、グループワークを行って、翌々週の発表の準備をします。それぞれのグループが多様な視点で講師のお話を受け止めていることがわかる。将来、看護師として、「くすり」とどのように向き合っていくのか、という点についても、考えを深めることができている。	歴史上、複数の種類の薬害が発生していること、また、その根幹には共通する問題が存在していることを認識することが可能となり、医療者の姿勢を考える機会になっている。
大東文化大学	スポーツ・健康科学 部看護学科	Daito 'Green' Ceremony-Reflection on a Nursing Journey-（学科行事）、基礎ゼミナール（特別講演）	3、1	本人 (本人・ 家族の代 理人)、 本人	B型肝炎薬害被害、サリドマイド薬害被害	薬害被害の歴史的事実を知り、看護職者として薬害被害再発防止(医療安全)のために必要なこと学ぶことができる。特に、薬物に関する知識の必要性、安全な薬物療法実施のための技術、薬物療法を対象者へ説明できる必要性について学習できる。 薬害被害者の声を直接聴き、病気や身体・精神・社会的な生活上の苦痛について、認知的・情意的に共感できる能力を養うことができる。 後遺症がもたらす日常生活への影響とその支援のあり方について、看護職を目指すものとして学ぶことができる。 薬害被害者や弁護士からの声を聴き、偏見や差別の実態と権利擁護の実際と重要性について具体的に学ぶことができる。	実施済の授業科目2について寄せられた感想や決意として以下のものなどがあつた。 ・サリドマイド薬害は多くの人が知っている出来事ではあるが、実際に被害を受けた当事者の話を聞くことで、その影響は身体的な障害だけではなく、周囲の理解不足や偏見による苦しみにも及ぶことを知った。 ・印象に残ったことは、薬害を生み出すのも人であり、薬害をなくしていくのも人であるということである。今回の講義を通して、当時の医療が抱えていた問題や、薬害をどのように捉えるべきかについて深く考えることができ、とても貴重な学びの機会となった。 ・サリドマイド薬害は過去の出来事ではなく、その後も薬害が繰り返されてきたことを知り、同じ悲劇を二度と起こさないために学び続けることが大切だと感じた。 ・看護師の誤投与についても挙げられていて、サリドマイドの知識がないが故に起こってしまったと聞き、看護師や医療従事者はサリドマイドのみでなく、薬害の知識を現場に行く前から身につけておく必要があると感じました。 ・医療現場で患者さんと関わる場面に限らず、どんな性格、見た目、言語など様々な人に対してもレッテルを貼らずに可能性を信じて関わるのが相手にとっても自分にとっても成長に繋がるなと感じました。	複数の種類の薬害をテーマとすることで、薬害の発生過程や当事者に及ぶ影響などの多様な問題状況について理解を深めることができる。 薬害の歴史を多面的に学修できることから、医療従事者を目指す者として、薬害の再発防止や早期発見、薬害被害によるスティグマや権利擁護などの意識をより高めることができると考えられる。 異学年で実施することで、看護学の学修が進んだ状態で薬害に対する理解をさらに深めることができる。
日本医療科学大 学	保健医療学部看護学 科	臨床薬理学	1	本人	サリドマイド 剤被害	日本における薬害の歴史等を学ぶことが出来る。また、薬害被害の当事者より直接話を聞くことにより、被害者の置かれた立場や心理を共感的に理解できる機会となる。	単なる同情ではなく、当事者自身の強さを知ることができた。 薬害を根絶することの重要性を考えるきっかけとなった。 人間にとっての「しあわせ」を考える機会となった。	講師が日本における薬害の歴史を含めて講演されており、薬害根絶に向けた患者組織についても、学ぶ機会となっている。
目白大学	看護学部看護学 科	総合看護学セミナー	4	本人	サリドマイド・ C型肝炎	当事者の体験談を直接聴くことにより薬害被害の重大さを強く認識し薬害防止に向けた取り組みを通して、将来看護職として働くうえで自分たちの役割を考えることができる。	反応としてサリドマイド被害を「薬の副作用」という医学的な事象としてではなく、「防ぐことできた人災」として捉え、医療者の責任や医療倫理、安全管理の重要性を、自分自身がこれから医療現場で働く立場と重ね合わせて考えていた学生が多いた。 レポートでは、患者さんを「病気」ではなく、一人の人として理解することの大切さ、当事者の体験を直接聞くことで、教科書だけでは得られない学びがあつた、医療の進歩の裏には、過去の犠牲や教訓があることを忘れてはならない、エビデンスだけでなく、患者さんの思いや生活に目を向ける必要がある、などの回答があつた。	
城西国際大学	看護学部看護学 科	公衆衛生看護学概論	2	本人	薬害エイズ	薬害を風化させず、どんなことが起こり、今現在も苦しんでいる被害者がいることを学生が知り、患者の思いに寄り添う医療について自分は何ができるか真剣に考えるきっかけができること。	血友病や、薬害エイズのことは知っていても、ここまで深く知らなかった。裁判のことなど初めて知ることができた。差別や偏見の深刻さについて、深く考えさせられた。衝撃を受けた。ショックを受けた。絶対に起こってはいけないことだと思う。被害者の苦しみは、今も続いている。どれほど深い傷を残した出来事だったのか、初めて実感した。患者の人権を守ることが重要だと思った。信頼が裏切られて、被害が拡大したことについて、強い衝撃を受けた。この歴史を知り、被害者の方々の思いや覚悟を感じて、考えさせられた。自分は、患者に正直で、向き合う姿勢を忘れない医療者でありたいと思った。単に事件を知るだけでなく、今後のような看護師を目指していくべきかを考えさせられる大きなきっかけになった。 HIVの話の延長で薬害エイズの話も出たが、患者さんの話を直接聞いていたので、なぜ医療従事者も差別的な行動を行ったのか、今でも謎だと思う。	
帝京平成大学	健康医療スポーツ 学部看護学科	フレッシュセミナーⅡB	2	本人	薬害肝炎	実際に被害にあわれた方の話だと学生も理解しやすいと思われる。	実際の被害者のお話は分かりやすいという感想が多くあつた。	それぞれの特徴や問題点が整理できる。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	臨床薬理学	2	本人	サリドマイド	授業担当講師は、8年目の担当であり、当事者としての視点ではなく、歴史的背景を踏まえた事実の説明が丁寧である。それに加え、当事者および親族関係者の生き様が語られ、単に、薬害の再発防止にむけた切実な思いのみならず、学生に、看護専門職となることへの自覚を促す内容となっている。	昨年度は、事前の資料・生活の様子に関する動画視聴を経て、上肢短縮のあるご本人が、障がい者仕様の車で来校し、下肢で額の汗をぬぐう姿もオープンにし、かつ、直接学生に語り掛けるように講演をしてくださった。学生は、講師の熱意に引き込まれ、全員が講師をみつめて、集中力高く受講していた。授業後のレポートでは、薬害そのものをもっと深く知ろうとする記述や、講師の生き様に触れたことで得られた自分の人生の苦悩への示唆もあり、さらに、薬害をもたらす側になったり、早期発見する上での看護専門職としての責任を考えたなどの記載が豊富にある。今年度は、WEBアンケート回答締切後での実施回のため、同様を期待する。	
和洋女子大学	看護学部看護学科	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	2	本人	C型肝炎	薬害被害の歴史を含めた現状を知ること、また、当事者の体験を聞くことにより、薬害そのものへの興味関心が高まるとともに、患者の心情などへの理解も深まる。	昨年度実施した際、学生には受講後に課題レポートを課しているが、多くの学生が心を揺さぶられた内容や患者が病の中で生きることについて、また、医療者の責任について等の感想や意見を寄せていた。	
共立女子大学	看護学部看護学科	ヘルスアセスメント論	1	本人	輸入非加熱血液凝固因子製剤	当事者の方のお話を直接、お聴きすることができるため、当事者の視点を臨場感をもって体験でき、よりリアルに捉えることができる。入院歴が長いため、医療従事者への当事者側からの意見や感想もお話していただき、学生の持つ看護へのイメージが良い方向に変化している。血友病に関する事前学習、受講後の感想レポートを事後学習として提示しているが、講師は非常に熱心にしてすべて目を通してコメントやフィードバックをしてくださっている。このことも学生の理解の深化の一助となっている。	講師の体験をお聞きすることで、薬害問題に対する興味を持ち、自己学習をするようになったり、内容に感動をしてよい看護が実践できるように学習に取り組みたいといったモチベーションの向上につながっている。	
駒沢女子大学	看護学部看護学科	総合看護演習	4	本人	サリドマイド	薬害問題の講義を通して、薬剤の功罪について考えを深めることにつながる。治療のために、利益のために開発されたはずが、害を与えるものになってしまう。薬剤について、開発、治験、認証などの手順の重要性も再確認できる。また、サリドマイド薬害は胎児に影響を与え、奇形という辛い状況を引き起こしている。女性として、妊娠出産という出来事への捉え方、薬剤使用への関心にも影響を与える。専門職としては自分の身体だけではなく、母性看護学を学ぶ立場としても、薬剤の影響を受ける時期などの知識を深めることにもつながる。そして、当事者の方に授業を担当していただくことから、当事者の切実な思いを受け取ることができると考えられる。そして、障害をもって生きてきた実体験は、障害受容、差別、偏見について考えることにつながる、ノーマライゼーションにも意識を向けることができる。	現時点で未実施。	
帝京大学	医療技術学部看護学科	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」	3	本人	スティーブンス・ジョンソン症候群	学生が講師の闘病体験を実際に聞くことにより、SJSの症状の重篤さや深刻さを実感することができ、薬害が生活や人生に及ぼす影響をより深く考えることができている。	授業後のレポートの記述では、「身近な薬により講師の生活や人生が一変してしまったことに衝撃を受けた」など、薬害が及ぼす影響の大きさを実感していた。また、講師の入院中の体験談から、看護師として患者の思いを傾聴し寄り添うことの大切さを学んでいた。講演後のグループ討議では、看護師の役割として、患者に投与されている薬剤の副作用の知識を持ち症状の早期発見に努めることや医薬品副作用被害救済制度など利用可能な社会資源を患者・家族に情報提供することなどが挙げられていた。	
帝京科学大学	医療科学部看護学科	基礎看護技術Ⅲ	2	本人	スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症（TEN）	「薬物療法の援助」の授業開始のタイミングで講義を計画しているため、薬物療法の安全について受ける側と提供する側、両方の立場になってこの問題を考える機会となっている。さらに、当事者から講演いただくことで、学生に直接的に薬害の状況や当事者の想いが伝わる。また、医療従事者へ求められること、学生自身も被害者となりうることなど、身近な問題として捉えられている。	「当事者の話を直接聞くことで、不安や辛さを身近に感じることができた。一人ひとりの気持ちを大切に看護を心がけたい」「救済制度についてはじめて知った。知らなければ使えないため、制度について情報提供できるようになりたい」「救済制度について多くの人に知ってもらいたい」「薬剤の適切な使用方法を守ることの大切さを感じた」「身近な薬が重篤な副作用を引き起こす可能性があることを知った」「薬の作用や副作用を正しく理解し説明することが必要」など、薬剤を扱うことに対して、安全への意識が高まったようである。	複数は実施していない。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
帝京平成大学	ヒューマンケア学部 看護学科	臨床薬剤学	4	本人	サリドマイド	サリドマイド薬害被害者である講師の講義を聞き、薬害の原因、安全性の確認、国の承認制度、被害者への対応などを幅広く理解することができ、看護職に就く者としての責務を含め、薬の安全を考える機会となる。	現時点で未実施。	
東京有明医療大学	看護学部看護学科	入門ゼミナールⅠ（学びの姿勢）、基礎ゼミナール	1、2	本人、本人	薬害エイズ、薬害エイズ	被害の実態や偏見等について被害者自身から直接伺うことにより、被害者の気持ちに寄りそうことができる。教科書や座学で得られる知識ではなく、生きた学びの機会として重要である。看護師を目指す者としての医療倫理について考えさせることができる。	現時点で未実施。	本学では看護学科1・2年生合同で、C型肝炎と薬害エイズの被害者の声を聞く講演を交互に実施している。それぞれの背景や被害の実態を知ること、幅広く薬害問題を考えることができる。
東京医科大学	医学部看護学科	キャリアデザインⅠ（基礎）	1	本人	薬害エイズ	1年生科目のため、早期から看護師の与薬に対する責任の大きさを理解できる。薬害の当事者の支援に興味をもつ。	看護師としては患者との信頼関係の構築、多職種連携における報告と情報共有、患者や家族への情報提供と説明責任、チームで意思決定を支えるの重要性への理解の深まりがあった。当事者や家族の立場では情報収集や状況の把握、医療機関への相談やセカンドオピニオンの活用など自身がよく理解する重要性への認識がみられた。また、多くが薬害エイズ事件は過去の話ではなく現在も継続している問題であること、同じ過ちを繰り返さないために自分事としても捉える機会になっていた。さらに、精神疾患や難病などで差別を受けている方に関心を寄せていた。	
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	看護倫理学	3	本人	サリドマイド	対象者の体験をうかがうことにより実際のご苦労や世間の対応について実感できる。また、障害のある人への学生自身の態度を振り返るきっかけになる。 薬害被害について理解することができ、薬の承認過程などの重要性が実感できる。	学生は講義に真剣に聞き入り、障害者に対する対応を振り返り、自身の態度を変えようと考えていた。また、医療事故を未然に防ぐ必要性についても考えるきっかけになったと感想を述べていた。 講師から「自分を認めることは相手を認めること」という話を伺い、自分を受け入れることの重要性に気づいた学生もいた。 本学は助産師養成課程もあるため、サリドマイド被害について深く考えた学生もいた。 薬害被害の実態から啓発活動の重要性を感じた学生が多かった。 （昨年度と同様の反応・感想が多く見られた。）	
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	看護と倫理	2	本人	市販薬の薬害/サリドマイド	薬害の歴史的背景と当事者のおかれた容共の困難さについて理解を深め、事故の考えを記述することができる。	薬害の歴史について学びまとめた上で薬害にあわれた方々から直接お話を伺うことで薬害の歴史的背景を理解し当事者の方々のおかれた状況の困難さを理解できる。過去の反省を踏まえて人々の共生を可能とする社会の仕組みについて考察を深められる。	
東京女子医科大学	看護学部看護学科	薬理学	2	本人	HIV・HCV	当該授業は薬害被害者による講演形式で行う。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて学生が考えることを目的としている。薬害被害者の話を直接聞いたうえで、同様の背景にある患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを自発的に考える中で、医療人としての使命を強く意識させることができる。	現時点で未実施。	HIV/HCV重複感染の方から講演いただいている。重複感染患者の治療の難しさを知ったうえで、患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを本学の理念である「至誠と愛」に沿って自発的に考え、医療人としての使命を強く意識させることができる。
関東学院大学	看護学部看護学科	基礎看護技術Ⅲ	2	本人	C型肝炎	看護師を目指す学生として薬害について学びを深め、患者の服薬に関する状況の観察について重要性がわかる。	現時点で未実施。	
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	薬と毒性学入門	1	本人	サリドマイド	薬害について、身近に感じることができる。	近年はサリドマイドの新たな発症はないため、被害者本人から話を聞くことで、「本当にあったこと」という真実が見られた。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	地域医療入門	1	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を書くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	講義後アンケートを実施した結果、「これまで医薬品とは病を治すものという印象しか持っていなかったが、その一方で、副作用というデメリットがあることを認識し、それと向き合っていくことが必要であると改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で、健康被害が生じるか否かという点をより重視して行うべきであると感じた。」という意見があった。	
横浜創英大学	看護学部看護学科	看護管理学	3	本人	HIV	薬害被害の当事者の方から、体験をふまえて薬害の実際について学ぶことで、薬害問題に関して深く考えることができる。また、学生は薬害問題を社会全体で考えることを認識できる。	紙面上では得られない生の声や生活上の障害を知ることによって、将来医療に携わることへの自覚が強化されたという感想が多い。	
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	診療看護論演習	2	本人	サリドマイド	被害者の生の声、薬害の歴史を学び、医療人としての心構えができる。学内教員では講義できない内容であり、差別について、医療におけるリスクについて学べている。	現時点で未実施。	
朝日大学	保健医療学部看護学科	「薬害被害者の声を聞く」特別講演	1	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者から生の声を聴くことで、その被害や言われなき偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の有害性や倫理観についても理解を深めることができる。看護の対象者の人権や看護師の役割、責任を考えるうえで、効果的な学修機会となる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができた等の感想が聞かれた。	
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	特別講義	1	本人	サリドマイド	過去の薬害の歴史と制度的課題を知ることで、今後の薬害を防ぐための構造的理解が深まる。また、当事者の語りを通して薬害の実相に触れることにより、医療者としての倫理観、患者中心の医療の重要性を学ぶことができる。	初めて「薬害」という言葉を聞く学生も少なくなく、衝撃を受けたと同時に、医療者として責任をもって薬を扱わなければならないという思いに至っていた。	
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	公衆衛生看護学概論	2	本人	薬害エイズ	本講義を受講し、学生は初めて薬害当事者と家族の苦悩を知ることができた。講義では、薬害の歴史から差別と偏見が生まれたこと、医療・教育・職業機関など社会に与えた大きな影響について学ぶことができた。看護師または保健師を目指す学生へ薬害当事者からの要望を直接伺い、自分たちは命を預かる仕事を目指していることが痛感できた。	学生は、薬害により差別や偏見を生んでしまう恐ろしさを知り、看護専門職として、正しい知識を持ち患者様に関わる自覚を新たにしたいという意見が聞かれた。また、学生は真摯に講義を聞いており、大変貴重な機会であったという感想が聞かれた。	
一宮研伸大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	1	本人	薬害エイズ事件	被害者の体験談を直接聞くことによって、看護師となる上で、自ら考える機会を得ることができる。	実施前であるため、学生の反応・感想はない。	
金城学院大学	看護学部看護学科	医療リスクマネジメント論	2	本人	B型肝炎	被害にあわれた患者さんからの直接のお話は、現時点でどのような問題を抱えているのか、どのような問題を抱えて生きてきたのかなどを学生は目の当たりにすることができる。それにより将来看護師として働く際のかかわり方や倫理的問題などを考えることが想定される。	本講義は、昨年度から継続しているものである。昨年度の受講生は、B型肝炎に対する正しい知識と過去の過ち、偏見や差別について学び、将来看護師として働く際に、当事者と関わる際の看護師としての役割を認識することができていた。今年度も同様の効果が期待される。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
中部大学	生命健康科学部 保健看護学科	薬理学	1	本人	サリドマイド	薬害被害者本人から実体験を聞くことで薬害がもたらした様々な問題について深く理解させることができる。また、ベッドサイドで患者に触れる機会の多い看護師が薬の副作用にいち早く気づくことの重要性を学生に理解させることができ、薬理学全体を通しての学習意欲向上にもつながる。また、薬害被害者として障害を抱えながらもひたむきに生きる被害者の姿が人間の生き様として、人生の先輩として、若い学生に勇気と感動を与えることにつながる。さらには、患者を守るとして医療者としての自覚の涵養にもつながる。令和7年度は同じ薬害の被害者を2名招聘して講義を実施したことにより、その被害の多様性、深刻性について、より深く学生に伝えることができた。	「一生懸命に生きてても幸せではないと感じてしまっている方達（薬害被害者）がどうしたら楽しめるか、どうやってやりたいことをやるのか、社会全体で考えることが大切である。」「サリドマイド被害者のように、長期にわたり複合的な障害や社会的困難を抱える人をどのように支えていくのか、医療職者を目指す者として考え続けなければならない。」「私はこの（講義を聞いた）経験を胸に、患者一人ひとりの人生に寄り添える看護師を目指していきたい。」「まず、私たちが知って社会全体の理解を深める必要があると考えた。」「患者さんが抱えている悩みを理解し、その人が生まれて、生きてきてよかったと思えるような生活面でも精神面でも支えていくことがたいせつなのだと思った。」「患者の声に耳を傾け、その人の人生や価値観を尊重する姿勢を持つことが、医療者としての基本であると改めて感じた。」「私もこれから医療従事者として、病気になるのを防ぐということも大切であると思うけど、様々な人に病気について知ってもらうことも大切だと思いました。」「私も実際に講義をしてくださるまで薬害がどんなに恐ろしいものかイメージができていませんでした。実際に薬害を受けた方にお話を聞くことができてとても良かったです。」「薬害によって人生を大きく変えられてしまった人々への理解を深め、薬害を受けた人々が生きやすい環境づくりが大切と感じた。」「実際にサリドマイド薬害を経験した人の話を聞いて、見た目は他の人とは違っても、みんなと同じ一人の人間であるため、すべての人が障害に対する理解を深めて尊重していく必要があると思った。」「など。	
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ	2、2	本人、家族	B型肝炎、B型肝炎	薬害被害者及びその家族の方から実体験を聞くことで、薬害がもたらした様々な問題について理解を深めることができる。また、これから医療従事者を目指すものとして、求められる知識や態度、行動などを考える機会となり、専門職者としての責務への自覚が高まる。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。	
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	特別講義1	2～4	本人	肝炎	病気や障害を持って生きる当事者の生活を知り、看護職として具体的な支援内容を知ること、医療の場でのケアの質向上につながる。 薬害問題を理解することで、医療や医薬品が絶対的なものではないことから、専門職として適切なアセスメントが必要であることが理解できる。そのためには常に自己研鑽が必要であることが理解できる。対象者の人権尊重、人権擁護の立場が理解できる。	学生は、薬害問題、特にB型肝炎は知らないうちに感染しており、個人の責任ではないことから、医療の場での観察や確認が必要であると考えていた。本講義に関する意欲は高く、特に当事者から直接話が聞ける機会は重要であると考えていた。グループワークや課題にも積極的に取り組んでおり、薬害問題を知れたことはよかったと評価していた。 看護師として就業する際には薬害ということも念頭において業務をしたいとの考えも聞かれた。	
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	3	本人	サリドマイド	講義は看護学部内の「臨床薬理学」の授業として、この講義は薬学部と合同で行っている。このことにより、対象の看護学部3年生に被害者の体験を直接対面で受講することができ、他の世界で起きているのではない出来事として捉えることができたこと。	本講義は真剣に受講している学生が多かった。感想としては、薬害被害者から直接体験を伺うことで、薬害が起こるまでの経緯や被害の甚大さ、薬の安全性の確保の重要性を自分のこととして捉え、将来看護師として患者の安全を第一に考えて行動できる看護師を目指したいなどが多かった。	看護学科カリキュラムでは、薬害については1年次選択科目「薬の役割・薬のできるまで」を受講し、3年必修科目臨床薬理学で薬害被害者の体験と救済制度を、そして4年次に特別講義としてB型肝炎ウイルスの薬害被害・救済制度について学習している。このように薬害に関する学習機会を複数学年で行うことにより学習内容は強化され、看護の専門知識をもとにした薬害被害者の体験に関する理解が深まり、看護師として果たすべき具体的な役割を考えられている。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
四日市看護医療 大学	看護医療学部看護 学科	母性看護学概論	2	本人	陣痛促進剤	薬害問題について、事故当事者による貴重な体験談を聞くことができる。	今回の授業を通して、日本では出生数が月曜日に多く、土日になるにつれて少なくなることや、13時頃に出生数が最も多いことが分かった。さらに、子宮収縮薬は母児の安全のために必要な場合もある一方で、使用方法や観察を誤ると重大な事故につながる危険性があるため、適切な管理と継続的な観察の重要性を学んだ。 今日の授業を通して、陣痛促進剤は適切に使用すれば有効な薬である一方、使い方を誤ると母子の命に関わる重大な事故につながることを学んだ。また、医療者は薬の知識だけでなく、患者への十分な説明や観察、安全を最優先に考えた対応が重要であると改めて感じた。 女性の意思決定を支える看護とは、出産や治療について十分な説明を行い、本人が理解し納得したうえで選択できるよう援助することだと理解した。看護師は処置を行うだけでなく、不安や疑問に寄り添い、患者の気持ちや価値観を尊重しながら、その人らしい選択ができるよう支えることが大切だと学んだ。 陣痛促進剤は一気に大量に入れるのではなく、少しずついれ、用量を守ることが大切ということを学びました。頻繁に陣痛が起こってしまうと赤ちゃんも苦しい。お腹が常に、張っているのは子宮破裂の前兆だと知ったので、患者さんや、看護師、助産師が触診をして感じ取ることがとても大切だということを知りました。 医療現場でも、リスクのある薬について説明がないことや、用法・容量を守らないことがあると学んだ。出元さんの経験から、医療職が患者に寄り添わないことがこれほど患者の不安や危険につながるため、薬の使用について説明したうえで同意を得たり、患者に寄り添うことが患者の安全につながると学んだ。 分娩時の痛みを単になくすることが大切なのではなく、女性一人ひとりがどのようなお産を望むのかを尊重し、その意思決定を支えることが医療従事者の大切な役割であると学んだ。そのために、薬剤のメリット、デメリットや副作用、母体や胎児への影響についても分かりやすく説明し、十分な情報提供を行う必要があると感じた。 陣痛促進剤を使用することで、子宮口があまり開いていないのに、陣痛が短時間に何回もあることや、妊産婦さんからの訴えがあるのに、おかしいと考えず、すぐ対応しなかったことから事故につながったことから、医療職の対応が大切であると学んだ。また、無痛分娩も今増えてきているが、こんなにもリスクがあると学んだ。 陣痛促進剤による事故の事例を通して、安全な出産を支えるためには、母体や胎児の状態を継続的に観察し、異常を早期に発見して迅速に対応することが重要だと学んだ。また、患者への十分な説明と同意を行い、不安な気持ちに寄り添いながら、安全で安心できる医療を提供することの大切さを改めて実感した。 陣痛促進剤を用いての出産を提案している理由が医師の都合での使用でないか、本当に医学的な理由で使用しているのかについて考える必要があると学んだ。分娩時間が短いことは妊産婦にとって本当の利益であるか考える必要があり、本人の本当の気持ちを聞き尊重する必要性や正しい情報の提供を行う必要があることに気がついた。	
同志社女子大学	看護学部看護学 科	母子保健看護概論	2	家族	陣痛促進剤	大学2年生になり、看護に係わる専門的知識と技量を日々学ぶ学生たちにとって、「患者の語り」に触れることは、数年後に看護師として医療の現場で勤めるという自覚の芽生えをもたらすものとする。	実施前につき不明。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

1中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
関西医療大学	保健看護学部保健看護学科	総合看護学演習	4	本人	調整中	薬害問題、B型肝炎ウイルス問題について理解できる。薬害を起こさないために自分たちができることを考えることができる。	当事者の方が語られていた、エイズとわかった途端に医療者から差別を受けたという体験は、とても強く心に残った。医療者は本来、病気を持つ人を支え、安心を与える立場であるはずなのに、その存在から差別を受けたという事実は、当事者にとって計り知れない苦しみだったと思う。また、そのような偏見や差別は医療の場だけにとどまらず、社会全体においても存在していることを知り、私は大きな衝撃を受けた。病気そのものによる苦しみ以上に、社会からの偏見や孤立が当事者を傷つけ、生きづらさを与えているのだと感じた。 講師の先生が仰られて「患者さんだけでなくその周りの人の存在も大切だ」ということに深く共感した。今後私が看護師として生きる上でこの観点は大切にしていきたいと考えている。 薬害での差別の話聞き、昔から問題となっていることでも、今もずっと問題であり続けていることが多いと感じた。医療に関わり、看護職として正しい知識を持って関わることが必要だと感じた。	講義・講演後の学生アンケート結果（104名） ・「薬害とは何か」について、理解できた（93.8%） ・「薬害被害」について、理解できた（97.1%） ・「薬害を起こさないためにどうしたらよいか」考えることができた（100%） ・「当事者の思い」について、理解できた（100%）
摂南大学	看護学部看護学科	看護倫理	4	家族	陣痛促進剤による薬害	薬害被害者の生の声は、看護学教育コアカリキュラムの内、【A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力、A-1 プロフェッショナリズム、A-1-2）看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護、B 社会と看護学、B-2 社会システムと健康、B-2-2）環境と健康】の習得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションが格段に向上すると考える。	陣痛促進剤による被害者から実体験を直接伺い、当時の医療や医療者の実態を授業によって知り得たことで、医療者としての責任の重大性を認識したとともに、専門職業人としての自覚と姿勢を新たにしたいとの感想や反応を得る事ができた。 また、薬害の被害者となる患者と最も近い位置に存在する看護職の倫理観が薬害の防止にもつながることや社会の仕組みにも目を向け、常に患者や我々の人権が尊重されているのかも問い続けることの大切さを実感できていた。	
宝塚大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	2	本人	薬害エイズ	薬害エイズ問題を題材に、HIV訴訟の原告当事者から直接講演をいただくことで、患者の視点から医療被害や人権について考える貴重な学びの機会となった。また、薬害が発生した当時の社会情勢や専門家によるリスクの軽視、行政の不十分な対応や長年に渡る情報の隠蔽とその体質、医療従事者の責任についてこれまでの経緯と経験をj知り理解を深めることができた。 医療職を目指す学生にとって、医療の発展の過程で生じた過ちとその教訓を学ぶことは、患者中心の医療や医療倫理を考える上で極めて重要である。実際に大阪HIV訴訟に原告として参加した当事者の体験や思いに直接触れることで、学生は患者一人ひとりの命や尊厳、権利や公衆衛生行政について深く考え、自らが将来担うべき役割や責任を主体的に内省する機会となった。	講演後の学生からは、「書籍や映像で学ぶのとは異なり、実際にHIV訴訟を経験された当事者から直接話を伺うことで、一つ一つの言葉に重みを感じた」「HIV訴訟原告団長ご本人の語りから、薬害エイズ問題や当時の血液行政について初めて知ることが多く、驚きとともに深い学びにつながった」といった感想が多く寄せられた。	
大和大学	保健医療学部看護学科	生命基盤統合科学演習「当事者の声から学ぶ薬害の真実」	1	未定	未定	現時点で未実施。	現時点で未実施。	
関西福祉大学	看護学部看護学科	教養ゼミナール	11	本人	薬害筋拘縮症	医薬品等による薬害の実体験を聞くことにより、薬害の怖さや被害の大きさを自分のこととしてとらえることができ、さらにその発生の過程や社会的な動き等の理解を深め、同様の被害が起こらない社会の仕組みの在り方等を考える契機となる。また、今後医療従事者として、薬を正しく扱うことの重大な責任について考える契機となる。	今回の講演を通して、医療従事者には安全な医療を提供する責任があることを改めて感じていた。薬害筋拘縮症について学び、医療行為によって生じた障害であるとともに、製薬会社や当時の医療制度など様々な要因が重なり、本来であれば防ぐことができた可能性を指摘していた。医療の進歩によって多くの病気が治療できるようになった一方で、その医療によって苦しむ人が生まれてしまった歴史があることを忘れてはならない。同じような被害を繰り返さないためには、医療安全への意識を高く持ち、患者の立場を第一に考えながら看護を実践することが大切であると感じていた。 また、将来看護師として働く際には、患者を「病気を持つ人」としてではなく、「一人の生活者」として理解できる看護師になり、身体的障害だけでなく、人生に及ぼした影響も重く受け止め、患者一人ひとりの言葉に耳を傾け、その人がどのような人生を歩んできたのかを知ろうとする姿勢を大切にしたいと感じていた。	薬害の原因を多面的に理解することができる。さらにそれぞれの発生原因や社会的背景を学ぶことを通して、医療を広く社会全体の視点からとらえることができる。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
神戸女子大学	看護学部看護学 科	看護倫理	4	家族	陣痛促進 剤、無痛分 娩（麻酔 薬）	ご自身が薬害被害者家族であり、長年にわたって薬害と医療事故に関する市民活動を実践してきた講師による、被害者としての体験を生声から理解できる。また、多くの薬害の事実と医療事故に関する市民活動の実践について幅広く知り、看護職としての倫理について考えを深めるために、大変インパクトのある講義となっている。	卒業を間近に控えた4年生後期の看護倫理の授業において、薬害被害者家族の切実な思いと、薬害に関する多くの事実を知り、さらに被害者の立場から看護職に望む倫理的な感性や態度、倫理に基づく実践について学ぶことができた。数ヵ月後には看護師として実践の場に出る前にこの授業を受けることで、学生達は身の引き締まる思いを強くしていた。	
武庫川女子大学	看護学部看護学 科	成人看護学概論	1	本人	薬害筋短縮 症	1年次の段階で薬害被害者の声を直接聞くことにより、薬害や薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、看護師になる者としての責任や課題意識を持って今後の学修に臨める。学生の倫理観の醸成につながるとともに学習意欲の向上に役立つ。	授業での学生の反応や授業後のレポートでは、「これまで医師の指示や処方とは絶対的に正しいものと認識していたが、指示を受け薬剤投与を行う看護師として、本当にその方にその薬剤が必要なのか、その投与方法が適切なのか、見極める必要があると思った」「おかしいと思ったこと、疑問に感じたことをそのままにせず、声に出していくことが大切だった」等が挙げられた。	
兵庫医科大学	看護学部看護学 科	母性看護学概論	2	家族	陣痛促進剤 被害	当事者の視点で医療制度における問題、医療のあり方における問題について考える機会となる。また、妊娠・出産における意思決定支援の重要性について学習することができる。	現時点で未実施。	
畿央大学	健康科学部看護 医療学科	保健医療福祉システム論 I	4	家族	陣痛促進剤	薬害の被害に関する現状と問題点及び課題について当事者の立場から直接具体的な話を聞くことにより、薬害被害に対する問題意識が高まる。	実際に薬害の被害を受けた方の話を聞いたことで、受けた苦痛の大きさや、未だに十分な対応がされていないことに対するやるせなさを痛感した。また、来年度から看護師として従事する者として、どれだけ責任感のある職につくのかを再認識することができた。今回の講義を通して、薬害は薬の副作用だけでなく、人為的な判断ミスや情報不足からも起きることを知った。医療者として、支持をただうけるだけでなく、自分でも考え、声を上げる姿勢が大切だと感じた。この知識を知っておくことで、担当する患者さんだけでなく、周囲の人の命を守ることにもつながると実感した。今後は自分の気づきを大切に、責任ある行動を心掛けていきたい。 陣痛促進剤による被害や現在の日本の分娩状況の実際など、教科書では知ることができなかった事実を知ることができ、医療従事者として理解しておかなければならないこと、医療従事者が持つべき倫理観や心構え、患者に対する姿勢を改めて考える良い機会になった。 子宮収縮薬には感受性の個人差があり、その差は200倍にもなるという事実を、かつての看護師たちは知られていなかったことを知って驚いた。そのため、妊婦全員に投与するのが当たり前とされ、たとえ一部の患者が強い苦しみを訴えても「他の患者は大丈夫なのだから我慢してもらうしかない」と考えてしまうのも無理はなかったと思う。このような情報を医療従事者が事前に知っているだけで、「この人は感受性が高いのではないかと早く気づき、すぐに対応できたのではないかと考えた。 薬害とは薬による害なのではなく、人災により防ぐことができる被害が拡大することというお話があり、知識があれば、早く措置が取られていれば救うことができる命があることを知り、将来医療従事者になるうえで自身の行う処置、看護に責任を持って、関わらなければならないし、学び続けて知らないことを減らすという姿勢が重要であると学びました。今後医療従事者につく一人としてすごく感銘を受けた授業であり、無知の怖さを痛感しました。 (以上、2025年度の主たる感想)	講師が講演の冒頭に、様々な薬害があることを紹介してくれている。具体的な被害は陣痛促進剤のことを講義して下さるが、その他にも様々な薬害があることを学生たちは認識してくれている。
安田女子大学	看護学部看護学 科	まほろば教養ゼミⅣ	4	未定	未定	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生は薬害被害を身近な問題として捉えることが出来る。薬害被害について知識を持った看護師を育成することが出来る。	現時点で未実施。	看護の専門科目では薬害に関する基礎知識を、特別科目（まほろば教養ゼミⅣ）では薬害被害者の体験を学ぶことが出来る。

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
宇部フロンティア大 学	看護学部看護学 科	特別授業（薬害被害者 講演会）	4	本人	HIV	薬害被害者に直接話しを聞くことができ、薬害被害者となった経 緯、思い、差別や偏見の実情など、被害者でなければ伝えることが できない内容である。	薬害をなくすために、差別や偏見をなくし、患者に寄り添って関わっていくことが大切だと 学んだ。薬害を起こさないために私たち医療従事者の正しい知識を身につけることが大 切である。また、患者さんや家族がどのような気持ちであるのかを常に考え、共感すること が大切であると考えた。薬害による後遺症などの被害について、十分な知識を持つこと が重要だと思った。実際に聞くことによって、薬害が人にどのような影響を及ぼすのかさら なる理解に繋げられると感じた。	講義が4年生ということで、全 ての関連科目が終わっているた め、理解がすすんだと考えられ る。
人間環境大学	松山看護学部看 護学科	陣痛促進剤事故について 知ろう～誘発分娩で子宮 破裂した本人が語る～	3年次	本人	陣 痛 促 進 剤 事 故	薬害の被害にあった方の実体験を聞くことで学生の薬害についての 理解が深まる。	【学生の感想(昨年度)】 ・命と向き合う医療者の誠実さと大切な責任の重さを感じた。 ・看護職者になるものとして、患者をしっかりと観察し、訴えを傾聴し、異常に気付ける知 識と早急に処置できる技術を身につけたい。 ・きちんと看護師の知識を身につけ、患者とそのご家族により看護を提供したいと 思った。 ・今回学んだことを将来活かして、仕事をしていきたい。 ・陣痛促進剤や薬害に関する事故について詳しく知らなかったため、学ぶことができてよ かった。	該当なし。
久留米大学	医学部看護学科	生命・看護倫理	1	本人	サリドマイド	薬害被害者に対するリアルな関心、心を寄せられるようになる。自 己の健康管理への関心の向上	多くの学生が障害のある人の苦悩や不利益、その後の将来などに思いを寄せる必要性 を感じ、共感以上に今後の看護職者として活かしていきたい。（前年度回答より）	
国際医療福祉大学	福岡保健医療学 部看護学科	地域・在宅看護論Ⅱ (地域での療養支援)	2	本人	C型肝炎	「薬害」について、被害者の経験や人生のかたまりを直接聴くことによ り、不必要な先入観を避け、学生にストレートに伝わり、理解しやす い。	現時点で未実施。	薬害といっても、その発生の経 緯や社会背景、国や企業の 課題や役割も異なる。これによ り、被害者への身体/心理/社 会的影響が異なり、差別や偏 見までもが変わってくる事実を 知ることができる。
産業医科大学	産業保健学部看 護学科	看護倫理学	2	本人	血液製剤に よるHIV感 染	薬害被害の方の体験を拝聴することにより、看護専門職として、正 確で丁寧なインフォームドコンセンツの重要性、薬剤投与の目的・適 応、使用方法・適切な投与量、副作用に対する学修の必要性、 薬剤使用前・中・後の観察の重要性、患者の訴えや気持ちに寄り 添うことで薬害の予防ができること、また専門職としての責務について 理解が深まると考える。 また、薬害エイズ問題が過去のもとなり、20歳前後の学生は、知 らない、過去の問題となり風化しつつあり、さらに、ケアギバーの高齢 化問題、未婚率の高さなど、これからの医療を人材には新たな課題 が提示される。	対面の講義となり、自分たちがいつ経験するかわからない場面であることが理解できた。 しかしながら、学生にとっては、薬害エイズの被害は過去の出来事であることから、継続 して教育する必要性があることがわかった。	
福岡大学	医学部看護学科	薬のはたらきと薬物療法	2	本人	薬害C型肝炎	学生が医療者としての責任を自覚できる。また直接、薬害被害者 の話を聴くことで、看護者として薬害が繰り返されないために、他人 の痛みを自分の痛みとして感じる感性や想像力をもつことの重要性 を認識でき、薬物投与における倫理的感受性を高めることができる。	回答提出時点では実施前のため令和8年度の学生反応・感想はなし。ただし、例年 の学生反応・感想として、薬害に対する理解が深まただけでなく、医療従事者としての 倫理観や責任感が強く育まれており、特に被害者の声を通じて「薬の力の両面性（治 療と害）」を実感し、今後の医療現場での行動に活かそうとする意識が高まっている。	

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和8年度 看護学部）

Ⅱ中96学部（昨年度307学部中95学部）

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げた 薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害についての 授業実施における効果
令和健康科学大学	看護学部看護学科	看護倫理学	2	本人	薬物エイズ (血友病)	教科書では学べない患者の苦しみや生活、家族への影響を知ることができる。 医療者にはどのような責任があるのかなど患者の権利について考える機会となる。	血友病と生まれてきた瞬間から戦って、ずっと通っていた病院があるのに、いきなり診察拒否されたという話が、私の中では1番衝撃的でした。医療者として何か事情があっても、目の前に命がある限り助ける必要があると思っていたからです。またこの話を聞いて自分は見捨てる側の人間にはなりたくないと思いました。後藤さんが最後に、看護師はいしゃよりも近く、医者の説明がわからなかった際にも説明をしておしてくれる存在だから、患者さん一人一人に寄り添える看護師になってほしいとおっしゃってくれました。絶対にそうなります。本日はお忙しい中講義をしてくださってありがとうございました。 今日講義を受けて、私は薬害エイズ事件のことを知らなかったし、国がHIVが混入した恐れのある非加熱血液凝固因子製剤に早期対応しなかったところに驚きました。医療技術に関して日本は先進国とよく言われるけど、約40年前までは非加熱血液剤に関して早期対応しないことや、HIVに感染した人をメディアで報道するなどといった今では考えられない被害者への対応をしていて当事者でない私も怒りが湧きました。自分もなりたくなかったわけじゃない病気なのに、きちんとした対応をとってくれなかったり、いろんな人に晒されて除け者にされたりすることはあってはならないと思います。それを国がしていたということ、命を守る立場の人間である病院（医師）も自分の利益だけを守ろうとしていたところが倫理観に欠けるなと思いました。被害者の人たちは自分だけでなく、家族やパートナーにも移してしまうかもしれないという不安や恐怖があったと思うのに、当時はそれを1番理解し治療し、支える医療者があまり多くなかったのかなと感じました。確かに自分にも移るかもしれないと考えたら避けたくなるのかもしれないけれど、正しい知識と対処をすれば困っている被害者を支えるその人らしい暮らしが守られるように支援することができる看護師になりたいと思いました。	
西九州大学	看護学部看護学科	あすなろう	1	本人	未定	看護師を目指す学生が当事者の話を聴くことによって、当事者の立場に立って考えたり、医療職者として何が大切なのか考える機会となる。患者の権利擁護についても理解を深めることを期待する。	該当なし	

薬害問題に対する各大学の取り組み状況（令和8年度 薬学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	○	薬学概論、医薬品情報学、医薬品開発論、臨床薬学事前演習、薬事関連法規、医薬品安全性学	薬学概論
2	東北大学	○	○	薬学概論2	薬学概論2
3	千葉大学	○	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、医療薬学Ⅱ、医薬品臨床開発、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ
4	東京大学	○	○	薬学特別講義	薬学特別講義（C型肝炎について）、薬学特別講義（サリドマイドについて）
5	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	①医薬保健学基礎Ⅱ、②医薬品安全性学
7	京都大学	○	○	医療社会学	薬害再発防止のために～薬害エイズの経験から～
8	大阪大学	○	○	薬学入門1、薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3、ヘルスコミュニケーション	薬学入門3
9	岡山大学	○	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	臨床準備教育C
10	広島大学	○	○	医薬品情報学、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論	患者志向型合宿勉強会
11	徳島大学	○	○	医療における人間学、基礎医療薬学、医薬品情報学、社会薬学、実務実習事前学習	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
12	九州大学	○	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ	薬学概論Ⅱ
14	熊本大学	○	○	医療倫理学Ⅱ	医療倫理学Ⅱ

合計	1	2
行っている	14 学部	14 学部
検討中	0 学部	0 学部
行っていない	0 学部	0 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 公立 (5 大学 5 学部)

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	岐阜薬科大学	○	○	医薬品安全性学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	○	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学、毒性学	早期体験学習、総合薬学演習
3	名古屋市立大学	○	○	医薬品情報学、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（上記薬理学Ⅳと合同）	薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（上記薬理学Ⅳと合同）
4	和歌山県立医科大学	○	○	社会薬学Ⅲ、薬学入門Ⅱ、医療倫理、ケア・マインド教育	薬学入門Ⅱ
5	山口東京理科大学	○	検討中	薬学倫理A、医療安全学1、医療安全学2	今後、薬害被害者の声を聞く授業、特別講演等について実施に向け前向きに検討する。なお、薬害被害者の声が収録されたDVDを「医療安全学2」にて視聴させている。

合計	1	2
行っている	5 学部	4 学部
検討中	0 学部	1 学部
行っていない	0 学部	0 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道医療大学	○	○	医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、医薬品安全、実務社会薬学複合演習	毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	○	社会と薬、薬事関連法制論Ⅰ、医薬品開発論	社会と薬
3	青森大学	○	○	薬学への招待、医療倫理	医療倫理
4	岩手医科大学	○	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	早期体験学習（全人的医療基礎講義含む）、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	○	薬学入門演習、医薬品安全性学、薬物管理概論、薬品毒性学	薬学入門演習
6	医療創生大学	○	○	薬品安全性学、医薬品開発概論	イグナイト教育2B
7	奥羽大学	○	○	医薬の歴史B、チーム医療学Ⅰa、医薬品毒性学	チーム医療学Ⅰa
8	国際医療福祉大学	○	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	早期体験実習

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
9	高崎健康福祉大学	○	×	社会と薬学、調剤学、薬事関連法規、評価医療科学	コロナ禍前までは、サリドマイド被害者の先生にご講演をお願いしていたが、ここ数年は厚生労働省の薬学被害者と家族の動画を使って授業をしてる。
10	城西大学	○	○	薬学概論、毒性学B	薬学概論
11	日本薬科大学	○	○	医薬品の安全性、ファーマシューティカルケアI	ファーマシューティカルケアI
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	○	早期体験実習、衛生化学II、衛生系薬学実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	○	医療における薬学	医療における薬学
14	城西国際大学	○	○	生物学、薬学概論A、化学A、公衆衛生学、毒性学、医薬品化学A、薬事関係法規	薬学概論A
15	千葉科学大学	○	○	薬剤師の責務、薬事関係法規、ヒューマンズム、微生物学	ヒューマンズム
16	東京理科大学	○	○	薬学入門（6年制、4年制）、病態・薬物治療学1（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）、臨床製剤学	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	○	薬学入門、衛生薬学実習、薬事関係法規・制度Ⅰ、医薬品開発Ⅰ、薬事関係法規・制度Ⅱ、ヒューマンズムⅣ、臨床衛生学、社会薬学総合演習	薬学入門、ヒューマンズムⅣ
18	日本大学	○	○	法学入門、早期臨床体験、医療と法、健康リスク評価概論（特色Ⅱ）	早期臨床体験
19	北里大学	○	○	薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習、薬事関係法規、医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政	薬と仕事Ⅱ
20	慶應義塾大学	○	○	医療倫理、薬事関係法規1、薬物治療学4、化学物質の生体影響、人と薬	医療倫理、人と薬
21	昭和医科大学	○	○	薬剤師の社会的使命と法的責任、プロフェッショナリズム①、医薬品の開発と法規制、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、P6集中講義、地域医療入門	プロフェッショナリズム①
22	昭和薬科大学	○	○	医療倫理学（全15回中6回）、医薬品の安全性	医療倫理学
23	帝京大学	○	○	医療社会学、医薬品安全性学、薬事関係法規・制度、医療コミュニケーション3	医薬品安全性学
24	帝京平成大学	○	○	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、命とこころ、医薬品の安全性、薬事関係法規	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）
25	東京薬科大学	○	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ（医薬品開発と臨床試験）、医療薬物薬学特論Ⅱ（データ解析集中講座）	人間と薬学Ⅰ

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
26	星薬科大学	○	○	薬学科(6年制)：薬学の心構えⅠ、医療社会論、社会と薬学Ⅰ、薬事と行政（官公庁学）、医薬品開発と生産のながれ、疾患・有害事象の症候 創薬科学科(4年制)：薬学の心構え、医療社会論、社会と薬学、薬事と行政	薬学科(6年制)：薬学の心構えⅠ 創薬科学科(4年制)：薬学の心構え
27	武蔵野大学	○	○	薬学概論・レギュラトリーサイエンス概論、薬効安全性学	薬効安全性学
28	明治薬科大学	○	○	医療倫理、医薬品開発（薬学科、生命創薬科学科4年）、医薬品開発（生命創薬科学科3年）、総合人文社会科学（薬学科）、衛生化学Ⅱ（毒性）	総合人文社会科学（薬学科）
29	湘南医療大学	○	○	薬と毒性学入門、衛生化学Ⅰ	薬と毒性学入門
30	横浜薬科大学	○	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学	薬学概論Ⅰ
31	岐阜医療科学大学	○	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬学概論
32	新潟薬科大学	○	検討中	薬害・医療事故被害者から学ぶ	※令和7年度「B型肝炎の正しい知識と患者の現状について」として、被害患者の方のお話を直接聞いたこと、最新事情を共有いただけたことは貴重であり、参加学生達は多くがその意義を感じていたようであった。令和8年度も新潟県薬務課等の協力のもと、後期期間中に薬害被害患者の方から直接講演をしていただく計画をしている。
33	北陸大学	○	○	医療人、早期体験学習、社会と薬学、薬事関連法規、薬毒物代謝学	早期体験学習
34	愛知学院大学	○	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、薬と社会、社会保障制度・レギュラトリーサイエンス	薬学概論、医薬品毒性学
35	金城学院大学	○	○	基礎薬学演習B、多職種連携の学びC、基礎薬理学、医薬品情報学（1）、薬事関係法規・制度、社会薬学	多職種連携の学びC
36	名城大学	○	○	基礎有機化学、生物有機化学、医薬品開発論、プロフェッショナリズムⅠ	プロフェッショナリズムⅠ
37	鈴鹿医療科学大学	○	○	薬学への招待、薬害・副作用学	薬学への招待、薬害・副作用学
38	京都薬科大学	○	○	医療の担い手としてのこころ構え、天然医薬品学B、医療薬学A、臨床情報学、医薬開発論、薬事関連法規、漢方医療薬学	早期体験学習
39	同志社女子大学	○	○	早期体験学習Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学、臨床薬学概論、医薬品の社会規範	早期体験学習Ⅰ、医療安全性学
40	立命館大学	○	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学応用演習

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
41	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理、薬学連携演習15、個別化医療、医薬品安全性学	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理
42	大阪大谷大学	○	○	薬学概論、微生物学、毒性学、医療倫理学演習、医薬品開発学A、医療情報薬学	医療倫理学演習（全2回）
43	近畿大学	○	○	早期体験学習、医薬品開発論	早期体験学習、医薬品開発論
44	摂南大学	○	○	臨床薬学Ⅰ、臨床薬学Ⅱ、臨床薬学Ⅲ	薬学基礎演習Ⅰ
45	神戸学院大学	○	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学
46	神戸薬科大学	○	○	社会薬学	初期体験実習
47	姫路獨協大学	○	検討中	実務実習事前特別講義、薬物副作用論	※コロナ以前は実施しており感染拡大により自粛していたが、現在再開に向けて検討中である。
48	兵庫医科大学	○	○	医薬品安全性学、医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ（基礎と立体化学等）、有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）、医薬品化学	医薬品安全性学
49	武庫川女子大学	○	○	薬学科：初期演習Ⅱ、医薬品化学、医薬品開発論、生命倫理学、医薬品情報学、ヒューマニズム論Ⅱ 健康生命薬科学科：生命倫理学、健康生命薬科学概論、医薬品開発論	初期演習Ⅱ（薬学科）
50	就実大学	○	○	薬学対話演習、新薬開発論	薬学対話演習
51	広島国際大学	○	○	病態と薬理総論、医薬品情報、薬学と社会・薬事関係法規、社会集団と健康、医薬品の開発と生産	薬学へのいざない
52	福山大学	○	○	生命倫理学	生命倫理学
53	安田女子大学	○	○	薬剤師論、臨床薬剤学Ⅰ、臨床薬剤学Ⅱ、薬事関係法規、薬理学Ⅰ、薬学概論	薬害を知る（「まほろば教養ゼミ」内）
54	徳島文理大学	○	○	薬学概論、社会薬学、がん疾患の薬物学	薬学概論

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	○	薬事関係法規 1、総合薬学演習、循環器・血液系疾患の薬物学、臨床薬学アドバンス実務実習、医療倫理学	医療倫理学
56	松山大学	○	○	薬剤師と医療（2コマ）、医療倫理Ⅰ、社会薬学、微生物学Ⅱ、臨床調剤学	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ，Ⅱ
57	第一薬科大学	○	○	薬剤師のための医療入門、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	薬剤師のための医療入門
58	福岡大学	○	○	医薬品情報学、医薬品安全性学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習
60	長崎国際大学	○	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	薬学入門
61	崇城大学	○	×	薬学概論、医薬品安全性学（旧カリ、未修得者のみ）、実務実習事前学習Ⅰ、応用社会学	今年度は予定していた先生のご都合で講義ができなかったため未実施
62	九州医療科学大学	○	○	薬学入門、薬学と生命倫理入門	薬学入門

合計	1	2
行っている	62 学部	58 学部
検討中	0 学部	2 学部
行っていない	0 学部	2 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 国公立（78 大学 81 学部）

合計	1	2
行っている	81 学部	76 学部
検討中	0 学部	3 学部
行っていない	0 学部	2 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和8年度 薬学部）

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道大学	○	薬学概論、医薬品情報学、医薬品開発論、臨床薬学事前演習、薬事関連法規、医薬品安全性学	薬学概論、医薬品開発論
2	東北大学	×		
3	千葉大学	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、医薬品臨床開発、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ、医薬品臨床開発、医薬品安全性学
4	東京大学	○	薬学特別講義	薬学特別講義
5	富山大学	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学
7	京都大学	×	医療社会学	
8	大阪大学	○	薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3、ヘルスコミュニケーション	現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3
9	岡山大学	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	医薬品開発学、臨床準備教育C
10	広島大学	○	医薬品情報学、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論	患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論
11	徳島大学	○	医療における人間学	医療における人間学
12	九州大学	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ
14	熊本大学	○	医療倫理学Ⅱ	医療倫理学Ⅱ

①に該当する授業科目がある	13 学部
②に該当する授業科目がある	12 学部
①②両方該当する授業科目がある	12 学部

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 公立 (5 大学 5 学部)

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	岐阜薬科大学	×	医薬品安全性学	
2	静岡県立大学	○	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学、毒性学	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学
3	名古屋市立大学	○	医薬品情報学、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（左記薬理学Ⅳと合同）	薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（左記薬理学Ⅳと合同）
4	和歌山県立医科大学	○	社会薬学Ⅲ、医療倫理、ケア・マインド教育	医療倫理、ケア・マインド教育
5	山口東京理科大学	○	薬学倫理A、医療安全学1、医療安全学2	薬学倫理A、医療安全学1、医療安全学2

①に該当する授業科目がある	5 学部
②に該当する授業科目がある	4 学部
①②両方該当する授業科目がある	4 学部

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
 ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道医療大学	○	医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習	医療薬学概論、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	社会と薬、医薬品開発論	社会と薬
3	青森大学	○	薬学への招待、医療倫理	医療倫理
4	岩手医科大学	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	薬学入門演習、薬品毒性学	薬学入門演習、薬品毒性学
6	医療創生大学	○	薬品安全性学、医薬品開発概論	医薬品開発概論
7	奥羽大学	○	医薬の歴史B、チーム医療学Ⅰa、医薬品毒性学	医薬の歴史B、チーム医療学Ⅰa、医薬品毒性学
8	国際医療福祉大学	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	早期体験実習、薬学演習Ⅲ（医療倫理・ヒューマニズム）
9	高崎健康福祉大学	○	社会と薬学、調剤学、薬事関連法規、評価医療科学	社会と薬学
10	城西大学	○	毒性学B、薬学概論	毒性学B、薬学概論

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
11	日本薬科大学	○	ファーマシューティカルケアI	ファーマシューティカルケアI
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	早期体験実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	医療における薬学	医療における薬学
14	城西国際大学	○	生物学、毒性学、薬学概論A、薬事関係法規、公衆衛生学、医薬品化学A	生物学、毒性学、薬学概論A、薬事関係法規、公衆衛生学
15	千葉科学大学	○	薬剤師の責務、薬事関係法規、ヒューマンズ、微生物学	薬剤師の責務、薬事関係法規、ヒューマンズ、微生物学
16	東京理科大学	○	薬学入門（6年制、4年制）、病態・薬物治療学1（4年制）、疾病と病態総論（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）、臨床製剤学	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	薬学入門、ヒューマンズⅣ	薬学入門、ヒューマンズⅣ
18	日本大学	○	早期臨床体験、医療と法	早期臨床体験
19	北里大学	○	薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習、薬事関係法規、医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政	薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習
20	慶應義塾大学	○	医療倫理、薬事関係法規1、人と薬	医療倫理、薬事関係法規1、人と薬
21	昭和医科大学	○	薬剤師の社会的使命と法的責任、プロフェッショナリズム①、医薬品の開発と法規制、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、P6集中講義、地域医療入門	プロフェッショナリズム①、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、地域医療入門
22	昭和薬科大学	○	医療倫理学、医薬品の安全性	医療倫理学
23	帝京大学	○	薬事関係法規・制度、医薬品安全性学	薬事関係法規・制度、医薬品安全性学
24	帝京平成大学	○	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、命とこころ、医薬品の安全性、薬事関係法規	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、命とこころ
25	東京薬科大学	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ、医療倫理学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験
26	星薬科大学	○	薬学科(6年制)：薬学の心構えⅠ、社会と薬学Ⅰ、薬事と行政（官公庁学）、医薬品開発と生産のながれ、疾患・有害事象の症候 創薬科学科(4年制)：薬学の心構え、社会と薬学、薬事と行政	薬学科(6年制)：薬学の心構えⅠ、社会と薬学Ⅰ、薬事と行政、薬事と行政（官公庁学）、疾患・有害事象の症候 創薬科学科(4年制)：薬学の心構え、社会と薬学、薬事と行政
27	武蔵野大学	○	薬学概論・レギュラトリーサイエンス概論、薬効安全性学	薬効安全性学

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
28	明治薬科大学	○	医療倫理、医薬品開発（薬学科、生命創薬科学科4年）、医薬品開発（生命創薬科学科3年）、総合人文社会科学（薬学科）、衛生化学Ⅱ（毒性）	総合人文社会科学（薬学科）
29	湘南医療大学	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門
30	横浜薬科大学	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学
31	岐阜医療科学大学	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学
32	新潟薬科大学	○	薬害・医療事故被害者から学ぶ	薬害・医療事故被害者から学ぶ
33	北陸大学	×		早期体験学習、社会と薬学
34	愛知学院大学	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、社会保障制度・レギュラトリーサイエンス	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ
35	金城学院大学	○	基礎薬学演習B、多職種連携の学びC、基礎薬理学、医薬品情報学（1）、薬事関係法規・制度、社会薬学	基礎薬学演習B、多職種連携の学びC、医薬品情報学（1）、薬事関係法規・制度、社会薬学
36	名城大学	○	プロフェッショナリズムⅠ	プロフェッショナリズムⅠ
37	鈴鹿医療科学大学	○	薬学への招待、薬害・副作用学	薬学への招待、薬害・副作用学
38	京都薬科大学	○	医療の担い手としてのこころ構え、臨床情報学、薬事関連法規	臨床情報学
39	同志社女子大学	○	早期体験学習Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学、臨床薬学概論、医薬品の社会規範	早期体験学習Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学
40	立命館大学	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度
41	大阪医科薬科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理、薬学連携演習15、個別化医療、医薬品安全性学	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理、薬学連携演習15
42	大阪大谷大学	○	医薬品開発学A、薬学概論、毒性学、微生物学、医療倫理学演習、医療情報薬学	医薬品開発学A、医療倫理学演習
43	近畿大学	○	早期体験学習、医薬品開発論	早期体験学習、医薬品開発論
44	摂南大学	○	臨床薬学Ⅰ、臨床薬学Ⅱ、臨床薬学Ⅲ	臨床薬学Ⅰ、臨床薬学Ⅱ、臨床薬学Ⅲ
45	神戸学院大学	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ
46	神戸薬科大学	○	社会薬学	社会薬学
47	姫路獨協大学	○	実務実習事前特別講義、薬物副作用論	実務実習事前特別講義、薬物副作用論
48	兵庫医科大学	×	医薬品安全性学、医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ（基礎と立体化学等）、有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）、医薬品化学	

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
49	武庫川女子大学	○	初期演習II（薬学科）、医薬品化学（薬学科）、医薬品情報学（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅱ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、健康生命薬科学概論（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）	初期演習II（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅱ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）
50	就実大学	○	薬学対話演習、新薬開発論	薬学対話演習
51	広島国際大学	×	医薬品情報、医薬品の開発と生産	
52	福山大学	○	生命倫理学	生命倫理学
53	安田女子大学	○	臨床薬剤学Ⅰ、薬事関係法規	臨床薬剤学Ⅰ
54	徳島文理大学	○	薬学概論、社会薬学	薬学概論
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	薬事関係法規Ⅰ、総合薬学演習、循環器・血液系疾患の薬物学、臨床薬学アドバンス実務実習、医療倫理学	総合薬学演習、循環器・血液系疾患の薬物学、医療倫理学
56	松山大学	○	薬剤師と医療（2コマ）、医療倫理Ⅰ、社会薬学	薬剤師と医療、薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会薬学
57	第一薬科大学	○	薬剤師のための医療入門、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	薬剤師のための医療入門
58	福岡大学	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学、薬事行政論
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習、薬学概論
60	長崎国際大学	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	薬学入門、裁判化学
61	崇城大学	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ	薬学概論
62	九州医療科学大学	○	薬学入門、薬学と生命倫理入門	薬学入門、薬学と生命倫理入門

①に該当する授業科目がある	64 学部
②に該当する授業科目がある	63 学部
①②両方該当する授業科目がある	59 学部

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
 ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 国公立（78 大学 81 学部）

設置者別	①②両方	①に該当する科目がある	②に該当する科目がある
国立	12 学部	13 学部	12 学部
公立	4 学部	5 学部	4 学部
私立	59 学部	64 学部	63 学部
合計（国公立）	75 学部	82 学部	79 学部

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講義等の実施状況（令和8年度 薬学部）

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	北海道大学	薬学概論	2年次	本人	ザリドマイド スモン 薬学エイズ 薬害肝炎	講師は薬害被害者であると同時に、医学系大学の教員であり、科学的・医学的見地から講義をおこなっている。そのため、講義内容はより客観的で薬学を学ぶ学生向けに十分考慮されている。また、国・製薬会社との和解確認書により設立された公益財団法人の理事長でもあることから、情報が個人レベルに留まらず、豊富かつ有意義なものとなっている。	非常に良好であった。	講師は医学系の教員でもあることから、自身が被害を受けたザリドマイドに留まらず、種々の薬害について、医学的な見地により講義を実施している。そのため、薬学を学ぶ学生向けに考慮された内容となっており、医薬品リスク管理を知るうえで有意義な講義となっている。
2	東北大学	薬学概論	2年次	家族	MMRワクチン	薬害による後遺症が、その後の本人と家族の人生に与えた影響の大きさを、本人からの言葉として伝えられたことで、薬害の原因、発生を防止するための仕組み、人の運命をも変える生物活性物質である薬に携わる医療人、研究者としての心構えについて真剣に考える貴重な機会になっている。	例年薬害講義を実施することにより、医薬品がもたらす負の部分に真摯に向き合い、医療倫理について深く考えたレポートが多く提出されている。優れた医療人材育成のためには、薬害を通じた倫理教育が大変重要であると感じている。	該当ございません。
3	千葉大学	専門職連携Ⅰ	1年次	本人	ザリドマイド薬害	薬害被害者の生の声を聴くことにより、社会生活の中での不自由さや差別を実感できる。	「薬害の原因は薬だと思いませんか？被害を拡大させ、薬害を起こすのは『人』という言葉が印象に残った。薬に関わるものとして心に刻んでおかないといけないと思った。事前に調査していたが、聞いた際の心の動かしやすさがまったく異なりご本人から話を聞くことの大切さを学んだ。など、薬害被害者の実体験を聞くことで、薬学部の学生として薬害を防ぐ意識が芽生えたことがうかがわれた。	実施しているのは1種類のみ。
4	東京大学	薬学特別講義	3年次	本人 家族	ザリドマイド C型肝炎	薬害は教科書の知識で歴史上のことと理解している学生が多かったが、薬害被害者が直接真摯に語ることを聴き、将来創薬や医療に携わることの心構えに大きな影響を及ぼしている。このような機会は少ないので、選択科目（ただし、薬学科希望者は必修）であるが、ほとんどの学生が履修している。	・薬害の防止を含む医療産業の正しい発展には、患者側から働きかけることのできる場を作ること、患者も積極的に新薬の開発の手伝いをするといった双方からの取り組みが必要だと考える。 ・「薬害の原因は薬ではなく被害を拡大し被害を引き起こすのは人である」という言葉は、これから研究を始め、いずれ製薬に関わる可能性のある我々が常に意識として持っておかなければならないものである。	複数種類の薬害について学習することにより、行政システム、マスコミ、アカデミア、製薬会社、社会背景に潜む、二次被害を含む薬害が生じる原因の共通した要因に気づき、より考察を深めることが出来る。
5	富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1）患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2）一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3）無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4）社会正義の視野を培う。正義原則。 5）弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6）友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変よい。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	該当なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
6	金沢大学	①医薬保健学基礎Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者本人から語られることで、受講生が薬害を薬学領域における重要課題として真剣に捕らえることができる。	受講生（1年生）の年代ではサリドマイド薬害のことを知っている人はわずかであり、はじめて知って驚いた、という反応が多く、またこのようなことが二度と起きないように自分が就いた職業で努力したいと感想を述べていた（昨年度全員に提出を求めた授業内容のレポートによる）。	直接、被害者の声を聞くことにより、薬害に対してより理解が深まると考えられる。
		②医薬品安全性学	4年次	家族	イレッサ薬害	イレッサは、薬害の原因とされているにもかかわらず、特定の遺伝子型を持つ非小細胞肺癌の第一選択薬でもある。即ち、他の薬害物質のほとんどは、社会から無くなっているが、イレッサは学生が社会に出た時、遭遇する医薬品なのである。その医薬品の副作用で家族を亡くした患者ご家族の話を聞き、意見交換することは実社会で多くの医薬品を扱う場面で、副作用回避の重要性を認識させるためにも大いに意義深いと考える。	例年、聴講生には、感想文を書かせている。全ての学生は、薬害患者の家族の話を聞く得難い経験をしたことに感謝すると同時に、このような薬害（副作用）を起こさない薬の開発や医療体制にしたい、との前向きな姿勢を述べている。	薬害の種類による背景や経過、社会に与えた影響の違いに気づくことによってより深い理解が得られ、学んだ知識の応用力の涵養につながる。
7	京都大学	薬害再発防止のために 薬害エイズの経験から	4年次	本人	薬害HIV	薬学教育モデル・コアカリキュラムのA 基本事項（1）薬剤師の使命において、「医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける」とあり、薬害、法律と制度という観点から講義だけではなく、実際に薬害被害者の方からの薬にまつわる過去と現在の問題点や薬剤師への希望と期待について生の声を聞くことで、薬剤師ならびに医薬品開発従事者の責任の重みを感じるとともに将来への励みに繋がった。	特になし。	なし
8	大阪大学	薬学入門3	1年次	家族	MMRワクチン薬害事件	実際に薬害に遭われた患者の家族から、直にお話を伺うことで、より真摯に問題認識を共有できる。これにより、創薬研究を目指す学生は、より安全な薬品開発の必要性を実感し、その後研究に役立てることができる。また、臨床を目指す学生は、副作用の早期発見や重症化を防ぐことの必要性を痛感し、その後、臨床に臨む際の注意力を養う原動力となる。	・副作用被害救済制度があることを初めて知った。この制度の周知と充実の必要性を感じた。 ・医薬品の安全性確保や薬害被害者を生まないために、医療者ができることは何かを考える機会となった。	複数の種類の薬害について授業実施無し。
9	岡山大学	臨床準備教育 C	4年次	本人	サリドマイド薬害	本講義で、薬害被害者の話を直接聴かせ、また薬害により生じた四肢をはじめとする骨格や臓器異常を当事者が直接見せることで、数十年前の薬害が未だに被害者の健康と生活を蝕んでいることを、薬学や薬科学を学ぶ学生、そして特に長期実務実習を控えた4年次生に強く印象づけることができる。また、こうした講義内容が、彼ら彼女らに薬剤師としての使命・職責を自覚させる良い機会となっている。これに加え、今日でも新たな薬害が生じ、また今後も生じ得ることを理解させ、薬害を未然に防ぐことや、万が一発生した場合でも被害拡大を抑止することの重要性を、学生に認識させることができる。更に、医薬品の安全性確保の重要性や適正使用の重要性、そして薬剤師としてそれを積極的に実践することの大切さも、本講義を通じて理解させることができる。	毎年のごとであるが、受講学生からは「薬害被害者を初めてみました」「薬害被害は予想以上に激しく、ひどいものである」「薬害は起こしてはならない」との感想が挙がる。薬害講義では、学生の率直な思いを知る目的で、講義終了、直ちに講義レポートを書かせているが、それによると、薬害によるアザラシ肢症（四肢形成異常症）を直接目にする事で、これまで現代社会とは無関係な遠い昔の話であると感じていた薬害が、急に身近で目づ重大な問題であることに気づくようである。	現時点でお招きしている薬害被害者は、サリドマイドの薬害被害者の方のみである。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
10	広島大学	患者志向型 合宿勉強会	3年次	本人	ザリドマイド C型肝炎 薬害エイズ 陣痛促進剤 スモン	学生は薬害に遭われた方の姿を直接見て、生の声、特に精神的肉体的に様々な障害や困難を持ちながらも前向きに生きている話を聞くことができ、実体験に近い経験を得ることが可能であり、より強い使命感と倫理観を持つことができる。	薬害被害に関する考え方が変わった、患者さんの立場になって物事を考えることができる薬剤師・研究者になりたい、など。	薬害は、様々な薬害に同時に触れることにより、「薬害」という一つの言葉で括られるものではなく、各々の薬害で様々な背景、経過、困難な状況を抱えている現状があり、その一方で、薬害の原因には共通した人為的問題があることが理解できること。さらに、それに伴い、被害への対応については個々の観点が必要であるが、薬害発生防止や根絶という観点では根本的な原因を排除する努力が必要であることを実体験に近いものとして得られる効果があると考えられる。
				家族	ヤコブ MMRワクチン			
11	徳島大学	SIH道場～アクティブ・ ラーニング入門～	1年次	本人	C型肝炎	これから医療人を志す新入生にとって非常に重要な内容である。将来、医療の担い手の一員である薬の専門家を目指している学生に対し、薬害が起きた原因、被害者及びその家族の痛みや苦しみ、国や製薬会社の対応など薬害に関する基本的な知識を得ることができる。また、1年生を対象とすることにより、これから受ける薬学専門教育の意義を感じ、学習意欲を一層高めることができると考えている。	「医療を提供するうえでは、コストではなく、患者の健康を第一に考えることの大切さを再認識した」、「薬を扱う責任の大きさと重要さを再認識した」等、薬の専門となるための薬学専門教育に関する学習意欲の向上につながったと考えている。	薬害被害が起こる要因、被害者のおかれた立場や状況、行政や製薬会社の対応など、共通する事項や相違点を知り、薬害の実情を把握することができる。
12	九州大学	薬害	3年次	本人	ザリドマイド C型肝炎	大学教員、被害者の家族、被害者本人、行政官庁職員による講義、講演ならびに学生によるディスカッションを通して、被害者に寄り添い、薬害に対してより理解が進むことが期待される。	被害者の声を聞いて良かったという声が非常に多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、より見識を深めることができる。
				家族	ヤコブ病			
13	長崎大学	薬学概論Ⅱ	1年次	本人	C型肝炎	1年次生を対象に行うことで、早期に倫理観を養うことができる。薬学を学ぶモチベーションを高めることができる。	毎年、実施した際には、学生は真剣に講演を聞いている。講演に関するレポートでは、薬学を学ぶ上での心構えや、製薬企業、研究者の社会責任について触れることが多く、薬害を起こさないためにはどうあるべきかを常に意識して勉強する動機づけになっているようだ。	該当なし
14	熊本大学	医療倫理学Ⅱ	3年次	本人	C型肝炎ウイルスで 汚染したフィブリノゲン 製剤による薬害	講師は、フィブリノゲン製剤で重篤な健康被害を受けましたが、その後、インターフェロン療法で健康を回復されました。薬の光と影の両面を体験された講師のお話は、創薬・育薬を目指す学生にとって貴重です。	講師のお話の後で、学生と意見交換を行い、学生から積極的に素直な意見が聴けます。さらに、講師のお話を参考に実施する小グループ討論では、講師のお話を反映した具体的な薬害防止策がでています。	なし。

○ 公立 (5 大学 5 学部)

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	岐阜薬科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	HIV	医薬品開発の過程で、医薬品の安全性確保は有効性追求よりも重要であることを実例をもって知ることができる。臨床現場における医薬品の適正使用において、副作用の確認の重要性を実例をもって知ることができる。上記2項目から、薬学を学ぶ全ての学生に医薬品の安全性確保が最優先であることを認識させることができる。	医療系の学部学生として、薬学被害のことを再認識することができた。自身の進路について参考になった。薬学被害について薬学知識のない一般の方が新聞やTVから正しい知識をえることは難しいと思うが、いずれにしても誤解から差別を生むようなことはいけないと思った。	複数の種類の薬害について実施していない。
2	静岡県立大学	早期体験学習	1～2年次	未定	未定	創薬の負の面をより具体的に知ることができ、医療人としての倫理観を身につけるために有意義である。	アンケートを実施しているが、創薬の負の面を知ることができることから、多くの学生にとって有意義なものとなっている。	毎年テーマを変えることで、複数の薬害について知ることができ、多くの学年に履修してもらう意義がある。
		総合薬学演習	3～6年次	未定	未定			
3	名古屋市立大学	薬理学Ⅱ/Ⅳ	2・3年次	未定	未定	毎年1月に行うため、現時点で詳細未定です。	未実施です。	未実施です。
4	和歌山県立医科大学	薬学入門Ⅱ	1年次	未定	未定	問題として深く理解することができる。薬剤師を目指す学生にとって非常に有意義である。	薬剤師として責任感を持って行動したいという意見が多くみられた。	なし

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	北海道医療大学	毒性影響と評価	4年次	本人	サリドマイド	薬害の被害者であり、薬害研究の第一人者である講師の講義は、ある程度薬学的な知識も修得した実務実習前の4年生にはとても有意義な講義であると思われる。薬剤の審査過程の試験の意味だけではなく、限界も知りながら、実際にサリドマイド被害が起こった経緯などを学ぶことができ、また、副作用管理に携わる薬剤師の存在価値、さらに薬剤師としてどのようなことを意識して現場で働くべきかを考えるととても良い機会であるため、実務実習を意識しモチベーションを上げる効果もあると思われる。	「毒性影響と評価」の課題では、「薬害と疑われる健康被害の情報を知ったとき、薬剤師あるいは薬の専門家として何ができるかを考えてみよう」という課題について取り組むことで、現場を意識することができ、「モチベーションが上がった」、「自分なりの薬剤師像を考えるきっかけになった」という意見が多かった。また、薬剤師以外にも、研究者、医薬品の承認制度、社会的背景、社会的な問題に関する事例を知ることができ、幅広い視点で考えることができたという学生も多くいた。	過去の薬害による健康被害の事例を踏まえ、医薬品の開発から承認制度、あるいは医薬品情報学や医薬品適正使用の観点から、市販後の育薬に関する薬剤師の活動を統合的に学修することができる。
		実務社会薬学 複合演習	6年次	本人 家族	薬害エイズ	1. 本学では「薬害教育」に関して、それぞれ関連する授業において取り上げられてはいるものの、やはり被害者及びそのご家族の方から被害状況を実際に見聞きすることは、医薬品の安全性を知る意味からも非常に有意義なものであると考える。2. 第6学年の学生は長期実務実習を終え、一通り薬学の専門知識を身につけており、薬害被害者による講演の機会を6年前期に設けることで、様々な側面から薬害について考察することができ、学生の関心度も非常に大きい。		
2	北海道科学大学	社会と薬	3年次	本人	サリドマイド	講師は現所属に勤務するまでは札幌居住であり、学生にとっても薬害は身近なものであると認識できる。またサリドマイドであることから、母親との関係や、現在も別な薬効により医薬品として用いられていることなど、様々な想いを講師と共有できると考えている。	過去の薬害エイズ被害者による講義のレポートでは、「薬害の恐ろしさ」「医療者による差別への憤り」「家族（妻・親）の想いへの共感」、などが見て取れた。	薬害は決して一過性の過去の問題ではなく、異なる医薬品においてこれまでも繰り返し発生してきたこと、また、その多くは早期の対応によって被害の拡大を防ぐことが可能であったこと、さらに今後も新たな薬害が発生する可能性があることを学生が認識するようになったことが、過去のレポートから読み取れる。加えて、薬害を未然に防止するために、薬剤師としてどのように行動すべきかを主体的に考える契機となったものと理解している。
3	青森大学	薬倫理学	3年次	本人	サリドマイド	実際に被害に合われた方に直接話を聞くことで、薬害を身近に捉え、考える機会になる。	未実施のため、まだ分かりません。（令和8年12月実施予定）	複数は実施していない。
4	岩手医科大学	早期体験学習 （全人的医療基礎講義含む）	1年次	本人	薬害エイズ	教科書を使った授業の内容より、本人からの声を聴かせることが重要。薬害が発生した背景とプロセス、薬害被害者の心身の苦痛、薬害訴訟の実態、薬害をなくすために必要な道義的・社会的・医学的観点について、体験者の生の声を通じて理解を深めることができる。また、なぜ薬害は起こったのかを深く考えることで人間の持つ様々な価値観や倫理観を養育し、医療者と患者双方の視点で医療について俯瞰的に考える姿勢を身に着けることも重要である。事例を通し、薬害が起きないためには何が必要かを討議させることで、多様な意見を共有し、様々な視点から問題解決へのアプローチを考える機会となる。	学生は熱心に聴講している。「全人的基礎講義」においては、薬害に負けず「いのちが守られる社会」の実現のために精力的に活動している講師の姿を目の当たりに、医療人を志すものとして薬害をなくすための学びと意識を持つことの重要性を強く認識したとの感想が例年寄せられている。講義後に講師のHPから活動を調べる学生や、講師の著作を手にとる学生もいる。「医療倫理とヒューマンズム」では、薬害が広まった経緯や、サリドマイドが他の疾患の治療薬になっていることを知り、複雑な思いを抱く学生もいる。本人からの問いかけに必死に答えようとする姿勢が多く、学生にみられ、真剣に話についていく姿があった。講演を通して、薬害は単なる副作用ではなくその背景には人災があったことを理解し、薬害に対する認識が変わっているようだ。	薬害が及ぼす様々な被害を理解することができる。薬害には、外見などの分かりやすい部分に現れるものも、外見には影響せずとも体内の機能に深刻な障がいを残してしまうものもある。薬に係る者の一つのミスが、様々な形で、その人の生命と暮らしを壊してしまう可能性があるということを学ぶことができる。また、薬害が決して特殊な環境によって生まれるものではないということを理解することができる。
		医療倫理とヒューマンズム	4年次	本人	サリドマイド			

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
5	東北医科薬科大学	薬学入門演習	薬学科1年次	本人	サリドマイド	薬剤師としての責任感を育む教育効果がある。	ハンディを抱えているにもかかわらず、前向きに生きている姿に感動したという感想が多い。	薬害事件が発生する要因を知ることにより、薬害を起こさないようにするために、行政、製薬会社、医療人はどう行動するべきかを考えることができるようになる。
6	医療創生大学	イグナイト教育2B	2年次	本人	サリドマイド	薬害の被害者から直接話を聞くことで、より印象に残る授業を展開することができる。講話の中で被害者に何が起こったのかのような気持ちだったのかを知ること、被害者に対するより一層の理解に繋がる。	今年度はまだ実施していないが、一昨年実施した際には、サリドマイド薬害についての知識を深めるとともに、被害者に差別が起こったということについて多くの学生の印象に残ったようです。	薬害に関する講話は複数回実施していません。
7	奥羽大学	チーム医療学Ⅰa	1年次	本人	サリドマイド	薬害に合わせた被害者からお話を伺い、これまでの経験をお話しいただける点。	薬害は教科書だけの話ではなく、実際に被害に遭われた方がどのような生活を送ってこられたか、どのような困難を強いられているか、国からの保護の現状を実際に伺い、薬剤師として副作用等の有害事象にいち早く気がつき拡大を阻止することの重要性を知った。	実施していない。
8	国際医療福祉大学	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	学生が被害者の生の声を聴けること。	「薬害」についてはこれまで簡単な説明を受けただけの人がほとんどで、今回学んだ詳細な内容に対して様々な反応を示し薬害教育の重要性を感じた学生が多かった。また、被害者からの直接の声を聴くことに対して多に刺激を受けたようで、「将来、薬剤師を目指す自分にとって大変貴重な機会となった」などの意見があった。	特になし
9	城西大学	薬学概論	薬学科1年次	本人	サリドマイド・B型肝炎他	薬剤師の使命を認識、患者目線を理解(1年生)	医薬品の安全利用に対する意識の向上が伺える。	薬害の歴史と、異なる保証や対応の違いを比較することで、薬害を繰り返す人間の愚かさを理解することができる。
10	日本薬科大学	ファーマシューティカルケアⅠ	2年次	本人	薬害肝炎（C型肝炎）	薬の持つ正の面である治療効果ばかりではなく、負の面であるところの薬害問題にしっかりと向き合っ学が機会が得られるのは、学生にとって意義深いものと感じる。実際の薬害被害者による講演を聞いた学生は、その生々しい体験や歴史に触れて一様に衝撃を受けるが、医療人として必要な姿勢について真剣に考える良いきっかけになっている学生が多い。	学生の反応としては、実際に薬害の被害者の方の話を聞き、討論することにより薬害に関する理解が深まったようである。特に医療従事者を目指すものとして、学問の重要性や責任というものを強く感じとり、薬剤師になることへの自覚が促されたと考えている。	該当なし
11	国際医療福祉大学 (成田薬学部)	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	過去の薬害事件から教訓を学び、医薬品の適正使用や安全管理の重要性を認識できるようになる。	薬剤の副作用に対する情報不足が被害を招いており、今後の学修に活かしていきたいとの感想があった。	該当なし
12	順天堂大学	医療における薬学	1年次	本人	肺がん治療薬 イレッサによる薬害被害	薬害経験のない教員が過去の事例を用いて説明しても、薬害被害者が自身の薬害での健康被害の程度やその経過、被害者として認定されるまで経緯などの様々な方向からみた薬害被害の状況や被害者の思い理解することは不可能である。その観点からも、被害者から直接話を聞く機会を持つことは有意義なことであると考え。また、被害者からの話を聞くことで、将来、薬物治療に薬剤師として係る際に自身の判断が薬害被害の防止につながること、あるいは逆に被害者を生み出してしまふ可能性があることを1年次からりかいさせ、今後の薬学教育を受けていく心構え及びその意義を明確化させるのにつながる。と考える。	多くの学生は高校時代までに受けた薬害の授業ではなぜ臨床試験までして認可された薬害が起きるのかという患者の立場だけからしか薬害を考えられなかったようであった。薬害患者のご家族の話を聞くことで薬害の悲惨さを理解するとともに、医薬品開発プロセスにおいて第2・3相試験でも妊婦や授乳中、腎臓病など一部の患者は対象外であることで実際に医薬品が発売されるまで間接的に起こる副作用に気づくことができず薬害を未然に防ぐことが難しいという現実を理解することができたようである。多くの学生は副作用（薬害を含む）を無くすというのは不可能かもしれませんが軽減することならできと思うので順天堂大学薬学部で学び、薬剤師として薬害を含めた医薬品の副作用をより少なくする医療に貢献したいとする意識が芽生えたようである。	複数はない。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
13	城西国際大学	薬学概論A	1年次	本人	薬害エイズ	薬の使用はメリットだけではなくデメリットもあることを薬学部1年生のうちから学修できる。	「HIV感染だけでなく、差別・偏見、将来展望の喪失、家族への影響 など、被害が非常に複合的であったことを学修した。」との感想が学生から出ている。	様々な薬害の背景を学び、薬剤師として何をすべきかを考えることができる。
14	千葉科学大学	ヒューマニズム	2年次	本人	フィブリノゲン製剤によるC型肝炎	被害者本人の体験を直接聞くことで、薬害が患者や家族の人生に及ぼす影響、身体的・精神的苦痛、社会生活や就労への影響などを具体的に理解できること。	今後アンケート実施、集計する予定。	現状、被害者の声を直接聞く機会は先述の科目1のみである。
15	東京理科大学	薬学入門	1年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の生の声を聞くことによって、薬害を知識としてではなく、薬害が人の命や人生、家族の絆に如何に重大な影響を及ぼすかを知り、薬剤師の使命の重大さを実感することができる。	毎年受講者全員に感想文を提出させているが、重大な障害を持った被害者を実際に目の前にするのが初めての学生がほとんどで、その姿と前向きな生き方についての講演内容に、衝撃的な感銘を受けた模様が記述されている。講演を聴いて、人の命を預かる薬剤師の使命の重大さを認識し、今後の勉学に取り組む糧にしたいと述べる学生がほとんどである。	複数の種類の薬害でないため該当なし
16	東邦大学	薬学入門	1年次	家族	イレッサ、子宮頸がんワクチン、薬害エイズ、C型肝炎、スモン、クロイツフェルト・ヤコブ病、サリドマイド	薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聴く機会を設けることで、倫理観と豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる医療人育成の一助となっている。患者やその家族の話を直接聞く講義は、薬害を健康被害に限らず、精神的・経済的負担を含む生活全体に関わる問題として理解する機会となる。また、薬害の歴史や被害救済制度を学ぶことで、過去の教訓を将来の医療安全につなげる視点を養うことができる。学生にとっては、薬を扱う専門職を目指す者として、薬に関する知識だけでなく、患者への適切な情報提供やコミュニケーションの重要性を認識し、将来の責任を考える機会となる点で有意義である。	学生アンケート回答から学年ごとに抽出した主な気付きは以下のとおりです。【1年生】薬害による被害は健康被害にとどまらず、精神的・経済的負担など多面的な影響を及ぼすものであるとの理解が共通して見られた。また、薬害の歴史を学ぶことは、過去の教訓を将来の医療安全につなげるうえで重要であるとの認識が複数の回答で示された。さらに、薬を扱う専門職を目指す立場として、薬害や医薬品副作用被害救済制度に関する認知を広げる必要があるとの気付きが見られた。加えて、薬害の防止には、医薬品に関する知識の修得だけでなく、患者への適切な情報提供やコミュニケーション能力を身につけることが重要であるとの意見が多く見られた。【4年生】学生は、被害者の内臓・血管の異常や加齢に伴う困難、家族の精神的苦痛といった多面的な現実に触れ、教科書上の知識ではなく、「現在進行形の課題」として薬害を自分事として捉え直していた。また、警告後も販売が継続された経緯を人災として捉え、組織の利益よりも人命を優先する倫理観の重要性を指摘する回答が目立った。さらに、将来の薬剤師として、患者の小さな声に耳を傾け、未知の副作用を早期に察知する「最後の砦」となることへの強い使命感や、国内外の情報収集を怠らない姿勢が示されていた。	複数種類の薬害を取り上げるとともに、1年次と4年次に患者・患者家族の話を直接聴く機会を設けることで、学生は薬害を特定の事例に限られた問題ではなく、医薬品の開発、使用、情報提供、安全対策、被害救済に関わる問題として多面的に理解することができる。低学年では薬害の実態や患者・家族の視点に触れることで問題意識を形成し、高学年では専門的知識と結びつけながら、薬剤師としての情報提供、薬物治療への関与、副作用や健康被害への対応責任をより具体的に考える機会となる。
		ヒューマニズムⅣ	4年次	本人	サリドマイド			
17	日本大学	早期臨床体験	1年次	本人	サリドマイド	1年生を対象としており、今後、様々な薬に関する授業において、作用面とともに副作用面を強く考慮・意識することに役立っている。	実際の薬害患者に来て頂いているので、授業内容が強く印象に残るようである。また、薬剤師になるための学習意欲、使命感及び責任感を高めている。	実施していない。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
18	北里大学	薬と仕事Ⅱ	2年次	本人	サリドマイド	①薬害ということに目を向けられるようになる。②薬は適切に使用し、対応しなければ害となり得ることを実際の被害を通して理解できる。③被害者ご本人が講演されることで、教員が講義するよりも説得力があり、薬害への認識が高まる。④いろいろな立場からの講義を聞く中で、被害者にも加害者にもなり得ることを実感できる。⑤薬害の起こった背景を理解し、これを繰り返さないように自分達ができることを考える機会となる。⑥医療に関わる上で必要な倫理観、命の重みを感じることができる。	・自分から積極的に行動しない限り聞くことのできない、被害者の貴重な話を聞くことができ、興味深く感じた。 ・今後他の講演を探したり、自分でネットなどで調べて知識を深め、学生のうちにしかできないような経験を積んでいきたい。 ・2回の講義で、薬害だけでなく人として、医療人としてどう考えるべきかを学ぶことができ、非常にためになった。	なし
19	慶應義塾大学	人と薬	2年次	本人	サリドマイド	これまで自分の中で想像していたことは全く違う現実直面し、薬害の被害の重大さに気づく。防げるはずのことをなぜできないのか、薬の研究開発に携わるものとして、あるいは患者に薬を渡す最後の医療者としての倫理観を考えることができる。さらに、薬学を学ぶ意味について改めて考え、主体的に学習するようになる。	学生は真剣に被害者の話を聴いており、被害者の生の声を真摯に受け止めている様子がワークシートへの記載やグループワークの様子からうかがえる。また、多くの学生が、授業アンケートの中でこのように患者から学ぶ授業の重要性について述べている。	学生は複数の種類の薬害について学ぶことで、個々の薬害の特徴をつかむとともに、薬害発生要因の本質を考えるようになる。
		医療倫理	3年次	本人	スティーブン・ジョンソン症候群			
20	昭和医科大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	将来、医療を担う薬学生として、医薬品を含む化学物質の有用性の影に潜む危険性を薬害被害者の体験談から学び、ヒトの生命に関わる職責の重大さを改めて認識するとともに、高い倫理観を醸成することにつながることを期待される点。	例年医薬品の適正使用や薬害を起こさないために、学生としての学修の重要性や薬剤師としての心構えへの言及が多い。また、障がい者に対する差別・偏見を持たないことの大切さや普段からのコミュニケーションにおいて気をつけるべきことを再認識した学生が多い。	特になし
		プロフェッショナリズム④	2年次	本人	サリドマイド			
21	昭和薬科大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	薬害が発生した背景、構造は同じではなく、様々な要因が介在しているが、共通している点は生命倫理に対する軽視が伺われる点である。また、薬害は健康被害の面だけではなく、被害を受けた方に対する日常生活上の偏見も存在し、人権の尊重に対する教育の機会にもなる。 机上で勉強を行うことと、被害者の話を直接聞くことは、説得力が全く異なり、被害者や家族の立場にたって事実と向き合うことができる点。薬学出身者は将来薬に係る様々な仕事をする立場になるが、このような体験を通して、各々が薬害をけって繰り返さないという強い意志を有し、行動することに繋がる。	「被害者の方々の苦しみや苦労は、和解という形で事態が終結してもずっと残っていくものであることを学んだ」、「薬害を二度と起こしてはいけない」、「薬を扱う仕事でどれだけ大きな責任を負っているのか実感できた」などの感想が学生より寄せられ、被害者の方からの直接の講義の重要性が再確認されるものであった。	複数の種類の薬害についての授業は実施していない。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
22	帝京大学	医薬品安全性学	4年次	本人	スティーブン・ジョンソン 症候群	薬害や副作用被害については授業で学んでいるものの、実際に被害を経験された方の講演を聞くことで、授業では十分に伝わらなかった患者の苦しみや仕事・家族など日常生活への影響について具体的に理解することができる。また、副作用が生じた際の医薬品副作用救済制度の適用について、認められる場合と認められない場合についても理解することができたので、医療人になった時に必ず活かせる時が来ると思う。特に、実務実習を目前に控えた時期であることから、医療事故を決して起こしてはならないという決意を促す上でも、本講演は非常に効果的であると考えられる。	講演者に対する学生の感想文からは、講演者への思いやりや、貴重な自身の経験を共有してくださったことへの感謝の気持ちが強く感じられた。同時に、薬剤師としての社会のあり方や医療従事者としての責任感を改めて感じているようだった。グループセッションの結果として挙げられた薬剤師の役割に関する意見は非常に多様であり、いずれも実際の医療現場において重要とされる内容が多く含まれていた。特に、患者とのコミュニケーションや、薬剤師以外の医療職とのチームワークに関しては、その重要性を改めて認識した学生が多かった。また、薬剤師として自己研鑽に努め、常に知識を更新していくことも重要であるとの意見も多かった。	今年度、患者による講演を実施しているのは、スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）のみである。
23	帝京平成大学	フレッシュセミナーⅠA （薬剤師の果たすべき使命）	1年次	本人	サリドマイド 薬害エイズ	薬害被害者本人の講義は1コマ（90分間）であるが、その後2コマ（180分）で個人ワークとグループワークを行う。ワークのテーマは「患者の安全を守る薬剤師の使命」であり、「サリドマイド薬害が発生した原因、社会的背景、症状、問題点」「サリドマイド薬害は当事者、家族にどのような影響を与えたか」を考え、その考えをクラスで共有する。「患者の安全を守る使命」を深く考える機会となっている。	学生全員がレポートを提出している。薬害被害者とその家族の置かれている状況への理解、国や製薬企業の対応・薬剤師の役割への理解につながっていると考えられる。	該当なし
24	東京薬科大学	人間と薬学Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	実際に薬害にあわれた方の体験など直に聴くことにより薬害被害者やその家族の方の痛みを知ることができ、二度と同じ過ち（薬害）を起こさないための薬剤師の責任の再認識と社会制度づくりなどを考えるきっかけとしている。	実際の生の声を聴くことにより、薬の専門家ややがて指導者となる学生達に大きな印象、影響を与えている。薬の有効性と危険性の表裏一体であることを改めて実感し、薬を扱う薬剤師として責任感、知識、態度、倫理など再認識できたとの感想が多く聞かれた。	複数の薬害については行っていない
25	星薬科大学	薬学の心構えⅠ ／薬学の心構え	1年次	本人	サリドマイド	薬の専門家を目指す学生たちにとって、薬害被害者の実体験を聞くことにより薬剤師または医薬品開発者としての社会的責任を意識する良い機会である。	学生は、サリドマイド薬害を当事者の語りとして受け止め、薬害が過去の事件ではなく被害者の人生に続く問題だと実感している。対応遅れや情報共有不足への怒り・危機感を示し、薬学人として安全性、責任、患者への説明を重視し、同じ過ちを繰り返さない姿勢を強めている。また、薬害被害者の声を直接聞くことで、薬害を教科書上の知識や過去の出来事としてではなく、一人ひとりの人生に深く関わる現実の問題として受け止めている。被害者本人の言葉には強い重みがあり、身体的被害だけでなく、生活上の困難や心の苦しみにも目を向け、薬に関わる者としての責任を自覚する契機となっている。	なし
26	武蔵野大学	薬効安全性学	3年次	本人	サリドマイド薬害	学生が被害者である患者様当人の声を直接聞くことにより、薬害と被害救済への理解が深まる。	薬害の被害者本人から、治療の実態、偏見・誤解に対して考えたこと・行動したこと等の声を直接聞き、質疑応答を経験することにより、個人・社会への薬害が与える影響の大きさを認識して、薬剤師としての役割を痛感したとの感想が多い。	現時点の薬事規制の成り立ち、医薬品等による健康被害の救済制度が制定された経緯・背景を複数の薬害被害者の講演を通じて理解することは重要である。これらの経験を通じて、医薬品等に対する学生の意識が変わり、薬剤師としての責任を自覚する機会となっている。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
27	明治薬科大学	総合人文社会科学 (薬学科)	6年次	本人	サリドマイド	被害者の視点から、薬害が実際に被害者の人生、家族、日常生活にどのような影響をもたらしてきたのか、そしてどのような苦悩や困難を抱え続けてきたのかについて、学生たちに具体的にかつ説得的に伝える機会を提供できることが、なにより有意義な点である。	履修者全員にレポート（感想文）を課しているが、そこには当事者から直接話しを伺う機会に恵まれたことで、薬害が学ぶ課題を多面的に捉えるきっかけになったことが書かれている。具体的には、薬が販売された時代背景や社会状況をはじめ、被害者の人生とその苦悩、被害者の高齢化に伴う新たな課題など多岐に渡る。さらに医療者としての姿勢や責任についての気付きも多く書かれており、学生たちにとって、多くの学びがあったことが伝わってくる。	なし
28	湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド	サリドマイド薬害を通じて、医薬品の有効性と安全性、生命倫理、患者の視点、多職種連携の重要性を学ぶことができる。看護学科の1年生も同時に受講しており、薬学・看護学の学生が共に受講することで、専門職種連携教育（IPE）の機会にもなっている。	患者・被害者の体験談を直接聴講することで、教科書だけでは得られない学びが得られたとの意見が多く、医療を志す者としての責任や患者に寄り添う姿勢について理解が深まったとの感想が寄せられている。	該当なし
29	横浜薬科大学	薬学概論Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	薬害についてほとんど知識のない学生も、講師の姿とサリドマイドをめぐる政府、会社、薬局、家族、友人等の態度等の話を聞くことにより、薬害の恐ろしさ、本人、家族の苦しみを知ることができ、薬学を学ぶものとしての責任について強く考える機会となる。	本講義を受講前まで薬害問題の捉え方には学生間で大きなばらつきがあるものの、共通して第三者目線的な理解であったようである。しかしながら、受講者が理解し易いように配慮された講師の説明を拝聴するにつれて、自身のこれまでの理解と気遣いが必ずしも正しいものでなかったことを認識した受講生がほとんどで、驚きを隠せない様子であった。講義終盤、今後、一人の人として、あるいは将来薬剤師として、薬害被害者の方々に適切に対応するため、また薬害の発生を防ぐために今、自身が何をすべきかを考える姿は印象的であり、本講義を受講することによる学びの成果一つであるように感じられる。	なし
30	岐阜医療科学大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	薬物の開発、取り扱いについて、どうすることで薬害を防止できるか、薬害を最小限にとどめることができるかを考える機会になる。	かなりインパクトがあり、考えるきっかけになったと思われる。	薬害は複数存在していることを理解できる。
31	北陸大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	日本ではこれまでに数多くの薬害事件が発生し、大きな社会問題となっている。薬害被害者から薬害の実態、被害状況や遺族への差別・偏見、国や製薬企業への対応について聴講できることは大変有意義である。	薬剤師を志す者にとって、非常に有意義であり、社会的重要性も理解できたという毎年好評である。	実施していない。
32	愛知学院大学	薬学概論	1年次	本人	MMR	薬害被害者（ご家族）の方からの生の声を聞き、問題を提起してもらうことにより、単なる薬の副作用についてだけでなく薬害の問題点、将来の医療従事者としての心構えについて真剣に考えることができた。	薬害や副作用被害救済制度について理解が深まるとともに、医療従事者として患者に寄り添う姿勢の重要性について考えるきっかけとなったとの感想が多く寄せられた。	複数の薬害事例について学ぶことにより、薬害が患者や家族に与える影響を理解し、薬害の再発防止や患者に寄り添う医療の重要性について考える機会となった。また、将来の薬剤師としての責任を意識する契機となった。
		医薬品毒性学	4年次	本人	MMR			
33	金城学院大学	多職種連携の学びC	1年次	本人	フィブリノーゲン製剤によるC型肝炎被害	被害者本人ならではの、視点からのお話には説得力があります。また、感想文から、被害者本人からの訴えが学生に届いていることがわかります。	真摯な態度で、真剣に講演を聴くと同時に、多数の質問が出ています。	特にありません。
34	名城大学	プロフェッショナリズムⅠ	1年次	本人	HIV	当事者の話を聞くことは、直接的に薬害の実態が伝わる期待が大きい。	当事者の話は、訴えかけるものがあり、薬害の怖さが直接的に伝わることから、学生の反応も大きく、話が聞けて良かったとのコメントが多い。	なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
35	鈴鹿医療科学大学	薬学への招待	1年次	本人	サリドマイド事件	薬害や医療安全に関する講義や演習を通して、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性、ならびに医薬品評価、副作用救済制度等に対する理解度が向上し、認識が深まることが期待できる。また、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割と使命について考えることができる。	講義後のアンケートの感想から、被害者の声を直接聞くことで、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性について学ぶことができたという意見が多く寄せられている。また、薬害防止や医療安全に関する薬剤師の役割と使命についての考えを深め、意識づけの機会となっているとの認識も示されている。	1年次と3年次に、異なる薬害被害の実態を直接聞き、薬害被害・差別偏見問題への理解を深める機会を設けている。これにより、学年を跨いで知識や認識を深めている（3年次生は、1年次にサリドマイド事件の被害者による講演を聞く機会を既に得ている）。
		薬害・副作用学	3年次	本人	スモン事件			
36	京都薬科大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	講義を傾聴することにより薬害を根絶するために医療人として薬剤師は「何をしなければならぬのか」、「何を期待されているのか」を学ぶ。将来の医療人としての自覚を高めるとともに、「生命の尊厳」、「やさしさ、おもいやり」など豊かな人間性を涵養する。	薬害の被害者であるご本人の話を聞くことによって、多くの学生から以下のような感想が寄せられ、将来、医療に携わるものとしての自覚と責任の重さを感じ取ってくれたようです。「薬剤師は単なる知識や技術だけでなく、人としての倫理観や責任感も強く求められていることを感じた。」「薬剤師は専門知識を深めるだけでなく、常に患者の立場に立ち、倫理観を持って行動することが必要であると感じた。」「薬は人の命を救う一方で、大きな危険も伴うものであることを改めて理解した。だからこそ、その責任の重さを忘れず、一人一人の命や人生に真剣に向き合う姿勢を大切にしていきたい。」「薬剤師として、専門性と倫理観を備え、患者の安全を守るため主体的に行動できる人材でありたい。」「薬剤師は薬の専門知識に基づきつつ患者に寄り添い、その声を医療に反映させる役割を担う必要がある。」「科学の成果を人間の幸福に結びつけるためには高い倫理観が不可欠であることを学んだ。」「薬害を根絶するためには、単なる知識の修得に留まらず、医療人としての強い倫理観に基づいた行動が不可欠であることを学んだ。」「薬剤師として薬の安全性に常に注意を払い、問題に気づいた際には主体的に行動できる存在でありたい。」「薬剤師は薬害を未然に防ぐ存在として、常に誠実に患者と向き合い、命と尊厳を守る医療の一端を担っていきたく強く思った。」	実施していない
37	同志社女子大学	早期体験学習Ⅰ	1年次	本人	血液製剤によるHIV・HCV感染	・講師の澤田氏は薬害被害者であり、かつ、薬局薬剤師である。薬害の被害についてお話しいただくとともに、HIV、HCV治療薬の開発により生き延びてこられたことについてもお話しいただき、特に薬学部生に薬害と医療・医薬品の発展について学ばせることができる。（早期体験学習Ⅰ）	・血液製剤を信じた患者が被害を受けた事実衝撃を受け、深く考えさせられた。科学的根拠だけでなく、患者の立場に立て考える姿勢が重要だと感じた。（早期体験学習Ⅰ）	薬害の種類によって、医学・薬学的専門知識が必要な場合と、問題の理解にはそれほど専門知識が必要ないものがあり、専門科目の進捗度に合わせ、低学年・高学年にわけて行うことは、教育効果が高いと考えられる。また、一口に薬害と言っても、医学・薬学的問題以外に、社会学的問題などが関係して多種多様であり、それぞれについての理解を深めるには、講義ではカバーできない点も多く、できるだけ多くの例を紹介すべきだと考える。
		医療安全性学	4年次	本人	スモン	・薬害の事実だけでは、医療人として大事な患者心理を十分に理解できるとは言い難い、その点で患者本人の講演を拝聴することは、薬害を深く理解する上で、重要な機会となることが利点であると考えている。（医療安全性学）	・約1時間の講演であったが、学生は真剣に拝聴しており、メモも積極的にとっていた。レポートからも多角的に薬害をとらえていることが確認された。（医療安全性学）	
38	立命館大学	薬学応用演習	2年次	本人	サリドマイド HIV クロイツフェルト・ヤコブ病 スモン 肝炎 筋短縮症	薬害被害者の方やご家族の苦痛について直接お話いただき、グループ学習に加わっていただくことで、学生の理解がより深まり、将来の医療人として二度と薬害が起こらないようにとの自覚が高まる。発表会にも薬害被害者の方が参加していただき、学生の発表に対してもコメントしていただけるので、有意義な会となっている。	学生から提出されたミニレポートより一部抜粋 ・多くのことを学べた ・更に理解が深まった ・事前の発表準備で担当の薬害について調べ、どのような被害があり、医療関係者が薬害を防ぐため何ができるかを考えていた。しかしお話を伺う中で、被害者や家族の方々は、実際に被害に遭っていない人には全てを押し量ることができない、苦痛や憤りを感じているとわかった。そして、薬害の根絶の重要性を痛感した。 他	薬害ごとにグループ分けし、各グループに薬害被害者の方や教員が入りグループ学習を行う。最後に発表会を行うことで共有しているため、効果的である。特に、薬害被害者の方々からのコメントは有意義である。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
39	大阪医科薬科大学	多職種連携論2 -医療と専門職	2年次	未定	B型肝炎	この講義をうけて、より具体的に何が問題で、その被害が発生したのか、薬害の発生する課程や、また再発防止のために何ができた/できるのか、を学生が考えることができる。	・薬害は薬の副作用だけで起きるものではないことを知った。疾病による差別をなくすために薬剤師は何ができるのかを考える機会になった。 ・二度と同じ事を起こさない為に、過去の薬害と向き合って、学んで、薬による被害者を出さないようにしないと感じた。私も学生のうちに沢山の知識を付けて社会に貢献できるようにしたいと思った。	薬害について、被害にあわれた方の意見・体験等を直接聞く機会等を複数回設けることで、再発防止について議論をするなど、薬害に関する理解を深めることが出来ている。
		多職種連携論3 -医療倫理	3年次	本人 家族	陣痛促進剤			
40	大阪大谷大学	医療倫理学演習	2年次	本人 家族	注射による筋拘縮症 MMRワクチンほか	被害者及びその家族の声を直接お聴きすることは、将来医療従事者として医療の現場に出る薬学生たちにとってかけがえのない経験になると考える。また、医療の倫理的側面に目を向け、自分自身の倫理観や正義感、人間性を深めさせる上で非常に有効であり、薬学生として、単に知識や技術を修得すればよいのではないことを認識する機会となる。さらに、安全性を確保するための医薬品の開発及び供給に係るシステムやレギュレーション、救済の制度を含めた総合的な知識の修得、理解を促し、医療専門職としての薬剤師に求められることや、患者とそこご家族の真の救済のために果たすべき役割、社会的使命に対する自覚を促す契機となる。	学生達の授業に取り組む姿勢は通常の授業より緊張感・真剣味が感じられ、質疑においても各講師の講演に対して感謝の言葉から始めるなど、課題や討論に真摯に向き合う態度が認められた。学生の感想として代表的なものを以下に示す。 ・薬剤師になれば今後のワクチンや薬などの使用方法などをしっかりと考えてこのようなことが起きないようにできたらいいなと思いました。 ・薬剤師として、副作用を疑い、制度を説明することは、患者さんを守るために欠かせない行動だと改めて感じました。 ・私は薬剤師を目指す者として目の前の人を守る姿勢を大切にしたい薬剤師になりたいと強く思いました。 ・薬害を二度と起こさないようにするために医療従事者、企業、患者さん等、一人一人が責任を持ってやっていかなければ行けないと講義を聞いて学びました。	今回は講師の関係でたまたまMMRワクチンの被害児家族2名にお越しいただいたが、例年は2種の薬害について当事者と家族を1名ずつお願いしている。同じ当事者の2名についての話ではあったが、視点が異なり、学生たちには多角的にMMRワクチンの薬害について学ぶことができた。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
41	近畿大学	早期体験学習	1年次	本人	サリマイド	1.医療・医薬品の安全性に関する認識を深めることができる。 2.医薬品の安全かつ適正使用に関して認識を深めることができる。 3.代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段について知ることができる。 4.医療・医薬品の安全供給の大切さを理解できる。 5.医療人として薬剤師が果たせる役割を認識し、薬害防止に努めることが理解できる	●「薬害の本質は人為的な判断や対応ミスにある」と気づかされた。 ●「薬を使う人、処方する人、承認する人、販売する人」すべてが関与しており、その責任と影響を重く受け止めた。 ●被害者である間宮氏の体験（就学拒否や社会的偏見など）を通じ、教科書では得られない「生きた知識」として薬害を学ぶことができた。 ●一人の人生への深刻な影響が、心に強く残った。 ●「薬を安全に使うために、十分な説明と確認が必要」という意識が高まり、将来医療職に就く立場としての自覚が芽生えた。 ●特に妊娠の可能性など個別事情への配慮と説明責任の重要性を感じた。 ●「薬害について学校で教わってこなかった」ことに違和感を覚え、教育現場でもっと被害者の声を聞くような講義を取り扱ってほしいと思った。 ●被害者に対して「かわいそう」や「心配」といった一方的な善悪が、かえって失礼や不快感につながることに理解が深まった。 ●「必要としている支援をまず本人から聞くことが重要」という考え方に共感した。	サリマイドのみの実施のため割愛
		医薬品開発論	2年次	本人	サリマイド			
42	摂南大学	薬学基礎演習Ⅰ	1年次	家族	陣痛促進剤被害	当事者（家族）の話を聞くことで、薬害を発生させないための行動を認識し、より責任を自覚することにつながる。	医療現場における説明責任と患者自身の選択権について深く考える機会となったとの反応があった。	特になし
43	神戸学院大学	医療の中の薬学	2年次	本人	サリマイド薬害	薬害被害者の方のご講演は、学生が、薬剤師のあり方や倫理規範等を考える上で大変貴重な機会になっていると思われます。また、学生が薬害被害者の方（または患者様）とふれあい、社会のニーズを肌で感じるにより、学生の学習モチベーションや、医療専門職としての自覚・責任感が向上していることが推察されます。	学生からは、概ね良好な反応が得られています。	さまざまな薬害について深く学ぶことは、医療職としての適正なかかわりを見出す上で、常にそれでよいのかという振り返りの姿勢の元ともなっています。
44	神戸薬科大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリマイド	●薬害被害者から直接聞くことで、学生が「薬害は歴史上の出来事ではなく、現在も起こり得る社会問題」であると強く認識できる。 ●行政、製薬企業、医療機関、患者の要因が複雑に絡む問題であることを多面的に学べる。	現状の医薬品に対する認可制度・救済制度などの歴史・知識が深められている。	複数の種類の薬害については実施していない
45	兵庫医科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	スモン	学生が肌で感じる機会を提供することにより、教員から教わるのとは違った視点で問題を考えることができる。すなわち、薬害をより身近な問題として捉えることができ、薬害防止に関する意識の向上が期待できる。	学生は、非常に真剣な態度で講師の話に耳を傾けていた。講義後のレポート（感想文）では、副作用から薬害へ拡大を阻止することも薬剤師の職務であり、そのためは、患者や医療従事者との良好なコミュニケーションが大切であるとの意見・感想が多かった。	薬害については複数の種類ではないため、該当なし。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
46	武庫川女子大学	初期演習II (薬学科)	1年次	家族	陣痛促進剤（2025年）	薬学科に学ぶ学生が、過去の薬害についてその原因と社会的背景を学び、今後薬剤師として社会に貢献する時、薬害発生を未然に防止することは、薬剤師の社会に対する大きな責務の一つである。薬学を学ぶ初期の段階でこの点について学ぶ事は大変重要である。薬害被害者の方から、実際の生のお声をお聞きする講演討論会を開催することは、将来、薬剤師となる学生にとって大変有意義であると考えられる。	医薬品の適正使用の重要性を感じた。薬の知識だけでなく、過去にあった薬害と向き合うことの大切さを痛感した。将来、薬剤師として、薬に関しての正しい知識を身につけ、患者さんに十分な説明をしたい、自分の利益より患者さんの健康の安全を優先できる薬剤師になるべきだと感じた。医療チームの一員として、自分が異変に気がついたら声をあげられるような勇気を持つことが必要だと思った。積極的に患者さんと関わり、患者さんの立場に立って考える必要があると思った。（2025年度 学生）	なし
47	就実大学	薬学対話演習	2年次	本人	サリドマイド	薬害被害者ご本人の生の声を通じて、教科書だけでは得られない当事者視点を学生に提供できた。個人の体験として理解させることができた点が最大の利点である。	実際に話を聞いた、という経験が学びになったという声が多い。また、薬剤師を目指すに当たり、意識の持ち方のプラスになったと言う意見も多かった。	実施なし
48	広島国際大学	薬学へのいざない	1年次	本人	サリドマイド	被害者の語りを聴くことにより、その人と出会い、その人の証人の一人となって、それぞれの人を尊重することの重要性に気付くことができる。代替の効かない個人の語りを通して、聴き手である学生は自らストーリーを組み立てることによって感じ取り、相手のことを理解できるようになる。これらの過程で、ナラティブコンピテンスの醸成につながる。	被害者や家族の心境を想像できるようになってきた。薬害は薬の問題ではなく人の問題であるという点について理解が深まった。在学時、そして卒業後に醸成していかなければならない力に気付くことができるようになった。また、医療従事者が差別を助長する行動をとっていたことに驚き、その理由が正しい知識の欠如にあることに気付き、教育の重要性、そして周囲の人に伝えることの重要性を認識するようになった。	被害者の語りを聴くことにより、その人と出会い、その人の証人の一人となって、それぞれの人を尊重することの重要性に気付くことができる。代替の効かない個人の語りを通して、聴き手である学生は自らストーリーを組み立てることによって感じ取り、相手のことを理解できるようになる。これらを繰り返し実施できるため、プロフェッショナリズムに必要な人間性について醸成ができてくる。
49	福山大学	生命倫理	3年次	本人	サリドマイド	薬害を歴史の一部としてではなく、現代の課題でもあることを学習者が認識するとともに、医療人としてのプロフェッショナリズムを醸成する学習の一部になっている。	大多数の学生が真摯な姿勢で聴講し、課題レポートからは被害者の立場を尊重することの重要性に気付いたものと察せられることが多い。	薬害が契機となって、当時の薬事法の大改正が行われたことなど、現在の医療制度とも深く関わっていることを理解することを促している。
50	安田女子大学	薬害を知る （「まほろば教養ゼミ」内）	3、4、5、6年次	本人	薬害エイズ	医薬品を適正に使用することの重要性を学び、医療従事者に求められる良識的かつ公正な態度を醸成するための良い機会となっている。	将来、人の命に関わる職業に就く者として、責任があることを常に忘れず勉学に励みたい、等の感想が寄せられており、薬剤師に必要な倫理観、使命感の醸成に繋がっている。	6年間を通して様々な薬害に関して被害者の声を直接聞くことにより、座学で学んだ内容をより深く理解すると共に、医療従事者としてのプロフェッショナリズムを醸成する良い機会となっている。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
51	徳島文理大学	薬学概論	1年次	本人	スモン	薬害の内容の詳細が理解ができる点。	昨年度の例を示す。 1) スモン患者の方から直接お話を伺った今回の講義は、私にとって非常に貴重な経験となりました。当事者の言葉で聞くことでこれまでの知識が現実として実感を伴うものになりました。また、特に印象に残ったのは、薬によって身体的な障害だけでなく社会的な偏見や孤立とも向き合ってきたことです。この講義を通じて、患者さんの立場に立って寄り添い、安心と信頼を届けられる薬剤師が必要とされるのだと明確になりました。そして、過去の薬害忘れず、常に患者さんに対して誠実な姿勢を持ち続けることが、薬剤師としての使命であると感じました。今回の講義で得た気づきを、今後の学びや将来の実務にしっかりと活かしていきたいと思います。 2) まず当事者の方のお話を直接聞くという貴重な機会を頂いたことを感謝しています。私は正直18年間生きてきた中で、今も尚この世に薬害スモンで苦しむ人がいるのだということを知りませんでした。本当に情けないと思っています。今日のお話の中で、戦後キノホルムが安価でよく効く薬として売られていたこと、その結果日本で薬害事件が多発してしまったことを聞き、大変心が痛いです。スモンは10人いたら異なる10の症状が起こるほど症状が多岐に渡り、現在でも新たな症状で苦しむ病氣だと知りました。この病氣と生涯闘っている人がいるのだと自分に言い聞かせたいです。薬剤師となった自分にできることとして、「患者を守る防波堤」となり、企業から買ったものを安易に使うのではなく、自分の目でしっかり確かめダメなことはダメだといひ、自分の意見を貫くことができる立派な人材を目指します。薬害事件を喰い止め、健康になるために使った薬で人生を失われる人が居なくなっていほしいです。私は患者様の立場に立って患者様に寄り添えらる、気軽に相談できる病院薬剤師になります。お忙しい中私たちのために京都から来てくださり本当にありがとうございました。	実施なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
52	徳島文理大学 (香川薬学部)	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	薬の効果について、あまり深く意識せず過ごしている学生に、薬はそれによって人の生命・健康維持に大きく貢献しているが、一方で使用を誤ると生命に直接影響を及ぼすものであるということを深く印象付けることができる。加えて、被害者自身による講義は、薬剤師あるいは薬の創製をめざす学生に、責任ある職種であることの自覚喚起をもたらすものである。	サリドマイド被害者を目の当たりにして、本来人間の健康を守るはずの薬が、健康を損ない、奇形を発生し、場合により死に至ることを学生達は実感する。このサリドマイドが多発性骨髄腫の治療薬として2008年に日本で再び承認された事実を知り、驚きを隠せない様子である。しかし、サリドマイドはハンセン氏病に伴う皮膚炎の治療薬として既にアメリカで販売が承認されており、薬の持つ2面性と、これに係わる研究者、製薬企業、薬剤師の倫理観の重要性を改めて理解することができる。また、サリドマイドには光学異性体であるR体とS体が存在し、R体に鎮静・催眠作用があることがわかったが、当時この分離法が成熟していなかったため悲劇に繋がった。しかし、後にR体も体内でS体に変化することやサリドマイド投与による動物種差が明らかになり、この事件をきっかけに新薬の構造・物性評価がより厳密に行われるようになった。これにより、人類は貴重な教訓を得ることになり、薬剤師として将来活躍する学生にとっても薬害問題、創薬及び市販後調査について真剣に考える機会を与える講義となっている。	複数の薬害について被害者から聞く授業を行っていない。
53	松山大学	薬剤師と医療	1年次	本人	サリドマイド	特別講師の実体験をもとに薬害について学べることは、医療機関等における体験学習などと同様に、直接的な関心・感動をもたらし、将来の医療人としての自覚を醸成する上で極めて有意義である。医療人としての自覚、薬の問題点に対する認識、副作用被害に対する国の制度に関する知識、薬剤師としての対応などについて低学年から学ぶことで薬学部で学ぶ意義を再認識し、勉学に対するモチベーションを高めることができる。	薬害を学ぶことの意義については、概ね肯定的な感想が得られている。たとえば、「実際の患者さんの話も聞きながら、薬害防止についても学べる貴重な体験をした。患者さんとのコミュニケーションや医師との連携を大切に、副作用が少しでも防げたら良い。薬剤師は患者様の体調や異変に気づき、適切な治療が受けられるように受診を勧めることが大切だ」との感想、「将来の薬剤師となる上で『決して薬害を起こしてはならない』という基本的な心構えが出来た」という感想、「薬害被害者の講演に続けて、グループ・ディスカッションを行うことによりさらに理解が深まった」といった感想があった。	1年次2年次3年次と続けて、異なる種類の薬害について学ぶメリットについて肯定的な感想が学生から寄せられている。
54	第一薬科大学	薬剤師のための医療入門	1年次	本人	C型肝炎（予定）	「薬害の原因と背景及びその後の対応、薬害患者や家族の苦痛とこれらを回避する手段」等について被害者ご本人の声を聞くことで、学生が薬害を身近な問題として捉える機会となり、薬剤師としての在り方や、社会的弱者に寄り添うホスピタリティマインドの醸成が期待できる。	実施後に検討する。	未定（実施後に検討する）
55	福岡大学	医薬品安全性学	3年次	本人	スモン	薬害被害者から薬害に関する生の声を聞くことによって、学生へ薬害について真剣に考える機会を与えることができる。そして、医薬品の適正使用における薬剤師の役割を理解し、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知ることができる。	薬害被害者の生の声を聞くことで、薬害について真剣に考えるようになった。そして、今後薬剤師として生きていく自身の責任の重さを痛感し、良質な医療人になることへの強い意識を見ることができた。	なし
56	国際医療福祉大学 (福岡薬学部)	早期体験実習 (薬害講義)	1年次	本人	C型肝炎	薬害の事例を学ぶことで、学生は薬剤師としての倫理観や責任感を早期に育むことができ、医薬品の安全性と患者の健康に対する意識を高め、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの基礎を培うことができる。薬学部1年生に対する薬害の講義は非常に有意義であり、将来の薬剤師としての基礎を築くための重要な教育となり得る。	C型肝炎など、日常生活ではなかなか実感できない「薬害」について学び、薬害が起こらない社会の実現に向けて理解を深めることができた。学生からは「薬害に苦しんでいる人がこんなにも多くいることを初めて知った。薬害問題を繰り返してはいけなく強く感じた」といった感想が聞かれ、人権問題をふまえた発展的な学習ができたと思う。	臨床薬学、薬学概論や医薬品関連法規など、異なる視点から薬害について学ぶことで、学生は薬害の複雑さと多面的な影響を深く理解することができると考えられる。すなわち、臨床薬学、薬学概論では患者の視点から薬害の影響を学び、薬事関連法規では法的な側面や規制の重要性を理解していくことが可能となる。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
57	長崎国際大学	薬学入門	1年次	本人	B型肝炎	まず弁護士の方に薬害に対する被害者団体の活動についてご説明いただき、次いで被害者ご自身に登壇していただき、ご自身の体験について語っていただいている。毎年、被害者団体・被害者の状況を生の声として学生に伝えていただいている。この講演は、薬剤師を目指す学生にとって有意義であり、学生も真剣に聞いている。薬害問題等、薬の負の部分の理解の一助になっている。	被害者本人の生の声、被害者や家族に関する意味の無い偏見を聞くことによって、B型肝炎をはじめとする薬害の真の意味の重大さとこれら無くすためには、薬剤師として何をすべきかを考えさせる端緒となっている。	過去に、C型肝炎、スモン、HIV被害者やワクチン被害者の親等を招いて、講演をして頂いたが、内容によって反応は違う場合はあるが、薬学を学ぼうとする学生にとっては薬害の真の意味を理解するには一様に意義のある講演であると理解している。
58	崇城大学	薬学概論	1年次	本人	C型肝炎	学生が薬害について関心を持ち、真剣に考えるようになった。	薬学概論8回の授業終了後に課されるレポートで、例年多くの学生が上記授業内容に感銘を受けたという意見を書いている。	なし
59	九州医療科学大学	薬学入門	1年次	本人	HIV サリドマイド イレッサ	学生の薬害への関心・理解を深めることができる。また、将来薬剤師となったときに、薬の薬効について患者の意見を十分聞く大切さを理解させることができる。	始めて薬害を理解できたことや薬剤師としての患者の症状を聞く大切さを理解したようである。また、薬剤師は科学者として症状を分析できる能力が必要であることを理解した学生もいる。	様々な薬害があり、多くの事例を知ることにより、薬の薬効に対する薬剤師としての判断が変わってくること、常に副反応に注意を向けなければならないこと理解したようである。 なお、次年度よりB型肝炎被害者様の講話を計画中である。

令和8年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関する調査の集計結果(附属病院関係)

① 薬害被害者や医療被害者、全国薬害被害者団体連絡協議会の関係者を講師に招いた職員研修等の実施状況(調査対象:42国立大学病院(医系本院))

令和4年度 12/42大学

令和5年度 13/42大学

令和6年度 10/42大学

令和7年度 11/42大学

令和8年度 10/42大学(令和8年7月時点での実施予定)

② カルテ開示請求の周知状況(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

カルテ開示請求ができる旨を周知している大学 81/81大学

③ カルテ開示請求の開示状況

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

請求者	令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)				令和6年度(令和6年4月～令和7年3月)				令和7年度(令和7年4月～令和8年3月)			
	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数
	A=B+C+D	B	C	D	E=F+G+H	F	G	H	I=J+K+L	J	K	L
患者本人 (法定代理人を含む)	4,897	4,749	127	21	5,168	5,019	128	21	5,278	5,097	147	34
家族	677	655	20	2	719	687	27	5	779	761	14	4
遺族	969	907	62	0	951	897	54	0	972	917	51	4
代理人 (弁護士等)	3,622	3,230	392	0	4,673	4,113	560	0	5,332	4,736	594	2
その他	1,391	1,378	13	0	2,150	2,131	19	0	2,826	2,800	10	16
合 計	11,556	10,919	614	23	13,661	12,847	788	26	15,187	14,311	816	60

※未確定件数とは、開示に必要な手続きが完了していない件数である。

④ カルテの開示手数料及びコピー代

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

(1) カルテの開示手数料(税込)

(上段:令和7年度)

下段:令和8年度

	無料	1,000円～	2,000円～	3,000円～	4,000円～	5,000円～
国立大学病院	(41) 39	-	(1) 1	(-) 1	-	(-) 1
公立大学病院	(8) 8	-	-	-	-	-
私立大学病院	(2) 1	(1) 1	(2) 2	(11) 9	(2) 2	(13) 16

(2) 白黒コピー代(1枚あたり)(税込)

(上段:令和7年度)

下段:令和8年度

	無料(※)	10円～	20円～	30円～	40円～	50円～
国立大学病院	-	(1) 1	(31) 29	(7) 9	(2) 2	(1) 1
公立大学病院	-	(6) 6	(2) 2	-	-	-
私立大学病院	(2) 2	(8) 7	(9) 8	(4) 4	(1) 0	(7) 10

※ カルテ開示手数料に含まれるため、コピー代のみの価格設定なし

令和8年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関するカルテの保存年限に係る調査の集計結果(附属病院関係)

カルテの保存年限

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院)。令和8年7月時点)

(1)紙媒体の外来カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(9) 9	(13) 13	(1) 1	(7) 7	(0) 0	(9) 9	(3) 3
公立大学病院	(3) 4	(2) 1	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(2) 2	(0) 0
私立大学病院	(12) 12	(11) 11	(1) 1	(4) 4	(0) 0	(1) 1	(2) 2

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテのみで紙カルテを保有していない。 など

(2)紙媒体の入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(9) 9	(12) 12	(0) 0	(10) 10	(1) 1	(7) 7	(3) 3
公立大学病院	(3) 4	(2) 1	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(2) 2	(0) 0
私立大学病院	(7) 7	(12) 12	(0) 0	(8) 8	(0) 0	(2) 2	(2) 2

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテのみで紙カルテを保有していない。 など

(3)電子媒体の外来・入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(1) 1	(2) 2	(0) 0	(2) 2	(1) 1	(35) 35	(1) 1
公立大学病院	(2) 2	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(5) 5	(0) 0
私立大学病院	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(2) 2	(0) 0	(28) 27	(0) 1

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテ導入後全てのデータを保存しているが、今後保存年限について検討。

国公立大学病院におけるカルテ保存年限(運用状況) (令和8年7月現在)

永年：運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など
 その他：電子カルテのみで紙カルテを保有していない。
 電子カルテ導入後全てのデータを保存しているが、今後保存年限について検討。 など

番号	大学病院名	紙媒体で保存している 外来カルテの保存年限	紙媒体で保存している 入院カルテの保存年限	電子媒体で保存している カルテの保存年限
01	北海道大学病院	5年	5年	永年
02	旭川医科大学病院	10年	10年	永年
03	弘前大学医学部附属病院	10年	10年	永年
04	東北大学病院	10年	10年	永年
05	秋田大学医学部附属病院	20年	20年	永年
06	山形大学医学部附属病院	5年	5年	永年
07	筑波大学附属病院	永年	20年	その他
08	群馬大学医学部附属病院	永年	永年	永年
09	千葉大学医学部附属病院	その他	その他	永年
10	東京大学医学部附属病院	10年	10年	永年
11	東京医科歯科大学病院	5年	5年	5年
12	新潟大学医歯学総合病院	永年	永年	永年
13	富山大学附属病院	5年	20年	永年
14	金沢大学附属病院	20年	20年	永年
15	福井大学医学部附属病院	5年	5年	永年
16	山梨大学医学部附属病院	その他	その他	永年
17	信州大学医学部附属病院	20年	20年	永年
18	岐阜大学医学部附属病院	10年	10年	永年
19	浜松医科大学医学部附属病院	5年	5年	永年
20	名古屋大学医学部附属病院	5年	5年	永年
21	三重大学医学部附属病院	5年	5年	永年
22	滋賀医科大学医学部附属病院	10年	10年	永年
23	京都大学医学部附属病院	20年	20年	30年
24	大阪大学医学部附属病院	その他	その他	20年
25	神戸大学医学部附属病院	永年	永年	永年
26	鳥取大学医学部附属病院	永年	永年	永年

番号	大学病院名	紙媒体で保存している 外来カルテの保存年限	紙媒体で保存している 入院カルテの保存年限	電子媒体で保存している カルテの保存年限
27	島根大学医学部附属病院	永年	5年	永年
28	岡山大学病院	10年	10年	永年
29	広島大学病院	永年	永年	永年
30	山口大学医学部附属病院	10年	10年	10年
31	徳島大学病院	7年	7年	7年
32	香川大学医学部附属病院	20年	20年	永年
33	愛媛大学医学部附属病院	永年	永年	永年
34	高知大学医学部附属病院	10年	10年	永年
35	九州大学病院	10年	10年	永年
36	佐賀大学医学部附属病院	20年	20年	永年
37	長崎大学病院	10年	20年	永年
38	熊本大学病院	20年	20年	20年
39	大分大学医学部附属病院	永年	永年	永年
40	宮崎大学医学部附属病院	15年	30年	永年
41	鹿児島大学病院	5年	5年	永年
42	琉球大学病院	7年	7年	永年
43	札幌医科大学附属病院	5年	5年	永年
44	福島県立医科大学附属病院	5年	5年	5年
45	横浜市立大学附属病院	永年	永年	永年
46	名古屋市立大学病院	5年	5年	永年
47	京都府立医科大学附属病院	永年	永年	永年
48	大阪公立大学医学部附属病院	20年	20年	20年
49	奈良県立医科大学附属病院	10年	10年	永年
50	和歌山県立医科大学附属病院	5年	5年	5年
51	岩手医科大学附属病院	10年	10年	永年
52	東北医科薬科大学病院	5年	10年	永年
53	国際医療福祉大学成田病院	永年	永年	永年
54	自治医科大学附属病院	5年	20年	永年
55	獨協医科大学病院	5年	5年	永年

番号	大学病院名	紙媒体で保存している 外来カルテの保存年限	紙媒体で保存している 入院カルテの保存年限	電子媒体で保存している カルテの保存年限
56	埼玉医科大学病院	20年	20年	永年
57	北里大学病院	20年	20年	永年
58	杏林大学医学部付属病院	5年	5年	永年
59	慶應義塾大学病院	10年	10年	永年
60	順天堂大学医学部附属順天堂医院	5年	5年	永年
61	昭和医科大学病院	10年	10年	永年
62	帝京大学医学部附属病院	20年	20年	永年
63	東海大学医学部付属病院	5年	5年	永年
64	東京医科大学病院	10年	10年	永年
65	東京慈恵会医科大学附属病院	6年	10年	永年
66	東京女子医科大学病院	15年	20年	永年
67	東邦大学医療センター大森病院	10年	20年	永年
68	日本大学医学部附属板橋病院	その他	その他	永年
69	日本医科大学付属病院	10年	10年	永年
70	聖マリアンナ医科大学病院	5年	10年	永年
71	金沢医科大学病院	10年	10年	永年
72	愛知医科大学病院	5年	10年	永年
73	藤田医科大学病院	10年	20年	永年
74	大阪医科薬科大学病院	10年	20年	20年
75	関西医科大学附属病院	その他	その他	20年
76	近畿大学病院	5年	5年	永年
77	兵庫医科大学病院	5年	10年	永年
78	川崎医科大学附属病院	5年	5年	永年
79	久留米大学病院	5年	5年	その他
80	産業医科大学病院	20年	永年	永年
81	福岡大学病院	10年	10年	10年